

官報

號外

大正十五年二月十日 水曜日

内閣印刷局

○第五十一回衆議院議事速記第十四號

大正十五年二月九日(火曜日)午後一時十五分開議

議事日程 第十三號

大正十五年二月九日

午後一時開議

第一 労働爭議調停法案(政府提出)

第二 治安警察法中改正法律案(政府提出)

第三 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員

第四 明治四十年法律第二十一號中改正法律案(樺太ニ於ケル租税ニ關スル件)(政府提出)

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員

第六 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員

第八 教育改善及農村振興基金特別會計法中改正法律案(政府提出)

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員

第十 造船局工場其ノ他改築費ニ關スル法律案(政府提出)

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員

第十二 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案(旭山一郎君外八名提出)

第十三 議院法中改正法律案(武藤金吉君外十九名提出)

第十四 漁業法中改正法律案(谷原公君外二名提出)

第十五 民事訴訟法中改正法律案(谷原公君外一名提出)

第十六 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案(望月圭介君外二十二名提出)

第十七 治安警察法中改正法律案(清瀬一郎君外一名提出)

第十八 漁業財團抵當法中改正法律案(中村嘉壽君提出)

○議長(粕谷義三君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔書記官朗讀〕

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

教育改善及農村振興基金特別會計法中改正法律案

造船局工場其ノ他改築費ニ關スル法律案

大正十二年度歳入歳出總決算

大正十二年度各特別會計歳入歳出決算

大正十二年度歳入歳出決算検査報告

(以上二月八日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

寺院境内地無償下戻ニ關スル法律案

提出者 安藤 正純君 岩崎 勳君

山口 義一君 太田信次郎君

加藤 知正君

寺院境内地無償下戻ニ關スル法律案

提出者 福井 甚三君 川原 茂輔君

松浦五兵衛君 三輪市太郎君

高見 之通君

古社寺保存法中改正法律案

提出者 田中 万逸君 森田 茂君

河野 曉君 關 俊吉君

岡本實太郎君

倉吉勝山間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 山谷徳治郎君 山耕 儀重君

全國蠶絲業者ニ對シ補成資金融通ニ關スル建議案

提出者 佐藤富十郎君

自營林業獎勵ニ關スル建議案

提出者 村山喜一郎君

國有林ノ文化的施設ニ關スル建議案

提出者 村山喜一郎君

廣瀨鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 荒川 五郎君

河野 曉君

吉田 眞策君

我カ國國號ノ統一顯正ニ關スル建議案

提出者 由谷 義治君

澁川長野原間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 木村三郎君

佐賀神埼西驛中間ニ停車場設置ニ關スル建議案

提出者 加藤十四郎君 中野 實君

帝國在郷軍人會國庫補助ニ關スル建議案

提出者 長田 桃藏君 三善 清之君

尾張戸神社昇格ニ關スル建議案

提出者 坂井 大輔君 青木 精一君

尾張戸神社昇格ニ關スル建議案

提出者 丹下茂十郎君

福井縣三國港築港並竹田川改修ニ關スル建議案

提出者 熊谷五右衛門君

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

(以上二月六日提出)

森林政策ニ關スル質問主意書

提出者 佐藤富十郎君

癩政策ニ關スル質問主意書

提出者 木村三郎君

東洋政策ニ關スル質問主意書

提出者 清水市太郎君 原 夫次郎君

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス〕

一昨六日理事補選ノ結果左ノ如シ

大正十四年勅令第二百四十五號(承諾ヲ求ムル件)(牛ノ傳染性肋膜炎ノ防遏ニ關スル件)委員

理事 谷口源十郎君(理事青木知四郎君補闕)

一昨八日常任委員補選ノ結果左ノ如シ

第四部選出 決算委員 金田平兵衛君(佐藤球三郎君補闕)

第五部選出 豫算委員 佐藤球三郎君(金田平兵衛君補闕)

一本月六日勅令第二百四十五號(承諾ヲ求ムル件)(牛ノ傳染性肋膜炎ノ防遏ニ關スル件)委員青木知四郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ谷口源十郎君ヲ日本興業銀行外二銀行ノ對支借款關係債務ノ整理ニ關スル法律案委員高山長幸君辭任ニ付其補闕トシテ杉宣陳君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮リ致スコトガアリマス、第一部選出豫算委員鳩山一郎君ヨリ常任委員辭任ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補選選舉ヲ行ヒ御報告ヲランコトヲ望ミマス、本日ハ質問日デアリマスガ、議案ノ都合ニ依リマシテ質問ハ延期致シマシタ、其事ヲ一言御断リ申上ゲテ置キマス——只今砂田重政君ヨリ成規ノ賛成ヲ經テ、綱紀問題ニ關シ江木法相ノ行動ニ對スル緊急質問ヲ提出セラレマシタ、此際日程ヲ變更シテ之ヲ許スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス——政府モ日程變更ニ同意セラレマシタ、仍テ此際提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス砂田重政君

綱紀問題ニ關シ江木法相ノ行動ニ對スル緊急質問(砂田重政君提出)

〔砂田重政君登壇〕

○砂田重政君 諸君、私ハ此國務多端ノ際、殊ニ多數ノ法律案モ審議セラレマスル日ニ當リテ、特ニ時間ヲ御制愛ヲ願ヒマシテ、此緊急質問ヲ致シマスルコトハ、洵ニ遺憾ニ堪ヘザル所デゴザイマスルガ、事ハ國政ノ進行ノ上ニ絶大ナル關係ノアル問題デゴザイマスル、私ハ總理大臣及司法大臣ニ對シテ緊急質問ヲ致シタト思フノデゴザイマスルガ、私ノ質問セント欲スル所ハ一切ノ推測ヲ省キ、總テノ事ハ悉ク證據ニ基キテ、明瞭ニ之ヲ質問致シタト思フノデゴザイマス(拍手)過日本會議ノ席上ニ於キマシテ、同僚ノ内田信也君ヨリ政府ノ高官中ニ於テ甚ダ面白カラザル經歷ヲ有スルガ如キ者ハ、斷ジテ此政府高官中ニ無イト云フコトヲ、總理大臣ハ明瞭ニ御答辯ニ相成リマシタ、洵ニ其明確ナル御答辯ニ敬服ヲ致シタ者デゴザイマスルガ、私ノ茲ニ質問セント欲シマスル事ハ、先ヅ總理大臣ニ對シテ、若シ現在ノ閣員中ニ於テ特ニ社會取締ノ上ニ最大ノ責任ヲ有セラレル方ガ、窃ニ天下知名ノ士ヲ陷レ、之ヲ社會的二葬リ去ラント企テ、自ら金品ヲ與ヘ、其作戦ヲ助長シ、煽動シテ、遂ニ其目的ヲ達

シテ、更ニ金品ヲ贈與スベキコトヲ約スル如キ者ガ若シアリマシタナレバ、之ニ對シテ總理大臣ハ如何ナル處置ヲ御執ニ相成ルカ(拍手)又總理大臣ノ責任ハ如何ニシテ御盡シナルカト云フコトヲ伺ヒタイノデゴザイマス、而シテ其假定ノ事實ニ對シテ、如何ナル事實ヲ以テ斯様ナ質問スルカト云フコトニ付キマシテハ、是カラ私ガ司法大臣ニ、質問ヲ致シマスル點ヲ御聽取リヲ願フタナレバ、事實ハ明瞭ニ相成ルト思フノデゴザイマス(拍手)司法大臣ニ對スル質問ハ、現司法大臣江木君ハ、其内閣書記官長在職中、即チ昨大正十四年三月上旬其青山ノ私邸ニ於テ小橋榮太郎ト會見ヲ致シ、内田良平ヲ社會的二葬リ去ル計畫ヲ委囑致シ、自ら著手金品ヲシテ金三百圓ヲ贈與シタル事實アリヤ否ヤ(拍手)此事實ガ有ルカ無ルカ、更ニ其後事成リタル後ニ、神田鐵藏ヲ手ヲ經テ金五百圓ヲ贈リタル外ニ、當時ノ警視總監ヨリ金二千二百圓ヲ贈與スベキ約束ヲ結ビタル事實アリヤ否ヤ(拍手)此二ツノ點ニ對シテ明確ナル御答辯ヲ得タト思フノデゴザイマスルガ(濟シテ)板野君ガ過日當壇上ニ於キマシテ、此首相暗殺事件ニ關聯致シマスル質問ニ對シテ、當時司法大臣ハ此事件ハ三月二十九日ニ起リ、四月ノ三日ニ終ツタ事件デアアル、ソレヲ報告シタル小橋榮太郎ニ會見ヲシタルハ四月十日デアアル、即チ事件ノ終了シタ後ニ初テ安立貴族院議員ノ帶同ヲ以テ來訪シテ、之ニ會見ヲ致シ、尙ホ更ニ其後一箇月餘ヲ經タ後、神田鐵藏ノ名刺ヲ以テ紹介ヲ致シテ金五百圓ノ金ヲ贈ラシタ、隨テ裁判ノ記録ニ依テ見テモ、恰モ四月十日ト云フモノニ初對面ノ人ニ會シタ如キ御答辯ニ相成リ、即チ事件ノ後ニ初テ會見シタルト云フコトヲ、有力ナル辯解ノ辭トシテ御述ニ相成タルノデゴザイマス(拍手)然ルニ此答辯ヲ新聞紙上ニ於テ見聞致シマシタ小橋榮太郎ハ、江木君ガ其餘リニ白々シキ虚言ヲ述ベラレタコトニ激怒致シタルノデゴザイマス(拍手)殊ニ自己ノ陰謀の舉作ヲ自ら悔悟スルト共ニ、寧

ろ事實ノ真相ヲ天下ニ告白シテ其罪ヲ謝スルニ如カズト決心ヲ致シテ、自ら聲明書ヲ作成ヲ致シテ、之ヲ東京在住ノ友人デアリ、殊ニ國事ニ奔走シテ居リマスル下鳥繁藏ニ送付致シタルデアアル、尙ホ自ら安シマル能ハズシテ、愈々北海道ヨリ上京ヲ致シマシテ、今月六日ニ芝ノ三條亭ニ於テ下鳥繁藏ノ外中込當三郎、清水紳平ノ何レモ國事ノ爲ニ奔走努力致シテ居リマスル人ニ立會ヲ求メテ、事實ノ真相ヲ物語ル共ニ、改メテ聲明書ヲ自ら自書致シマシテ、下鳥繁藏ニ交付致シ、三條亭ニ於テ記念ノ爲ニ此四名ガ應接ノ狀態ヲ寫眞ニ撮ツテ立別レタモノデゴザイマス(拍手)而モ今日江木君ノ股肱ト頼マレ、手足ト頼マレテ居ル此小橋榮太郎君ノ懺悔シタ聲明告白書ニ依リマスル、此小橋君ハ元諸君ノ屬セラレタル憲政會ノ前身同志會ノ、北海道選出ノ代議士デゴザイマス、其人ノ懺悔シタル聲明告白ニ依リマスルト、江木君ガ四月十日前後ニ安立貴族院議員ノ帶同ヲ以テ初テ會見シタルコト云フコト自體ガ、既ニ世間ヲ繕フ所作リ事デアッタノデゴザイマス、即チ昨年ノ三月上旬、江木君ハ其青山ノ私邸ニ於テ小橋ト極東新聞ノ用件ヲ以テ會見ヲ致シマシタ際、江木君ヨリ内田良平ヲ社會的二葬リ去ル工夫ヲ依頼ヲ致シ、其著手金トシテ金三百圓ヲ交付シ、小橋君ハ其腹心ノ田中次郎吉ニ命ジテ内田良平ニ接近ヲ致シ、芝居掛リニ首相暗殺ト云フ好題目ヲ捉ヘテ、此方法ナレバ江木書記官長ガ計畫ニ加擔シタルト云フコトヲ想像スル者ハナイノミナラズ、寧ろ反對黨タル政友會ノ使喚ト天下ニ想像セシムルト云フコトガ出來ルト云フ期待ノ下ニ、即チ一舉ニシテ反對黨ニ一痛棒ヲ加ヘタル上、更ニ内田良平ヲ社會的二葬去ルコトガ出來ルト考ヘテ、其計畫ヲ進行セシメマシタ所ガ、恰モ其芝居ノ手暗殺ヲスル決心ヲ持テ居ルト云フコトガ見エタ爲ニ、萬一ノ事ガアツテハ一大事ト云フノデ、即チ形式的ニ安立貴族院議員ノ會同ヲ求メテ江木君ヲ訪問ヲ致シ、檢舉ニ

至ラト云フノガ事實デアアル、而シテ神田鐵藏ヨリ金五百圓實受ケタル外ニ、江木君ヨリ警視總監ニ話シテアルカラ、會見ヲシテ金二百圓ヲ受取レト言ハレタ事實モ明瞭ニ相成レテ居リマス(拍手)併ナガラ當時此小橋ハ此金ヲ受取ラズシテ北海道ニ歸ラト云フノガ本人ノ告白デゴザイマス、若シ此事實ガ眞實ナリト致シマスルナラバ、是ハ神人共ニ許サミル所デゴザイマス(拍手)大罪惡デアルト共ニ是ハ明瞭ナル犯罪デゴザイマス、大正ノ立憲治下ニ於テ斯ノ如キ陰謀ノ政治ガ行ハル、ト云フコトハ、斷ジテ許サレザル筈デゴザイマス、吾々ハ此革命前後ノ「ソビエト」内閣ノ時代ニ於テモ、又帝國主義專制の暴威ヲ揮フト云ウタ時代ノ彼ノ伊太利ノ「ムッソリーニ」内閣ニ於キマシテモ、斯様ナ陰謀ヲ企テ、自己ノ好マザル者ノ爲ニ犯罪ヲ製造シテ、人ヲ陷レルト云フ如キ逆臣ハ一人モ無カッタト思フノデゴザイマス(拍手)憲政會ノ諸君、政友會ノ諸君、若シ諸君ノ御仲間ノ中ニ斯ノ如キ者ガアツタト致シマスルナラバ、諸君ハ其連中ト一日モ席ヲ同ジウサレナイデゴザイマセウ、況ヤ斯ノ如キ者ヲ閣員ノ席ニ列セシメテ、平然トシテ御用ヲ御勤メニナル方ハ一人モ無イト信ズルノデゴザイマス(拍手)私ハ今其事實ヲ告白致シマシタ小橋榮太郎ノ聲明書ヲ此處ニ朗讀致シタト思フノデアアル「大正十四年三月上旬極東新聞ノ用件ヲ帶ビテ江木書記官長青山ノ私邸ニ訪問、談話、普選問題ニ及ベル際頗ル昂奮ノ態度デ、純正普選運動ノ中堅タル黑龍會ノ行動ヲ非難シ、且ツ各種暴力團ノ暴戾其度ナキヲ痛罵シ、是レ皆内田良平ノ毒策使喚ニ基クコト判明ナリト斷言、何トカシテ彼内田ヲ葬リ去ル工夫ナキヤト、懇談ヲ受ケ、自分モ之ニ共鳴シ、兎モ角其内情ヲ偵察シタ上相當努力ヲ約シテ同邸ヲ辭シタ、爾來同氏トノ接近ヲ避クルコト、シタ、時恰モ好シ、自分ノ腹心田中次郎吉氏在京純正普選運動ニ參加シテ居ッタ先ダカラ、早速會見同氏ニ其内意ヲ傳ヘ、成ベク内田氏ニ接近シ、細大トナク動靜ヲ密報スルト同時ニ、邦家

ノ爲メ 芝居打ツベク託シ、同氏モ快諾シ
専ラ其任務ニ就イタ、三月下旬ニ至リ有力
ノ材料ヲ獲得シタトノ報ニ接シ、首相暗殺
事件ノ計畫大體ヲ探リ得タ(發言スル者多
シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○砂田重政君(續) 是ヨリ自分ノ宿ヲ名倉
屋ヨリ小野澤旅館へ轉ジタ、人目ヲ憚リタ
ル爲デアル、越エテ四月二日頃尾道氏同件
田中氏小野澤旅館ニ來リ、二三日尾道氏ノ
同宿ヲ頼ムカラ承諾シタ、サウシテ尾道氏
ヨリ直接ニ鎌倉地方活躍ノ模様ヲ聴知ツタ
ノデアル、然ルニ尾道ノ實行の決心頗ル堅キ
モノアルヲ看取リ、萬一ノ事アリテハ一大
事ト思料シ、之ヲ未發ニ阻止スベク形式的ニ
安立氏ヲ介シテ、遂ニ檢舉沙汰トナツタノ
デアル、安立氏へ差出シタ二通ノ書留、國
民ニ累ヲ及ボサマルベキ豫備行爲ニ過ギ
ヌ、該事件ニ對シ江木氏ヨリ三百圓、神田
鐵藏氏ヨリ千五百圓受取リ四月下旬歸北シ
タ、猶ホ江木氏ヨリ總監ニ話シテアルカ
ラ、會見シテ一千二百圓受取ルベク話サレ
タガ、差當リ必要モナカッタカラ留保シテ
置イテ未タ受取リ居ラヌ」ト云フノガ即チ
小橋榮太郎自ラ判ヲ捺イタ聲明書デアル、
(拍手)此聲明書ノ明瞭ニ成立シタコトヲ證
スル爲ニ、當時三條亭ニ於テ告白ヲ受ケタ
人々共ニ相並ニテ撮ツタ寫眞ハ茲ニ載セ
居ルノデアル、而モ此書面ノ確實ニ成立シ
タコトヲ證スル爲ニ、之ニハ公證人岡崎仁
三郎ノ一萬一千八百八十一號ノ確定日附ガ取
テアルノデアル(拍手)吾々ハ司法大臣
ガ犯罪者ヲ檢舉シ、之ニ制裁ヲ加ヘル裁判
官、檢察官ヲ監督スベキ重大ノ任務ニ在ル
ト信ズルノデゴザイマス、而モ是等ノ裁判
官、檢察官ハ薄給ニ甘ンジ、極メテ清廉
ニ困苦ト關ヒツ、尙ホ公明正大ニ今日ハ
我國ノ裁判ノ威信ヲ保テ居ルデハアリマ
セヌカ、然ルニ、其監督ノ長官タルベキ江
木氏司法大臣ノ如キ非行ノアルト云フコ
トヲ、共ニ事ヲ謀リタル小橋ニ依テ聲明サ
レテ居ルノデアル(拍手)私ハ必ヤ今日ノ
中ニ於テ、此事件ハ適當ナ人ヨリ司法大臣

ヲ相手取テ告發サレルベキモノト信ズル
ノデアル、既ニ是ダケノ明確ナル證據ガ
舉ゲテ、之ニ對シテ告發ヲ司法大臣ガ受ケタ
場合ニ、司法大臣ハ自己ノ監督ヲ受ケル檢
事ニ、自己ノ審理ヲ命ジマスルカ如何デゴ
ザイマセウ、左様ナコトハ出來サウナ理窟
ハ無イノデアル、又他人ノ事件ニ對シテ司
法大臣ハ如何ナル命令ヲ下スコトモ出來ル
ガ、自己ノ此事實ニ對シテハ微罪不起訴ト
云フコトハ出來マイト思フノデゴザイマス、
私ハ江木君ニ承リタイ、若シ茲ニ司法大臣
ガ自己ノ股肱ト頼ミ手足ト頼マレル人々カ
ラ、抄クトモ江木君ノ名刺ニ依テ神田鐵藏
ヨリ千五百圓提供ヲ受ケルヤウナ特別ノ關
係ニアル人ガ、共ニ罪ヲ犯シタト云フコト
ヲ天下ニ聲明ヲシタ場合ニ於テハ、司法大
臣ハ自ら其職ヲ退キ、公正ナル裁判ヲ受ケ、
審理ヲ受ケルト云フコトガ當然ノ責任デナ
ケレバナラヌ(拍手)吾々ハ斯ノ如キ事實ノ
アルコトヲ好マナイ、好マナイガ是ダケノ
明確ナル證據ガ舉ゲテ居ル以上ハ、此事實ガ無
イト云フコトヲ……(此時發言スル者多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ

○砂田重政君(續) 事實ガ無イト云フナレ
バ、之ヲ明確ニ打消スダケノ證據ヲ舉ゲナ
ケレバナラヌ(拍手)或ハ裁判所ノ記錄ヲ土
臺トシテ御論議ニ相成ルカモ知レナイ、是
ハ司法大臣ガ此席上ニ於テ明白ニシタ虛言ヲ
吐ケレタコトニ與奮アリ、憤慨ヲシテ出來
上ツタ證明書デアル(拍手)隨テ此事實ガ開
達テ居ルト云フコトハ、裁判所ノ記錄ニ依
テ辯明ヲセラレル材料ニハナラヌト思ハレ
ルノデアリマス、殊ニ況ニ裁判所ノ記錄ノ
中ニ……檢察官ガ取調ヲシタ記錄ノ中ニ、
自己ヲ監督スル司法大臣ノ教唆ヲ受ケタト
云フコトヲ書キサウナ道理ノ無イコトハ、
常識上明瞭ナ事實デアル、隨テ之ヲ以テ辯
解ノ辭トスルコトハ出來ナイト共ニ、司法
大臣自ラ此壇上ニ立ツテ、左様ナ事ハゴ
ザイマセヌト御答ニナツテモ、所謂嫌疑ヲ受
ケタ者ガ辯解ヲスルト云フコトニ依テ、
天下ノ總テノ疑ヲ解キ掃フコトハ出來ナイ
ト思フノデゴザイマス(拍手)諸君、司法大

臣ハ唯、新聞ノ記事ニ付テスラ、其事實ガ
眞實デアラウト想像サレル位鋭敏ナ頭ヲ御
持ニナツテ居ル御方デアル、其司法大臣ト
共ニ事ヲ爲シ、共ニ計畫ヲ爲シタル人カラ
斯様ナ聲明書ガ出テ居レバ、司法大臣ノ言
葉ヲ藉リテ言ヘバ、即チ之ヲ肯定スベキ事
實ヲ明瞭ニ認メ得ルト同時ニ、又之ヲ否定
スベキ明確ナル事實ヲ認メルコトガ出來ナ
イノデゴザイマス(拍手)司法大臣トシテハ
其職務ニ重大ノ關係ノアルコトデアリマ
ス、之ヲ否定スベキ明確ナル證據ヲ吾々ニ
御示ヲ願ハナケレバ相成ラヌト思フノデア
リマス(事實ニ無イコトヲ明確ニ證據ガ出
サレルカ)ト呼フ者アリ、事實ノ無イコトヲ
明確ニ立證スレバ宜イノデアル(此時發言
スル者多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ

○砂田重政君(續) 殊ニ先刻私ノ述べマシ
タ如ク、明日ニモ告發ヲサレタ時ニ司法大
臣ハドウナサレノダ、其席ガ腐レシマウ、
併ナガラ私ハ徒ニ無賴不逞ノ徒ヲ使喚シテ
人ノ空巢ヲ狙ヒ、或ハ間諜ヲ喰ハスト云フ
ヤウナコトハシタクナイノデゴザイマス、
若シ之ニ對シ明瞭ニ此事實ナシト云フコト
ヲ天下ニ聲明シ得ルナラバ、吾々ハ一兩日
ノ間、大臣ニ答辯ノ猶豫ヲ與ヘルノデア
(拍手)其間深思熟考シテ、適當ナル處置ヲ
御執ニ相成ルコトガ、最も賢明ナル策デア
ルト思フノデゴザイマス、私ハ此點ニ對シ
總理大臣及司法大臣ヨリ證據ヲ舉ゲテ、明
確ナル御答辯ヲ煩シタイト思フノデゴザイ
マス(拍手)

○國務大臣江木翼君登壇

○國務大臣(江木翼君) 只今砂田君ヨリ私
ノ身上ノ事柄ニ關シマシテ、御質問ガアリ
マシタ點ヲ簡單ニ御答ヲ致シマス、過日ド
ナタカノ御質問ニ對シマシテ、裁判所ノ記
錄ニ載テ居ル事柄ニシテ、江木翼ニ關係ヲ
致シテ居ル限ニ於テハ、裁判所ノ眞正ナル
記錄ハ全然眞實デアルト云フコトヲ申上ダ
タノデアリマス、其事柄ハ何デアアルカト申
上ダタノデアリマス、其事柄ハ何デアアルカ
ト申シマスルト、四月ノ十日前後、安立貴

族院議員ノ紹介ヲ以テ小橋氏ニ會シ、サウ
シテ或ル犯罪事實ノ申告ヲ受ケタ、而シテ
ハ苟モ官吏ガ其上長官ノ身邊ニ關スル事
ニ付キマシテ申告ヲ受ケマシタ以上ハ、之
ヲ相當ナル官憲ニ告知ヲ致シマスルト云フ
コトハ當然ナコトデアアル(拍手)是ガ職務ニ
關スルト關セザルトニ拘ラズ、私ガ之ヲ當
時ノ警視總監タル太田君ニ通告ヲ致シマス
ルコトハ、蓋シ當然中ノ當然ト謂ハナケレ
バナラヌト思フノデアアル(拍手)私ハ官吏ト
シテ、又個人トシテ當然盡スベキ義務ヲ盡
シタノデアアル、爾來數日ヲ經マシタ後ニ、
更ニ小橋氏ガ來マシタカラ、之ヲ名刺ヲ以
テ紹介ヲ致シタ、紹介ヲ致シタ此二ツノ事
實ダケガ、裁判所ノ記錄ニ載テ居ルノデ
アリマス、其裁判所ノ記錄ハ極メテ眞正ナ
ルモノデアツテ、私ハ其眞正ナル裁判所ノ記
錄ニハ、何等ノ間違ガ無イト云フコトヲ此
議場ニ於テ公言ヲ致シタノデアリマス(拍
手)其他ノ事……只今砂田君ハ三月上旬ニ是
レ……ノコトガアツタト頻ニ御述ニナツテ、
小橋氏ガ如何カ聲明書ヲ出シタト云フコト
ヲ御述ニナツタガ、私ハ全然承知シナイコト
デアリマス(拍手)私ハ四百六十四人ノ議員
諸君……(此時發言スル者多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ

○國務大臣(江木翼君)(續) 國民ノ代表者
デアアル……六千万國民ノ代表者デアアル諸君
ノ面前ニ於キマシテ之ヲ公言致シマス(拍
手)而シテ若シ此事實ニ於テ間違ガアリマ
シタナラバ、私ハ其實ヲ負フダケノコトデア
リマス……貴ヲ負フダケノコトデアリマス
(「明瞭」ト呼フ者アリ)併ナガラ私ハ敢テ
事實無イト云フコトヲ表明致シマスレバ、
ソレカラ先キヲ申上ダタル殆ド必要ハ無カラ
ウト思フノデアリマス、如何ニモ虛構ト言
ヒタイヤウナ威嚇ガ致スノデアリマス、自分
ノ上長官、加藤内閣總理大臣ヲ、他人ヲ
教唆シテ暗殺セシムル、サウ云フ計畫ニ内
閣書記官長ガ關係スルト云フコトハ、私ノ
常識ト致シマシテハ何トシテモ考ヘルコト
ノ出來ナイ事柄デアリマス(拍手)是ダケニ
致シマス(拍手)

〔總理大臣ハドウシタ〕ト呼フ者アリ
其他發言スル者多シ

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス
〔總理大臣ハドウシタ〕ト呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 總理大臣ヨリハ別ニ
發言ヲ求メラレマセ

〔砂田重政君登壇〕

○砂田重政君 私人總理大臣ニ對シテ先刻
弊頭ニ御尋ヲ致シタノデアリマス、寔ニ明
瞭ナル事實ノ御尋ヲ致シタイノデアリマ
ス、之ニ對シテ總理大臣ノ御答ノ無イト云
フコトハ、之ニ御答ヲ爲サルコトガ出來ナ
イノデアル、若クハ斯様ナ事實ガアル場合
ニハ適當ノ處置ヲ執ルト云フコトヲ明瞭ニ
御肯定ナサルノデゴザイマス、之ニ對シ
テ吾々ハ總理大臣ガ最モ懇切ニ、直グニ御
答辯ニ相成テ然ルベキモノト信ズルノデ
アリマス、又只今江木君ハ非常ニ大キナ聲
ヲナサテ、斷ジテ斯様ナ事實ハ無イト言ハ
レマシタガ、神田鐵藏ヲ紹介シテ千五百圓
ノ金ヲ與ヘタト云フ事實ハ間違ナイデス、
既ニ神田鐵藏ヲ紹介シテ千五百圓ヲ與ヘ
ルト云フ、是ダケノ深イ關係ノアル本人自
ラガ、江木サンノ手カラ三百圓貴タト云
フコトヲ言フテ居ルノデアル、又先程ノ御答
辯ノ中ニハ、警視總監カラ更ニ千二百圓ヲ與
ヘルト云フコトモ質問ノ一項デアル、然ル
ニ之ニ對シテハ何等ノ御答ガ無イトデア
ル、併ナガラ吾々ハ唯、嫌疑ヲ受ケタ者カラ、
ゴザイマセスト云フ辯解ダケヲ以テ天下ノ民
心ノ疑ヲ一掃スルコトハ出來ナイノデア
ル、隨テ此小橋ノ聲明ガ眞實カ……(此時發言
スル者多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○砂田重政君(續) 是ハ江木君ノ此處ヲ辯
解サレコトガ眞實デアルカト云フコト
ハ、何カノ證據ニ據ラナケレバ水掛論デア
ル、唯徒ニ大キナ聲ヲスル辯解ダケハ、國
民ノ疑惑ヲ一掃スルコトハ出來ナイト吾々
ハ信ズルノデアリマス、ドウカ此吾々ノ疑
ヲ一掃スルコトノ出來ルヤウニ、沈思熟考

シテ御答辯ヲ願ヒタイノデア
ル

〔國務大臣若槻禮次郎君登壇〕

○國務大臣(若槻禮次郎君) 砂田君ノ御質
問ハ、若シ砂田君ノ述べラレルヤウナ事ガ
アレバ、總理大臣ハドウスルカト云フ御質
問デアラノデアリマス、而シテ司法大臣ハ
砂田君ノ述べラレルヤウナ事ハ無イト云
フコトヲ答辯セラレタノデアリマス、ソレ故
ニ私ハ答辯スル必要ガ無イト考ヘルノデア
リマス

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ日程ニ入リマ
ス

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス
〔國務大臣江木翼君登壇〕

○國務大臣(江木翼君) 幾度答辯ヲ致シマ
シテモ同ジ事デゴザイマスガ、所謂内田事
件ノ以前ニハ、此事柄ヲ聴イタコトハナイ
ノデアリマス、其後ニ紹介ヲ致シタノハ、
紹介致シタマケノコトデアリマス、紹介シタ
後ニ如何ナル事實ガ發生致シタカハ、私ノ
知ラナイ所デアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ日程ニ入リマ
ス 靜肅ニ願ヒマス、日程第一、第二ハ
便宜上一括議題トスルニ御異議アリマセ
ヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程第一、勞働爭議調停法案、日
程第二、治安警察法中改正法律案ノ第一讀
會ヲ開キマス、若槻内閣總理大臣

第一 勞働爭議調停法案(政府提出)

第一讀會

勞働爭議調停法案

第一條

左ニ掲クル事業ニ於テ勞働爭議
發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ
請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコト
ヲ得當事者ノ請求ナキ場合ト雖行政官
廳ニ於テ必要アリト認メタルトキ亦同
シ
一 蒸氣、電氣其ノ他ノ動力ヲ使用ス

ル鐵道、軌道又ハ船舶ニ依リ公衆ノ
需要ニ應スル運輸事業

二 公衆ノ用ニ供スル郵便、電信又ハ
電話ノ事業

三 公衆ノ需要ニ應スル水道、電氣又
ハ瓦斯供給ノ事業

四 第一號乃至第三號ノ事業ニ電氣ヲ
供給スル事業ニシテ其ノ休止力第一
號乃至第三號ノ事業ノ進行ヲ著シク
阻害スルモノ

五 其ノ他公衆ノ日常生活ニ直接關係
アル事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモ
ノ

六 陸軍又ハ海軍ノ直營ニ係ル兵器艦
船ノ製造修理ノ事業ニシテ勅令ヲ以
テ定ムルモノ

前項ニ掲クル以外ノ事業ニ於テ勞働爭
議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者
雙方ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設ス
ルコトヲ得

第二條 調停委員會ヲ開設セムトスルト
キハ行政官廳ハ當事者雙方ニ之ヲ通知
スヘシ

第三條 調停委員會ハ九人ノ委員ヲ以テ
之ヲ組織ス委員ノ中六人ハ勞働爭議ノ
當事者ヲシテ各同數ヲ選定セシメ他
三人ハ當事者ノ選定シタル委員ヲシテ
爭議ニ直接利害關係ヲ有セサル者ニ就
キ選定セシメ行政官廳之ヲ囑託ス

前項ノ規定ニ依リ囑託セラレタル委員
ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ辭スルコト
ヲ得ス

第四條 勞働爭議ノ當事者第二條ノ規定
ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ三日内ニ
前條第一項ノ規定ニ依リ其ノ選定シタル
委員ヲ行政官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

當事者前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲サザ
ルトキハ行政官廳ハ當事者ニ代リ委員
ヲ選定ス此ノ委員ハ當事者ノ選定シタ
ルモノト看做ス

前二項ノ規定ニ依リ手續終リタルトキ
ハ行政官廳ハ直ニ前條第一項ノ規定ニ
依リ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選

定スヘキ委員ノ選定ヲ要求スヘシ此ノ
場合ニ於テハ當事者ノ選定シタル委員
ハ四日内ニ之ヲ選定シ行政官廳ニ届出
スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ届出ナキトキハ行政
官廳ハ當事者ノ選定シタル委員ニ代リ
前項ノ規定ニ依リ選定スヘキ委員ヲ選
定ス此ノ委員ハ當事者ノ選定シタル委
員ニ於テ選定シタルモノト看做ス

第五條 委員中缺員ヲ生シタルトキハ前
二條ノ手續ニ準シ之ヲ補充ス

第六條 委員定リタルトキハ行政官廳ハ
直ニ調停委員會ヲ招集シ之ヲ開會スヘ
シ

第七條 調停委員會ニ議長及其ノ代理者
ヲ置ク議長及其ノ代理者ハ當事者ノ選
定ニ係ル委員ニ於テ選定シタル委員ノ
互選ニ依リ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以
テ之ニ充ツ多數ヲ得タル者ナキトキハ
抽籤ニ依ル

第八條 調停委員會ハ勞働爭議ノ解決ニ
必要ナル調査審理ヲ爲シ其ノ調停ヲ爲
スモノトス

第九條 調停委員會ハ開會ノ日ヨリ十五
日内ニ調停手續ヲ了スルコトヲ要ス
前項ノ期間ハ當事者ノ選定シタル委員
全員ノ同意アリタルトキハ之ヲ延長ス
ルコトヲ得

第十條 調停委員會ハ議長又ハ其ノ代理
者及各當事者ノ選定シタル委員各二名
以上出席スルニ非サレバ會議ヲ開クコ
トヲ得ス

第十一條 調停委員會ノ議事ハ本法中別
段ノ規定アル場合ヲ除クノ外過半數ヲ
以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決
スル所ニ依ル

第十二條 調停委員會ノ議事ハ之ヲ公開
セス

行政官廳ハ調停委員會ノ承認ヲ得テ當
該官吏ヲシテ會議ニ出席セシムルコト
ヲ得

第十三條 調停委員會ハ調停ニ必要ナル
範圍ニ於テ當事者又ハ其ノ代表者其ノ

他利害關係人又ハ參考人ニ對シ出席說明ヲ求メ又ハ說明書類ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第十四條 調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ委員ヲシテ作業所其ノ他爭議ノ關係場所ニ立入り、作業若ハ設備ヲ視察シ又ハ關係者ニ質問セシムルコトヲ得但シ軍事上秘密ヲ要スル場所ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 委員又ハ委員タリシ者ハ故ナク前二條ノ場合ニ知得シタル秘密ヲ漏洩スルコトヲ得ス

第十六條 第九條ニ規定スル調停手續ノ終了ノ場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ顛末ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス前項ノ場合ニ於テ勞働爭議解決スルニ至ラバリシトキハ調停委員會ハ其ノ報告ニ委員會ノ決議セル爭議調停案及之ニ關スル少數意見ヲ表示スルコトヲ要ス

第十七條 行政官廳ハ前條ノ規定ニ依ル報告ノ要旨ヲ公表スヘシ但シ勞働爭議解決シタル場合ニ於テ當事者一方ノ選定シタル委員全員カ豫メ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 委員及第十三條ニ規定スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第十九條 第一條第一項ニ掲クル事業ニ於ケル勞働爭議ニ關シ第二條ノ規定ニ依ル通知アリタルトキハ現ニ其ノ爭議ニ關係ナキ者ハ第九條ニ規定スル調停手續ノ終了ニ至ル迄左ニ掲クル目的ヲ以テ當事者ヲ勸誘スルコトヲ得ス

一 使用者ヲシテ勞働爭議ニ關シ作業所ヲ閉鎖シ、作業ヲ中止シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ勞務繼續ノ申込ヲ拒絕セシムルコト

二 勞働者ノ集團ヲシテ勞働爭議ニ關シ勞務ヲ中止シ、作業ヲ進行ヲ阻害シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ雇傭繼續ノ申込ヲ拒絕セシムルコト

第二十條 故ナク第十三條ニ規定スル出

席說明又ハ說明書類ノ提示ヲ爲ササル者ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條ノ場合ニ於テ虛偽ノ說明ヲ爲シタル者

二 故ナク第十四條ノ規定ニ依リ立入、視察ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

三 第十五條ノ規定ニ違反シタル者

第二十二條 第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二 治安警察法中改正法律案（政府提出）

治安警察法中改正法律案

治安警察法中左ノ通改正ス

第十七條 削除

第三十條 削除

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○國務大臣（若槻禮次郎君） 我國産業組織ノ近代化スルニ從ヒマシテ、勞働爭議モ亦頓ニ増加シタルノデアリマス、固ヨリ勞働爭議ノ發生ハ、現時ノ産業界ニ於テ避クベカラザル自然ノ勢デアリマスケレドモ、勞働爭議ノ爲ニ國家社會ノ被リマス損害ハ莫大デアリマシテ、産業界ノ受クル積極的損失ノミニ付テ見マシテモ、同盟罷業ノ爲ニ失ハレタ勞働日數ハ、大正十年ニ於テ百十七萬三千餘日デアリマス、大正十一年ニ於テ百四十四萬七千餘日デアリマス、大正十二年ニ於テ百四十一萬一千餘日、大正十三年ニ於テ百六十二萬二千餘日ノ多キニ上テ居ルノデアリマス、勞働爭議ノ發生ハ已ムヲ得ナイ事由ニ依ルモノガアラウトハ存ジ

マスケレドモ、或ハ當事者ガ事實ヲ誤認スルガ爲ニ、或ハ當事者間ニ意思ノ疏通ヲ缺イテ居ルガ爲ニ、或ハ單純ナル感情上ノ行掛リノ爲ニ生ズル場合モ亦少クナイノデアリマス、是等ノ場合ニ於キマシテ、事實ノ真相ヲ調査シテ、無用ノ誤解ヲ去リ、感情ノ融和ヲ圖リマスノハ、即チ必要ナル爭鬭ヲ避ケ、又ハ之ヲ速ニ終了セシムル所以デアリノデアリマス、斯ノ如クシテ出來得ル限り、爭議ノ防止並ニ其解決ノ機會ヲ多カラシメマシテ、爭議ニ因ル無用ノ犧牲ヲ除キ、産業界ノ平和ヲ確保スルニ努ムルコトガ緊要デアリト申スベキコトデアラウト存ジマス、此趣旨ニ依リマシテ勞働爭議ニ關スル調停制度ヲ設ケマスコトハ、一日モ速ナルノガ宜シト考ヘルノデアリマス、

是此法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、尙ホ又治安警察法第十七條及第三十條ハ、從來慶議會ニ於テ問題トナリマシタモノデアリマスガ、今日ニ於テハ勞働爭議又ハ小作爭議ニ關シマシテ、斯ノ如キ特別ノ刑罰法規ヲ存置スルノ必要ヲ認メザルニ至ラズノデアリマス、ソレ故ニ今回之ヲ廢止セントスル次第デアリマス、是亦治安警察法改正ノ趣旨デアリノデアリマス、御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレント切ニ希望致シマス（拍手）

○議長（粕谷義三君） 質疑ノ通告ガ多數アリマス、順次之ヲ許シマス、藏園三四郎君

○藏園三四郎君 我ハ勞働爭議調停法案ニ對シテ、政府ニ對シテ聊カ質問ヲ試ミタイルノデアリマス、爭議調停法案ヲ提案セラルコトハ必シモ之ニ反對ヲ致ス者デハゴザルマセメ、最モ善良ナル調停法案ニ依リマシテ爭議ヲ平和ニ解決スルコトハ、最モ吾人ノ喜ブ所デアリマス、併ナガラ勞働爭議調停法案ハ其母法タル所ノ勞働組合法ノ制定、勞働組合法ノ健全ナル發達ト相俟テ其運用ヲ全ウスルモノデアリ、然ルニ政府ハ調停法案ヲ先ヅ提出ヲ致シマシテ、未ダ其完全ナル組合法ヲ提出ヲ爲サマルノハ果シテ如何ナルコトデアルカ、承ル所ニ依リマスレ

バ、政府ニ於テハ近日勞働組合法ヲ提出スルカニ承ルノデアリマス、然ルニ其勞働組合法ナルモノハ、全ク社會立法ノ精神ヲ滅却致シマシテ、警察法規タル議ヲ免レヌト云フコトヲ非難スル者ガアル、茲ニ内務省ノ起案ニ係ル所ノ所謂社會局案ト云フ勞働組合法案ガ、世間ニ公表セラレタノデアリマシタガ、然ルニ之ヲ行政調査會ニ付シマシタ所ガ、行政調査會ニ於テハ此社會局案ニ對シテ改竄ニ改竄ヲ加ヘ、殆ド完膚ナキニ至ラシメテ居ルト云フコトデアリ、而シテ近日政府ガ提出ヲセントスル所ノ勞働組合法ハ、此行政調査會ノ改竄ヲ加ヘラレタル所ノモノ、即チ骨抜き案其モノヲ其儘提出スルヤニ聞エテ居ルノデアリ、果シテ然ラバ全ク此勞働立法ノ精神ヲ解セザルモノデハナイカト思フ、勞働立法ハ申スマデモナク小作爭議ト相並シテ、社會立法ノ二大法典デアリノデアリ、從來我國ニ於キマシテハ常ニ國家法規、或ハ警察法規ト云フガ如キ取締規定ニノミ没頭シテ居リマシタル立法ニ於キマシテハ、是ヨリ普通選ノ實行ヲ見ルニ至リマシテハ、此國家法規ヨリ進シテ社會立法時代ニ移行シテレバナリマセメ、前政府ニ於テハ普通選ノ實行ニハ頗ル力ヲ用ヒラレタ、普通選ニ依テ選舉權ヲ得ルト云フコトハ、其選舉權ヲ得ルノガ目的デハナイ、選舉權ヲ得テ、而シテ其選舉權ニ依テ社會立法ヲ全ウシタイト云フノガ普通選ノ要求デアリノデアリ、然ルニ政府ノ提案セントセラル、所ノ勞働組合法ハ、全ク此社會立法ノ精神ヲ滅却シテ、警察法規ノ議ヲ免レヌモノニ偏シテ居ルト云フコトヲ承ルノデアリ、果シテ然リテ致シマスナラバ、全ク此勞働法規ノ精神ヲ理解シナラナイ、又眞ノ普通選ヲ理解セザル所ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリ、シテ見マスレバ、此勞働法規ノ制定、勞働法規ノ眞ノ健全ナル發達ヲ待テ初テ運用ヲ見ル所ノ勞働爭議調停法案ノ如キハ、未ダ早シト申サナケレバナラヌ結果ヲ來スノデアリ、私ハ勞働組合法ノ内容ニ至リマシテハ、他日御提案ノ機會ヲ見テ更ニ問フ所アラント欲シマスルガ、

○議長（粕谷義三君） 質疑ノ通告ガ多數アリマス、順次之ヲ許シマス、藏園三四郎君

○藏園三四郎君 我ハ勞働爭議調停法案ニ對シテ、政府ニ對シテ聊カ質問ヲ試ミタイルノデアリマス、爭議調停法案ヲ提案セラルコトハ必シモ之ニ反對ヲ致ス者デハゴザルマセメ、最モ善良ナル調停法案ニ依リマシテ爭議ヲ平和ニ解決スルコトハ、最モ吾人ノ喜ブ所デアリマス、併ナガラ勞働爭議調停法案ハ其母法タル所ノ勞働組合法ノ制定、勞働組合法ノ健全ナル發達ト相俟テ其運用ヲ全ウスルモノデアリ、然ルニ政府ハ調停法案ヲ先ヅ提出ヲ致シマシテ、未ダ其完全ナル組合法ヲ提出ヲ爲サマルノハ果シテ如何ナルコトデアルカ、承ル所ニ依リマスレ

今日ハ先ツ其勞働爭議調停法案ト最モ深キ
因縁ヲ有スル所ノモノ及爭議法ノ内容ニ付
テ、三其眼目トスルモノニ付テ御尋テ致シ
テ見タイノデアル、本案ハ其目頭ニ示サル
ルガ如クニ、爭議調停委員會ハ當事者ノ申
請ニ依テ開設セラル、又當事者ノ申請ナシ
ト雖モ、行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキ
ハ亦同ジト云フ規定デアリマス、是ガ即チ
調停法案ノ骨子眼目トスル所ノモノデアリ
マス、之ニ就テ先ツ私ガ疑ヲ懷キマスル所
ノ事ハ、爭議ノ當事者ト云フコトデアル、爭
議ノ當事者、言葉ハ簡單デアッテ明瞭カノ如
クゴザイマスルケレドモ、實際ノ運用ニ至
テハ恐ラクハ斯ノ如キ困難ナル文字ハ無イ
ノデアリマス、唯、單リ困難ナルノミナラズ、
其結果ハ勞働爭議ヲシテ非常ナル混亂ニ陷
ラシメ、又其紛擾ヲシテ激甚ナラシムル結
果ヲ及ボスモノデアル、此當事者ト云フノ
ハ即チ言葉ヲ簡ニシテ申シマスレバ、勞働
者ト資本家、是ダケガ當事者デアリマス、
併ナガラ資本家側ノ當事者ハ最も簡單デゴ
ザイマスルケレドモ、爭議團ニ關スル所ノ
勞働者側ヨリ見タル當事者ト云フモノハ頗
ル困難ナル問題デアル、デアリマス、若シ茲
ニ一ツノ爭議團アリトセヨ、其爭議團ノ一
人若クハ數百人、數千人、數萬人ノ其爭議ニ
關係アル所ノ者悉クガ一ツノ當事者デア
ル、即チ爭議者ノ當事者デアルトシマスナ
ラバ、其中ノ數十人數百人ガ此爭議ノ申請、
調停ノ申請ヲ致シマスシテモ何等ノ調停ニ
效果ヲ及ボサスノデアアル、又資本家側
ヨリ致シマスシテ、サウシテ調停申請ヲ致
スニシテモ、何万ノ勞働者ヲ相手
方トスルカ若クハ其中ノ主ナル者ヲ爭議ノ
相手方トスルカ、之ニ就テハ全ク困難ヲ來
スノデアアル、ソコデ私ガ先ツ御尋テ致シ
タイコトハ勞働組合法ニ於テハ開ク所ニ依
レバ社會局法案ニ於テハ勞働組合ハ之ヲ法
人トスルモ、又ハ法人トセザルモ、一ニ勞
働組合ノ選擇スル所ニ委シテ居ル、所ガ今
提出セラレントスル所ノ勞働組合ハ、其組
合ヲ、強制的ニ法人組織ニスルト云フコト、
此事ガ即チ社會局法案ト異テ居ル點デア

ル、是ニ於テ私ハ思フノデアアル、其組合
法——法人タル所ノ組合法ノ其理事者、即チ
組合若クハ之ヲ代表スル所ノ理事者、是モ
當事者トシテ即チ、調停ノ相手方トナリ、
若クハ申請者トナリ得ルノデアアルカドウ
カ、社會局案ノ所スガ如クニ、若シ是ガ團
體交渉權ヲ認ムルデアリマスナラバ、此當
事者問題ハ全ク何ノ困難ヲ見ズシテ解決ス
ルコトガ出來ルノデアアル、然レドモ開ク所
ニ依レバ交渉團體、即チ團體交渉權ヲ否認
セラレタル近日提出セントスル所ノ組合
ハ、總テノ勞働者ヲ當事者トスルノ外ハ他
ニ方法ハナイヤウニ思ハレルガ、然ルニ組
合ヲ法人トシテ、一ノ人格者トシテ、權利
ノ主體トシテ認メラレタル所ノ近日提出セ
ラレントスル所ノ組合法ニ於テハ、即チ此
爭議ノ調停、爭議ノ當事者トシテ之ヲ見ル
ノデアリマス、見ナイノデアリマス、之
ヲ爭議ノ當事者トシテ御認定ニナルナラ
バ、然ラズンバ此爭議ノ當事者ナルモノ
ハ實ニ紛擾、最も困難ナルモノデアッテ、
實際ノ運用上殆ド爭議ニ爭議ヲ重マルニ至
ルモノデアッテ、殆ド調停法案ノ效果ト云フ
モノハ滅却セラレレルモノデアルト云フコト
ヲ私ハ思フノデアリマス、此點ニ關スル政
府ノ御所見如何、次ニハ當事者ト云フモノ
ガ其一方ノ申請ニ依ッテ調停委員會ヲ開設
スルノガ本法ノ主眼デアリマス、然ルニ文
明國ノ調停法ニ依ッテ見マスルト、例ヘバ
先進國ノ英國ノ産業裁判所法ニ依ッテ見
テモ、又最近十六年間之ヲ施行シテ最も其
成績ヲ舉ゲタ、アルト云フ加奈陀ノ勞働解
法ニ依ッテ見テモ、何レモ當事者雙方ノ申請
ニ依ッテ初テ調停委員會ト云フモノヲ開設
スルノデアアル、然ルニ我國ノ調停法、此
本案ニ依ッテ見マスルト云フト、當事者一
方ヨリノ申請ニ依ッテ調停委員會ヲ開設
ヲ致ス、サウシテ見マスルナラバ、常ニ此
申請ヲ爲ス所ノ者ハ資本家側ニ多クシテ、
而シテ調停ヲ申請セラル、者ハ勞働者側
ニ多シ、斯ノ如ク謂ハナケレバナラヌ、
デ之ヲ先進國ノ例ニ倣ハズシテ、當事者
一方主義ヲ採ラレタル理由果シテ如何、
第三ニハ即チ本法ノ

示ス如ク當事者ヨリ申請ナシト雖モ行政
官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキ亦同ジ、
此所デアリマス、私ハ爭議調停法、即チ爭
議調停制度ニ反對スル者デハナイ、爭議調
停法ハ適當ナル法案ヲ設ケテ、而シテ平和
ニ解決スルノ途ヲ執ルコトハ最も立法上策
ノ得タモノデアルト云フコトハ思フノデア
アル、併ナガラ本法ノ如ク強制調停主義ヲ採
ルコトハ果シテ適當デアルカドウカ、ソレ
モ調停ニ對シテ強制主義ガ此内容ニマデ、
即チ調停事項、解決サレタル所ノ其調停事
項ニ付テモ強制主義ヲ採ルト云フコトデア
ルナラバ、ソレハ一ツノ說デアリマス、
即チ仲裁裁判或ハ判決ノ和解ノ效力ヲ與ヘ
ルコト云フヤウナ、此調停事項ニ對シテ強制
效力ヲ保タシムト云フモノデアルナラバ率
知ラズ、然ルニ本案ニ依レバ調停事項ニ付
テハ何等ノ法律上ノ效力ヲ與ヘズシテ、全
ク此調停事項ニ對シテ、之ニ從フト從ハザ
ルトハ當事者ノ自由デアアル、何等調停ノ效
果ニ對シテ強制效力ヲ與ヘナイノハ即チ本
案ノ主眼デアリマス、然ルニ此調停委員會
ヲ開設スルコトハ強制主義ヲ採ル居ルノ
デアリマス、開設ニ對シテ強制主義ヲ採
テ居ルノデアアル、即チ當事者ガ好マザル
ニ當ッテ行政官廳ガ之ヲ必要アリト認ムル場
合ニ於テ、調停委員會ニ之ヲ付セシムレバ、
即チ當事者雙方ハ此法案ニ於テ重大ナル責
任ヲ持タナケレバナラヌ、例ヘバ政府ガ調
停委員會ニ付シタト云フ通知ガアリマスレ
バ、其通知以後ニ於ケル當事者ノ責任ト云
フモノハ、最も重大ナル責任ヲ持ツ、即チ
第十一條デアッタカ、十二條デアッタカ、此
通知ガアッテ而シテ喚出ガアレバ、必ズ之
出頭シテ相當ナル説明開示ヲシナケレバ
ナラヌ、之ニ對シテ出席ヲ拒メバ最も重キ處
罰ニ遭ハナケレバナラヌノデアアル、而シテ
マダ一ツ重大ナル事ハ、行政官廳ニ於テ之
ヲ調停ニ付スレバ、第十九條ニ依リマシ
テ、其大半ハ勞働運動ト云フモノハ拘束ヲ
受ケル、即チ勞働者ノ最も武器トシテ居
ル所ノ其勞働運動ノ大半ハ、第十九條ニ於
テ檢束ヲ受ケルコトニ相成ルノデアリマス、

諸君ハ治安警察法第十七條ガ撤廢ニナッ
テ、一面ニハ之ヲ喜ブ者アルガ如シト雖モ、
併シ此撤廢サレタル所ノ治安第十七條ハ、何
時ノ間ニカ爭議調停法ノ第十九條ニ忍ビ
サウシテ影ヲ潜メテ待ッテ居ルノデアリ
マス、而モソレガ當事者雙方主義ニ依ッ
テ、二付セラレタルノ認定ヲ以テシテ、而
シテ此調停ガ開始サレル場合ニ於テ、強
制的開示ニ依ッテ第十九條ノ制裁ヲ受ケ
ナケレバナラヌ、即チ先廻リヲシテ——治
警第十七條ガ先廻リヲシテ待ッテ居ル、
此第十九條ニ押込マレテ行クノデアリマス、
斯ノ如キ法律ハ私共ハ實ニ亂暴狼藉ト申サ
ナケレバナラヌ——最も成績優良ナリト唱
ヘラレテ居ル所ノ先進國ノ例ニ倣ッテ、當
事者雙方ヨリノ申請ニ待ッテ、初テ調停
委員會ト云フモノヲ開設セラレテハ如何
デアアルカト思フ、我國ニ於テ此強制主
義ヲ採ル爲ニ、折角勞働運動ガ最も理解
アリ、最も秩序アル方面ニ段々進歩シテ
行キ、進んで行ク時ニ當ッテ、而モ此調
停法ニ於テ強制主義ヲ採ッテ、而シテ之
ニ拘束ヲ加ヘントスルガ如キニ至ッテハ、
曩ニ普選實行ニ御努メニナッテ現政府ト
致シマスシテハ、矛盾ノ極デアリマス、
次ニ御尋申上ゲタイノハ、此勞働爭議調
停委員會ノ議事ニ對シテ、議長ガ決定權
ヲ持ッテ居ルノデアアル、諸君、合議體
議事法ニ於テハ、議長ニ決定權ヲ與ヘル
ハ是ハ通例デアリマス、併ナガラ調停法
ニ於テハ、先ツ此議長ニ最後ノ決定權ヲ
與ヘナイト云フノガ最も進歩シタル所
ノ調停法デアアル、而シテ其問題ハ殆ド
唯、一人ノ議長ガ最後ノ決定權ヲ有スル
ト云フガ如キハ、是ハ私ハ平和ナル解決
ヲ旨トスル所ノ調停主義ノ取ラザル所デ
ハナイカト云フコトヲ思フノデアアル、
歐羅巴其他ノ調停法ニ於テモ、議長ニ
決定權ヲ與フル所ハナイノデアリマス、
アッテモ少イノデアアル、併シ議長ニ決
定權ヲ與ヘテ、而シテ其議長ガ決定シ
タル所ノ其調停事項ガ、當事者雙方ニ
效力ヲ付與スル、當

事者ガ之ニ對シテ必シモ聞カナケレバナラ
スト云フコトデアラナラバ、ソレモ亦一個ノ
方法デアリマセウ、併ナガラ先程モ申シマ
ス通りニ、當事者ハ此調停事項ニ對シテ、
絕對ニ服從ノ義務ガナイノデアリマス、然
ルニモ拘ラズ此調停會議ニ於テハ、議長ニ
決定權ヲ與ヘテ、而シテ此調停事項ニ一ツ
ノ勝負ヲ付ケルノデアアル、而シテ其勝負ヲ
付ケタ時ニハ何等ノ効力無イ、唯、ソレヲ世
間ニ發表スル、世間ニ公示スルコト云フ、唯、
手續ニ過ギナイノデアアル、サウ云フ薄弱ナ
効力ヲ有セシムル爲ニ議長ニ決定權ヲ與フ
ルコトハ、果シテ其結果如何ト云フコトヲ
考ヘテ見マスルト、私ハ此決定權ヲ與ヘテ、
而シテ當事者ノ間ニ勝敗ヲ決スル、即チ勝
負ヲ付ケルコト云フコト其事ガ、勞働會議ヲ
シテ彌ガ上ニモ激甚ナラシメ、彌ガ上ニモ
紛擾ニ紛擾ヲ重ヌル結果ヲ來スモノデア
リカト云フコトヲ思フノデアリマス、圓滿
ナ解決ヲ圖ラシメ、爲ノ本法案ニ於テ、而モ
勞働會議ヲシテ益々激甚ナラシメ、勞働會
議ヲシテ益々紛擾ヲ高カラシメルコトガ
非常ニ多イノデアアル、私共ヲシテ若シ之ヲ
遺憾ナク言ハシムルナラバ、第一條ヨリ第
二十二條ニ至ルマデ殆ド一箇條トシテ完全
ナモノヲ見ルコトガ出來ナイ、悉ク是レ皆
勞働會議ヲシテ全ク紛擾ニ終ラシムルモノ
デアルト謂ハナケレバナラヌノデアアル、私
ハ必シモ勞働調停制度ニ反對スル者デア
リマセヌ、勞働會議ノ調停法ト云フモノハ、
完全ナル制度ガ生レ出ヅルナラバ、私共ハ
之ヲ歡迎シテ止マヌノデアアルガ、而モ此今
日提出セラレタル所ノ法案ニ依テ見レバ、何
レモ是レ感服ヲ致スコトガ出來ナイ、何等
ノ效果ナキモノデアルト云フナラバ、マダ
シモ之ヲ忍ブコトガ出來ル、併ナガラ此爭
議ヲシテ益々大ナラシメ、益々勞働者ト資
本家トノ間ニ於ケル溝渠ヲ高クシ、而シテ
紛擾ニ紛擾ヲ重ネ、折角勞資協調ノ曙光ヲ
見ントスル今日ニ於テ、却テ惡法ノ議ヲ免
カレヌモノデアリカト云フコトヲ私ハ考
ヘルノデアリマス、之ニ對スル政府ノ御所見
ヲ伺ヒタイノデアリマス(拍手)

〔國務大臣若槻禮次郎君登壇〕

○國務大臣若槻禮次郎君登壇
コトニ付テ、組合法ニシテ先ヅ以テ調停法ヲ
議スルト云フ事柄ガ、根本ヲ定メズシテ枝
葉ヲ決メルヤウニナルヤウナ御意見ノヤウ
デアリマスガ、組合法ヲ必ズ待タナケレバ
勞働會議ノ調停法ハ制定スルコトガ出來ナ
イト云フ程ナ關係ハ無イノデアリマス、併
シ勞働組合法モ政府ハ議會ニ提出スル考デ
居リマスカラ、兩三日ノ中ニハ大抵提出ス
ル運ビニ相成ルノデアラウト存ジマス、其
勞働組合法ガ當初內務省ニ於テ立案サレタ
モノガ、段々變化シテ當初社會黨ノ立法デ
ウニナッタト云フ御觀察ノヤウデアリマス
ガ、是ハ法律案提出ノ上デ能ク御審查下サ
レタナラバ、必シモサウデナイト云フコト
ヲ御意見ニナラウト思フノデアリマス、唯、
先月ノ二十一日ニ前ノ總理大臣ガ述べラレ
マシタ通り、國各、其慣習風俗ヲ異ニシテ
居ルモノガアリマス、故ニ如何ナル立法ト
ラナケレバナラヌト云フ次第ハナイ、日本
ニ於テ勞働立法ヲスルナラバ、日本ノ狀態
ニ適合スルヤウニセナケレバナラヌト云フ
意見ヲ述ベテ居ラル、ノデアリマスガ、政
府ガ內務省デ立案シタ上ニ、更ニ行政調査
會ニ付シテ十分審議致サセマシタノモ、全
モ國情ニ適シタル勞働組合法ヲ作ラントス
ル爲デアッタノデアリマス、其組合法ノ如
何ナルモノデアリカト云フコトハ只今申上
ゲル通り、兩三日中ニハ議會ニ提出ノ運ビ
ニナラウト思ヒマスカラ、御覽ノ上ニ御質
問ガアリマスレバ、私十分御答スル積リデ
アリマス、第一條ニ言ウテアル所ノ、爭議
ノ當事者ト云フノハドウ云フノデアアルカ、
而モ當事者ト云フノガ資本家側ハ海ニ明瞭
デアレケレドモ、勞働者側ハ多人數ノコト
デ、ドレガ當事者カ殆ド分ラヌヤウデア
ルト云フヤウナ御意見ヲ以テ御尋ニナリマシ
タガ、爭議ノ起リマシタ場合ニ於テハ、自
ラソコニ一時の又ハ永續の團體ガ出來ル
ノデアリマス、其團體ガ當事者デアルト大

體ハ見テ第一條ハ定メテアルノデアリマ
ス、而シテ誰ガソレナラバ請求スルカ、即
チ一時の又ハ永續の團體ノ代表者、幹部
ノヤウナ者ガ請求スルコト云フコトヲ豫定
シテ第一條ハ規定シテアルノデアリマス、
ソレカラ更ニ第三ニ御尋ニナリマシタ所
ハ、第一條ニ於テハ當事者ノ請求ニ依テモ
出來ルガ、又行政官廳カラ必要ト認メテ委
員會ヲ作ルコトモ出來ルヤウニナツテ居ル、
成ベク自由ニ委スベキモノガ、當事者一方
ノ請求デ直ニ調停委員會ガ出來タリ、又ハ
行政官廳ノ意思ニ依テ調停委員會ガ出來
ルト云フコトハ、折角圓滿ニ調停ヲサセヤウ
ト云フ趣旨ニ反スル、斯ウ云フヤウニ御觀
察ニナツテ居ルヤウデアリマス、併シ第一
條ノ第一項ト第二項ト、雙方ヲ對照シテ御
覽ヲ願ヒタイノデアリマス、第一條ノ第一
項ハ、是ハ公益事業ニ付テ爭議ノ起リタ場
合デアリマス、即チ爭議ノ結果第三者タル
公衆ガ大ニ迷惑スル場合ガ第一條ノ一項ニ
規定シテアル、第二項ニハ左様ナ公益事業
ニ關係ノ無イコトガ規定シテアルノデアリ
マス、ソコデ公益事業ニ關係シテ居ルコト
ニ付テ爭議ガ起リマスレバ、其時ハ當事者
ノ何レカ一方デ請求スルコトモ出來ル、場
合ニ依レバ行政官廳ガ、其意思ニ依テ調
停委員會ヲ設ケシメルコトモ出來ルノデア
リマス、何故サウ云フヤウニ致シタカト云
フト、是ハ資本家ト勞働者タル雙方ノ爭議
ハ、雙方ノ迷惑ダケニ止リマセヌデ、此爭
議ノ結果ハ第三者タル公衆ノ利益ニ大ナル
關係ガアリマスカラ、公衆ノ利益ヲ保護ス
ルガ爲ニ、行政官廳カラ認メテ必要ト思
タ
時ニハ、向ホ調停委員會ヲ開クヤウニ致シ
タノデアリマス、之ニ反シテ公益事業ニ關
係ノ無イ事、即チ資本家ト勞働者トノ間ノ
ミノ爭デアリマスナラバ、是ハ官廳カラ委
員會ヲ進ンデ開設スルト云フコトハ致シマ
セヌ、是ハ必ズ當事者雙方ノ請求デナケラ
ネ
バ調停委員會ヲ開カヌ、斯ウ云フヤウニシ
テアルノデアリマスカラ、此一項ト二項ヲ
對照シテ御覽下サルコト云フト、自ラ其間ニ
一方ニ於テハ行政官廳ガ自ら進ンデ爲ス場

合ト、一方ニ於テハサウデナイト場合ト、區
別ノアルコトガ明瞭ニナルト思フノデアリ
マス、尙又行政官廳ガ進ンデ調停委員會ヲ開
イテ、サウシテ其結果、其極、タコトガ必ズ強
制セラル、ヤウニナルノデアレバ、或ハ行
政廳ガ進ンデ開イテモ宜イカモ知ラヌガ、
委員會ノ決定ニハ強制力ガ無イノデアアル、
サウ云フモノナラバ何モ委員會ヲ行政官廳ガ
進ンデ開ク必要ハナイデヤナイト云フ御
考モアルヤウデアリマス、併シ茲ニ委員會ヲ
開イテ一種ノ決議ガ出來タト云フコトハ、
是ハ縱シ強制力ガアリマセヌデモ、爭議ノ
場合ニ於テハ大變有力ナルモノデアリマ
ス、免ニ角此問題ニ當テ雙方カラノ代表
者、並ニ利害關係ノ無イ第三者ガ集テ、
ドウシタラバ宜イカト云フ意見ガ茲ニ一ツ
出來タト云フコトニナレバ、其意見ニハ強
制力ガ無クとも、自ラ之ニ顯ミテ公平ナル
考ハ如何サマ彼所デアラウト云フ考ガ起ル
ト云フコトガ、爭議ヲシテ速ニ解決セシム
ル所以デアリマスカラ、強制力ガ無クても
尙ホ必要デアルノデアリマス、而シテ始カ
ラ開クヨリモ、尙且ツ開會ヲイテ強制力ノ
無イ意見デモ免ニ角茲ニ定メタ方ガ、問題
ヲ落付カセル上ニ於テハ大變ニ利益ガアル
ト思フノデアリマス、第十一條ニ於テ調停
委員會ノ議事ガ過半数決メタルコトニナ
テ居リマスガ、可否同數デアルト時ニハ、議
長ガ決メタルコト云フコトニナツテ居リマス、之
ニ就テモ藏園君ハ、斯ウ云フ委員會ハ成ベ
ク自由ニセナケレバナラヌ、兩方ノ意見ガ
相半バシテ居ルノニ、議長ニ採決サセテ、
議長ノ意見ニ依テ其會ノ意見ヲ定メルヤウ
ニスルノハ却テ宜クナイト云フ御觀察ノヤ
ウデアリマス、政府ハ左様ニ見ナイノデア
リマス、凡ソ會議ニ於テ可否兩方ニ岐レタ
ナラバ、議長ガ之ヲ決スルト云フノガ、殆
ド會議法ノ通例ノ原則ニナツテ居ルノデア
リマス、此場合ニ於テモ、免ニ角兩方ニ岐
レタトシテモ、議長ノ最終ニ決メタ意見
ハ、ドウ云フモノデアリカト云フコトガ茲
ニ現レマス、勿論ソレニハ強制力ハ無イノ
デアリマス、強制力無クとも、此意見ノ現

レルト云フコトハ、爭議ヲ解決ニ導ク上ニ於テ大ニ便宜ナルト存ジマスカラ、矢張會議ノ通例法ニ依テ、可否同數ノ場合ハ議長ヲシテ其意見ヲ述ベシメテ、之ニ依テ決定スルノガ相當ナルト考ヘテ居ルノデアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 清瀬一郎君

(清瀬一郎君登壇)

○清瀬一郎君 爭議調停法ニ關シ、二三大體ノ點ニ付テ御伺フ致シマス、第一ニ政府ノ方デ勞働立法ト云フコトヲ、内閣ノ重要ナル使命案件ト致サレテ居リマス、左様致シマスルト、此立法ノ目標ト云フモノニ付テハ、本來極テ明確デナクハナラヌト私ハ考ヘル、我國ノ産業上、我國ノ社會上如何ナルコトヲ是デシヤウカト云フコトガ、閣議ノ確ニ定テ、或ハ罷業權ヲ認メナクハナラヌ、強制仲裁ヲ行ハナクハナラヌ、團體協約ノ效力ヲ認メナクハナラヌ、即チ勞働立法ニ依テ何ヲシヤウカト云フコトガ、内閣ノ方針トシテ閣議デ明確ニ定マラナクハナラヌノデアアルニ拘ラズ、最近政府ノ立案ノ御方針カラ拜察致スト云フト、ソレガ甚ダ明確デナイヤウニ考ヘルノデアリマス、如何ニシテ此勞働立法ガ衆議院ノ壇上ニ現レタカヲ考ヘテ見マスルト、先ツ社會局ニ於テ立案ヲサレテ、社會局立案ノ經過ハ比較的明瞭ニ、世ノ中ニ知レ渡レテ居リマス、當時私ハ內務省ノ一局デアルガ故ニ、社會局デ立案シ法律ニシタモノハ、元來ガ内閣ノ意ヲ承ケテサウ云フ立法ヲスルモノデアルト考ヘテ居タ、又立憲責任國——内閣ノ國ニ於テハ斯クナクハナラヌノデアリマス、内閣ノ承認モ得ナイ所ノ法案ヲ下ノ方ノ局デ以テ作テ、而モソレヲ公然新聞ニ發表スル、社會局案デアルト云フアレドモ、社會局ハ獨立ノ官廳デハナイ、内閣ノ一部分、政府ノ一部分デアル、所ガ其經過ヲ拜承シテ見ルト、今度ハ行政調査會ト云フモノニ引掛、テシマッタ、全體行政調査會ト云フモノ、本體ハ、私共未ダ議院デハ承知致シテ居リマセヌ、兎モ角モ政府ノ役人等ガ集テ相談ヲ

スル所デアリマセウ、此行政調査會ヘ持テ行クト云フト、社會局デ考ヘテ非公式ニモセヨ、發表サレタモノガ、今度ハ減茶苦茶ニナリテ居リマス、殆ド其骨子ハ骨抜ニナリテシマッテ居リマス、同ジク名前ハ勞働組合法、爭議調停法トハ申シマスルケレドモ、其骨子ハスツカリ違ッテ居ル、ソレニ政府ハ袖手傍觀致シテ居タ、其中ニ議會ガ始メテ政府ノ方ハ高等政策ニ御忙シイ、法制局ニ廻テ二三字句ノ變更ヲ受ケ、到頭忙シイ最中ニ内閣閣議トカ何トカ云フノデ、五分カ十分ノ間ニ内閣諸公ガ相談サレテ、出テ來タモノガ此勞働立法デアル、斯様ナ經過ニナリテ居リハシナイカ、若シソレガ事實デアルトスルト、政府ハ勞働組合法、爭議調停法ト名ノ附クモノサヘ出セバ、ソレデ宜イノデアッテ、内容ハ第二デアル、日本ノ國ノ勞働行政ヲドウスルカト云フコトニ付テ、本來的確ナル目標ヲ定メズシテ、此問題ニ當面サレタノデハナイカ、甚ダ之ヲ疑フノデアリマス、故ニマダ勞働法ハ出來テ居リマセヌ、今日出シタノガ極ク其頭デアリマス、是カラ逐次出ルデアリマセウガ、既ニ總理大臣ガ内閣ノ重大使命トシテ、稅制ノ整理ト勞働立法ハ此内閣ノ重大使命デアルトシテ聲明サレタ以上ハ、日本ノ勞働法ニ如何ナル主義、如何ナル理想ヲ與ヘントシテ内閣ハ立タレタノデアアルカ、仍テ以テ内閣ノ立タレタ所ノ勞働法ノ大精神ノ在所ヲ御發表アランコトヲ希望致スノデアリマス、是ガ全體ノ勞働法ニ關スル質問ノ一ツデアリマスルガ、第二ニ藏園君モ既ニ稍、其一面ヲ觸レテ御質問ニ相成ッテ居リマスガ、今此勞働立法ヲ審議スルニ極メテ好イ時機デアルカドウカ、憲政會ガ數年來勞働立法ニ注意サレ、既ニ野ニ在ッテ主張サレタコトヲ今之ヲ行ハントサル、ト云フコトニ付テハ、吾々異存ハナイガ、併ナガラ此兩三年ノ間ニ事情ガ非常ニ變化致シタルコトヲ御認ニナラナイカ、事情ノ變化ト云フノハ二ツデアッテ、一ハ我國ノ立法ノ現在所謂普通選舉デアアル、一ツハ勞働團體ノ態度デアリマス、既ニ普通選舉ガ施行セラレ

テ、兎モ角モ勞働ノ代表ト云フ者ガ議場ニ現レルノデアリマスルカラシテ、其時迄御待ニナル譯ニハ參ラヌカ、尤モ數年以前ヨリシテ吾々モ亦勞働組合ナルモノヲ提案致シタケレドモ今日ト相成リタルモ事情ハ變化致シテ、勞働ノ代表ト此所デ審議スル機會ガ免モ角モ勞働ノ代表アルカラシテ、ソレ迄待テナイカ、モウ一ツハ元來ガ組合法律爭議調停法ナドヲ立案スルト云フコトハ勞働保護ガ出發點デアッタ、無論形式上ノ議論ヲスレバ勞働立法ハ産業ノ爲デアル、資本ノ爲デアアル、勞働ノ爲デアアル、斯様ニ言フノデアルケレドモ、實際ハ左様ナ餘所行言葉ハ拔キマシテ、本當ノ内心ハ何デアアルカト云フト勞働者ノ要求ニ起ッテ居ル、ドウシテモ資本ト勞働者其儘現在アリノ儘ニ見ルト、勞働ガ負ケ勝テアル、是デハ眞ニ人類ノ幸福ノ圖ル所以デナイト云フコトガ、勞働運動ノ根本ニナル、是ト牽聯シテ勞働立法ナルモノガ起ッテ居ルノデアル、本來ガ勞働方面ノ要求ヲ根柢基礎トシテ立脚スベキ勞働立法デアアルガ、倏然ラバ其勞働方面ノ意見ハドウデアアルカ、數年以前トハ異リ、今日ニ於テハ勞働組合勞働爭議調停法ニ反對致シテ居ル、日本ニ現在存在スル勞働組合ハ全部舉テ反對ヲ致シテ居ル、只一ツノ組織勞働者モ此法案ニハ賛成致シテ居ラヌ、一昨日ノ示威運動ニ於テモ是ハ明白デアアル、勞働者ノ要求デ以テ元々出發シ來タ所ノ勞働法ト云フモノガ、世ノ中ノ變化ニ依テ勞働者ハソレデハイケナイ、御免蒙ルト云フノ、ソレヲ此所デ審議シテ、無理押ニ是等ノ人ニ勞働法規ヲ押付ケルト云フノハ、一體今其時機デアルカドウカ、是モ形式論トシテハ如何様ニモ論ゼラレマセウ、一體今日ノ立憲制度ニ於テハ選舉法ハドウデアッテモ、議會ト云フモノハ國民ノ代表ダ、吾々ニ於テハ代表者ノ無イ植民地ノ事モ議スレバ、代表者ノ無イ無產者ノ事モ議スルノダト云フノガ、憲法上ノ形式論デアリマスケレドモ、實際ニ至リマスト云フト、己ノ苦痛痛痒ハ人ニ訴ヘテモ了解ハ出來ナイ、唯、其人ノ能ク之ヲ知ルノデアリ

マス、即チ勞働生活ニビツタリ合ッテ所ノ立法ヲシヤウト云フコトヲ心懸ケレバ、憲法上ノ理論ハ儲置イテ、ソレ等ノ者ニ參與ノ機會ヲ與ヘタル後ニ之ヲ議スルト云フコトガ、道ノ順序デハアルマイカ、私ハ憲法ノ理論ヲ言フノデアリハ、實際ト致シテ最早目標ガ見エテ居ル、一體是モ理論デハアリマセヌガ、茲ニ一ツ法規ヲ作リマスト云フト、從前ノ經驗上中ニ其法規ヲ變更スルコトハ困難デアリマス、前ノ治安警察法デモ、前ノ選舉法デモ、如何ナル理由デアリマスルカ、一旦出來マシタ法律ヲ變更スルト云フコトハ、中ニ出來ルコトデハナイ、茲デ以テ我國ノ勞働法規ト云フモノガ決シマヘバ、今カラ二十年間ト云フモノハ、中ニハ變更ハ出來マスマイ、勞働者ガ見マシテ、自己ノ階級ニ依テ少シモ代表セラレズ、而モ其議會ノ開會費頭ニ當ッテ、反對ノ示威運動ヲシテ居ル、其節ニ於テ作ラレタ法律ニ依テ、今カラ二十年間拘束セラレナクハナラヌト云フコトハ、彼等ノ身ニ取ッテハ中々ノ苦痛デアアル、ドウシテモ是ガ最初私ノ質問シテ居ルコトニ牽聯致シマス、内閣ニ於テ我國ノ勞働行政一日モ忽セニスベカラザル所ノ主義、主張、信念ガオアリニナルナラバ、而シテ之ヲ緊急ト御考ニナルナラバ、議會ヲ解散サレテ、其上デ之ヲ提案サレルダケノ勇氣ト確信ガナクハナラヌト考ヘル、漫然トシテ議會ハ其儘ニシテ置ク、勞働法規ト云フ名ノ附イタモノハ、出シテ見タイ、サウ云フ微温ナルコトデ、此法規ト云フモノヲ通過サセテ置ク譯ニ吾々ハ參ラスト思フノデアリマス、世間或ハ說ヲ爲ス者ガアッテ、今カラ普通選舉デモ實行サレ、バ、生溫イ勞働立法ト云フモノハ減多ニ通過ハシナイ、一層今ノ間ニ或ル程度ノ勞働組合法、爭議調停法ヲ作テ置クト云フト、將來是ハ容易ニ變更サレナイモノデアルカラ、茲デ以テ先手ヲ打ツ方ガ宜カラウト云フヤウナ考デアラナドト云フコトヲ宣傳スル者ガアリマス、私ハ之ヲ信ジマセヌケレドモ、結果ニ於テハソレト同様ニナリハシナイカ、要スルニ第二ト

致シマシテ、政府ガ、此議會、今ノ時機ヲ
勞働立法制定ノ時機トシテ御擇ビニナシ
理由ハ那邊ニ存スルカ、此點ニ付テ御意見
ヲ承リタイト考ヘマスル、ソレカラ第三ニ
此爭議調停法ノ根本主義デアリマスル、是
ハ表面ニ於テハ調停ノ結果ヲ強制シナイ主
義デアリマスケレドモ、實際ニ於テハ、中
強イ強制主義ヲ含シ居ル法案デアリマ
スル、我國ニ於テ初テ爭議調停法ナルモノ
ヲ制定サレルニ、如何ナル階段ヲモ經ズシ
テ、一躍スノ如キ強制調停ヲ御立案ニナル
趣旨ハ那邊ニ在ルカ、此規則ニ依リマスル
ト、先ツ第一ニ裁斷者モ指摘サレタヤウニ、
調停ヲ望ミナイデモ——當事者双方ガ調停
ヲ望ミナイデモ、行政官廳ノ職權デ、調停
ヲ始メルコトガ出來ル、即チ調停開始ニ付
テノ強制主義デアリマス、所ガ一旦調停ガ
開始サレマスルト、ドウ云フ結果ニナルカ
ト云ヘバ、其結果ハ同盟罷業ヲ禁止スル、
斯ウ云フコトデアル、法文ニハ同盟罷業ノ
禁止ト書イテアリマセヌ、法文ニ書イテア
ル所ハ、同盟罷業ノ勸誘ノ禁止デアル、ケ
レドモ同盟罷業ト云フハ、讀ンデ字ノ如
ク、同盟シテ罷業スルノデアルカラ、同盟
即チ勸誘ヲ禁止スレバ、同盟罷業ハ禁止サ
レテ來ル、即チ此案ノ骨子ト云フモノハ、
場合ニ依リテハ、政府ノ力デ以テ調停ヲ開始
シ、調停開始ノ名ノ下ニ同盟罷業ヲ壓迫シ
ヤウ、禁止シヤウ、斯様ナルコトデアル、
全體斯様ナル調停ノ方法ガ成功スルモノデ
アルカドウカ、甚ダ疑ハシイ、何故ニ一躍、
今マデ何等調停機關ト云フモノ、經驗ノ無
イ此日本ニ於テ、イキナリ斯ノ如キ強イ強制
調停ヲ御主張ニ相成ルカ、何所ノ國ノ歴史ヲ
見テモ、任意調停ヨリ強制調停ニ至ル、當
事者同士ガ調停ニ付サウト云フ約束ヲシテ、
法律ガ無キニ當リテモ調停ノ約束ヲスルト
云フ慣行ガ、漸次發達致シテ、終ニハ強制
調停ニ趨クコトガアリ得ルノデアリマス

ガ、未ダ其經驗無キ我國ニ於キマシテ、イ
キナリ強制調停ヲサレテ果シテ是ガ實行出
來ルモノデアアルカドウカ、獨リ同盟罷業ノ
禁止ノミナラズ、尙ホ茲ニ重大ナル事ハ、
第一條ノ第四號ニハ「第一號乃至第三號ノ
事業ニ電氣ヲ供給スル事業ニシテ其ノ休止
カ第一號乃至第三號ノ事業ノ進行ヲ著シク
阻害スルモノ」ハ、矢張強制的ニ調停ヲ開
始スル、著シク阻害スルト云フ言葉ハ、行
政官廳ニ於テハ、此會社ハ電氣會社ニ電氣
ヲ賣ル、電氣ヲ賣ル數量ハ少イケレドモ之
ヲ止メレバ交通ノ上ニ差支ガ生ズルト云フ
ノデ、著シク阻害スルト云フ解釋モシヤウ
シ、勞働者ノ側ニ於テハ、電氣ハ他ノ會社カ
ラデモ買ヘルカラ著シク阻害シナイ、即チ爭
議調停法ニ入ル場合デナイト云フ理窟ヲ申
ス場合モアリマセウ、而シテ此理窟ハ誰ガ
一體之ヲ審判スルカ、行政官廳ノ方デハ調
停ニ付シテ宜シイ事業デアルト云、テ頑張
リ、勞働者ノ方デハ是ハドウモ怪シカラヌ、
調停ニ付スベキ場合デナイト頑張ル場合ニ、
誰ガ、裁判スルカ、結局ハ勞働者ガ如何ニ言
テモ、ナニ政府ノ御意向デアルト云フノデ
調停ノ開始ニナル、調停ノ開始ニナレバ同
盟罷業ノ禁止トナル、彼此レ言フ者ハ悉ク
檢束サレルト云フコトニ相成ル、其意ニ非
ズシテ調停ヲ開始シ、一方デ友達ガ檢束サ
レルツ、其席デドウシテ調停ガ成立スルノデ
アルカ、手ヲ括リ、足ヲ括リ、是デオ前ト
俺ト和解ノ談判ヲシヤウデハナイカト云
フ、強盜ノ如キ違方デ以テ、眞ノ調停ガドウ
シテ出來ルモノト御考ニ相成ル、マダソレ
ヨリモ私ガ危險ニ考ヘルハ、第一條ノ第
五號ヲ見マスルト、今總理大臣ハ公衆ノ爲ニ
必要ナル物ニ付テノ強制調停ヲスルカ
如キノ口吻ヲ漏サレタ、所ガ之ニ危險ガ隨
伴スルハ、一項ノ第五號ヲ以テ「其ノ他公
衆ノ日常生活ニ直接關係アル事業ニシテ勅
令ヲ以テ定ムルモノ」勅令ト云フモノハ、

今日ノ實際ニ於テハ政府ノ奏請スル儘ニ發
布サレルモノデアリマス、即チ政府ノ意ノ
儘ニ勅令ハ發布サレマスガ、其ノ他公衆ノ
日常生活ニ直接關係アルモノノ工業上今ノ
大量生産ト云フモノハ、多クハ衣食住、日
常生活ニ直接關係アラザルハナイ、繪ヲ
描クトカ、彫刻スルトカ云フ風ナ事業ハ決
シテ工場デハ行ハレナイ、工場デハ行ハレ
ルハ、織物ヲ織ルトカ、絲ヲ紡グトカ、食
器ヲ製造スルトカ、器械ヲ製造スルトカ、
日常生活ニ關係アルモノガ即チ今日ノ製造
工業、第五號ノ公衆ノ日常生活ニ直接關係
アルモノト云ヘバ、殆ド新規ニ設立サル、
所ノ工業ヲ皆包含スル、サウシテ勅令ヲ以
テシマスレバ、直ニ強制調停ニ附セラル、
ノデアアルカラ、結局此案ハ、極言スレバ日
本ニアル目星シイ産業ハ、悉ク此案デ支配
サル、コトノ門戸ハ矢張開ケテ居ルモノト
見ナケレバナラヌ、後二項ヲ改メテ、政府
ガ如何ナルモノヲ勅令ヲ以テ定メントスル
カノ内意ハ、聞ク積リデアリマスガ、免モ
角モ斯ノ如ク門戸ガ開ケテ居テ、而モ一旦
強制的ニ調停ガ開始サル、ト云フト、同盟
罷業ノ勸誘サヘモ出來ナイト云フコトニシ
テ置イテ、諸當事者ヲ呼ンデ今カラ調停ニ
這入レ、十五日間同盟罷業ヲ禁ズルト云フ
ト、大抵ノ勞働者ハ參ッテシマウ、獨リ勞働
者ノ方面デ參ルノミナラ、資本家ノ方面デ
ハ大抵新規ノ勞働者ノ募集モ、手當モ出來
マスル、サウシテ置イテ、サテ調停ヲシロ
ト云フコトデ、一體産業平和ト云フモノガ
保タレルモノカドウカ、既ニ此案ノ成立ニ
付テモ勞働者階級ハ全然反對、結束シテ
立ッテ居ル、出來ル始メカラ反對ノアル法
律、出來テシマッテ手足ヲ括リテ引張出ス調
停、ソナナ調停デ以テ産業ノ平和ガ保タレ
ルト御考ヘニ相成ルノカドウカ、或ハ今日
ノ調停法規ノ趨勢ハ、任意主義ヨリシテ協
定主義ニ移リツ、アルト説明ヲスル學究ガ

アルカモ分ラヌ、デ此調停ニ向ッテ多少ノ
協定ヲ容レタ所ノ法規ト云フモノハ、一ツ
ハ英吉利、獨逸ノ戰時法デ、他ノ一ツハ濠
洲、加泰陀ニ於テ行ハレタ法規デアル、英
吉利獨逸ノ戰時法デ、是ハ戰爭ノ際ノ必要
條項デアル、戒嚴令ヲ布ク代リデアル、戰
爭ノ際ニ其必要ノ爲ニ、勞働ニ向ッテ強制
壓迫ヲ加ヘタカラト云ッテ、今日之ヲ平和ノ
日本ニ於テ行フコトハ出來ナイ、況ンヤ英
國ニ於テ所謂軍需品法ナルモノニ依テ、強
制調停ヲ始メタ結果ハ如何デアアルカト云
フト、大失敗デアル、千九百十五年ノ六月ニ
軍需品法ヲ始メ同盟罷業ヲヤッタ者ニ付テ
罪ヲ科スル、所ガ同年ノ八月ニ「ウエルス」
ニ於テ炭鑛罷業ガ行ハレ、罷業スル者ハ幾
十萬人、英國中ノ監獄ヲ以テモ之ヲ收容ス
ルコトガ出來ナイ、到頭總理大臣ノ「ロイ
ドジョーヂ」モ降參シテシマッタ、即チ此
法規ハ失敗ニ終ッテ居リマス、唯、地方ノ區
區タル軍需品工場ニ於テ大分人ヲ檢束致シ
テ居リマス、檢束ノ數ガ多イカラ成功シタ
ト云フナラバ、是ハ中ニ犯罪ノ製造ニ於テ
妙デアッタ、千九百十五年カラ一箇年ノ間
ニ、英吉利ニ於テ一萬六千九百三十人ノ被
告人ヲ出シテ居ル、軍需品法ハ被告ヲ造ル
ト云フコトニ於テハ成功シタケレドモ、産
業平和ヲ齎ラスト云フコトニハ失敗ヲ致シ
タ、既ニ戰爭ガ終ッタ千九百十九年ニハ、
到底英吉利ノ此強制調停ハ破棄シテシマ
テ、自由調停ニ復シテ居リマス、濠洲加泰
陀等ニ於テ強制主義ガ異議ガナイト云フコ
トニ於テハ一ツノ理由ガアル、向フノ國ハ
勞働階級ノ勢力ガ旺盛デアッテ、殊ニ政治上
ニ於テ旺盛デアッテ、立法機關、行政機關ハ
ソレ等ノモノ、利益ノ爲ニ運用サレテ居リ
マスル、ソレ故ニ濠洲ニ於テ強制調停ガ異
議ナク行ハレテ居ルト云フコトハ、勞働階
級ガ政府ノ機關ニ信任ヲ致シテ居ルカラデ
アル、又ソレガ出來マシタ來歴ヲ考ヘマシ

テモ、彼ノ新西蘭ニ於テ強制調停ヲ始メタ
ノハ千八百九十四年デ、九十年デアツカ
九十年乃至九十二年ノ間ニ、或ハ海軍ノ罷
業、或ハ羊毛工ノ罷業、礦山ノ罷業、大罷
業ガ頻發致シテ、勞働團體ノ方カラ任意調
停ヲ申出タケレドモ、資本家ガ承知シナイ、
資本家ノ方デ任意調停ヲ承知シナイカラ、
到頭ノ罷業モ慘敗ニ終リタ、悉ク負ケタ、
ソレデハイケナイト云フノデ、資本家階級
ヲ調停ニ屈服サス爲ニ、急進自由黨ノ勞働
黨ノ力ヲ以テ強制調停主義ト云フモノヲ始
メタノデアリマス、丁度我國トハ反對デア
リマス、我國ノ今日ニ於キマスルコトハ全
ク反對デアリテ、事實ハ如何デアルカ知ラ
ヌケレドモ、今日ノ勞働階級ト云フモノガ、
我國ノ官僚——知事、警察部長、日本ノ官
僚ニ向テハ味方デアルト云フ信任ヲ致シ
テ居リマセヌ、政府ニ對シテモ其通りデア
ル、サウ云フ國柄ニ於テ強制調停ガ成功ス
ルト云フコトハ、是亦保證ノ出來ナイコト
デアル、加奈陀ヤ澳洲ニ於テ是ガ成功シタ
カラト云テ、政府ガ資本階級ノ支配ノ下
ニ在ル國デ以テ、是ガ成功スルトハ考ヘラ
レナイ、要スルニ此第三點ノ質問ハ、我國
ノ今日ノ現狀ニ於テ、未ダ調停制度ノ經驗
ナキ我國ニ於テ、而モ我國ノ行政組織ガ官
僚系統ノ獨占ノ下ニ在リ、噫カ、本當カ知
ラヌケレドモ、資本家階級ノ支配ノ下ニ在
ル日本ニ於テ、強制調停ト云フモノガ實行
可能デアルト云フ御考デアラウカ、ドウカ、
此理由ニ付テ拜承致シタイノデアリマス、
第四ニ全體ハ打倒御尋デアリマスル
ガ、此爭議調停法ト云フモノヲ御立案ニ
ナツタ根本精神ハ、罷業ヲ制限スルト云フ
コトヲ主トサレタノカ、産業平和、即チ和
解ヲ主トサレタノカ、問フマデモナク調
停法デアルガ故ニ、調停ヲ主トシタモノ
デアルト云フ御答ガアルカモ知レナイ、或
ハ又雙方目標トスルト御答ニナルカモ

分ラヌガ、能ク此法案ニ付テ考ヘテ見マ
スルト云フト、斯ウ云フコトニナリテ居ル、
調停ハスルケレドモ調停ニ服従スル
ト否トハ勝手次第デアアル、調停ガ成立シ
ナイデモ一向構ハヌ、ケレドモ調停ヲ開始
スルト云フト、同盟罷業ダケハ禁ズル、是
ハ十九條デアアル、前ニ申シタヤウニ罷業ソ
レ自身ヲ禁ズルトハ云テ居リマセヌガ、同
盟ハシテハイケナク、勸誘ヲシテハイケナイ、
斯ウ云フノデアリマスガ故ニ、同盟罷業
ハ禁ゼラレテ居ル、調停ハ出來テモ出來ヌ
デモ、服従ハセヌデモ宜イガ、罷業ダケハ
スナト法律ニ書イテアリ、此法律ノ提案ハ
治安警察法第十七條ト交換問題デアルカノ
如クニ御出シニナリテ居ル、十七條ハ申ス
マデモナク同盟罷業壓迫ノ法律デアリテ、
過去十年ノ間ノ政治上ノ問題ニモナリ、社
會上ノ問題ニモナリテ居ル、十七條ノ代リ
二十九條ヲ以テ來ルト云フ技巧ヲ弄サレ
テ居リマスルガ故ニ、此法案ト云フモノ
ガ、本來産業上ノ平和ナドト云フコトハド
チデモ宜イノダ、先ツ罷業ト云フモノハ場
合ニ依テハ電車ノ運轉モ出來ナクナリ、水
道ガ止ル、ソレデハ困ル、罷業ヲ一ツ壓迫
シヤウト云フ考ヲ以テ御作リニナツタノデ
ハナイカ、ソレナラバ罷業ヲ禁ジナクテモ
爲セタラ宜カラウ、元來ガ甚ダ陰險デア
リテ、調停法ト云フ名前ヲ附ケテ手ヲ括リ足
ヲ括リテ、調停ハ出來ヌガ——シテモ宜イ、
シテモ宜イガ、ドツチデアリテモ同盟罷業
ダケハ十五日間スルナ、十五日ノ中ニ學生デ
モ呼ンデ來テ電車ノ運轉モ出來レバ、又罷
業スル方モ資金ガ盡キルデアラウ、サウス
ルト云フト玆ニ始メテ問題ガ解決スル、斯
ウ云フ風ナ構造デアルトシマスルト云フ
ト、今日勞働階級ガ反對スルコトハ洵ニ無
理カラヌコトデアアル、若モソレデナイト致
シマスレバ、此法案ハ吾々ハサウデナイヤ
ウニ修正ヲ致サナケレバナラヌ、是ガ即チ

第四ノ質問ノアル所以デアリマス、終リニ
第五ハ是ハ條項ダケヲ簡單ニ申上ゲマス、説
明ノ必要ハナイ、一條ノ第一項第四號——
イヤ第一項第五號デス、即チ「公衆ノ日常
生活ニ直接關係アル事業ニシテ勸令ヲ以テ
定ムルモノ」、此法案ガ通過スレバ、ソレ
ヲ翌日ニモ勸令デ御出シニナルモノデアリ
マセウガ、如何ナル事實ヲ勸令デ以テ規定
サレルカ、紡績業モ入ルカ、或ハ鐵工業モ
入ルカ、或ハ政府ノ船舶請負ノ船舶事業
モ入ルカ、如何ナル程度マデ入ルカト云
フコトヲ考ヘテ置カナケレバ、此調停立法
全體ヲ吾々審議スル上ニ於テ決心ノ膽ガ違
ヒマス、又考ヘテ居ラスト云フコトナラ
バ、一先ツ之ヲ削除致サナケレバナラヌ、
考ヘテ居ラヌヤウナモノハ法律ニ作ル必要
ハナイ、以上五點ニ互リマシテ政府ノ所見
ヲ伺ヒタイト思ヒマスルガ、詳細ハ政府案
デアリマスルガ故ニ、委員會ニ於テ質問致
ス積リデアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 若槻内閣總理大臣
〔國務大臣若槻禮次郎君登壇〕
○國務大臣(若槻禮次郎君) 清瀬君御質問
ノ第一點ハ、政府ハ勞働立法ヲスルノニ内
閣デ方針ヲ決メテ置イテ調査ヲセンケレバ
ナラス、然ルニ内務省デ調査ベタリ、行政調
査會デ調査ベタリ、而シテ閣議ハ僅ノ期間ニ
於テ之ヲ決定シタヤウニ見エルガ、ソレデ
ハ内閣ハ勞働立法ノ何所ニ目的ヲ置イテ居
ルカ、何所ニ勞働立法ノ主義ガアルカ分ラ
ヌト云フヤウナ御質問ノヤウデアリマス、
政府ガ議會ニ提出致シマスル法案ハ、其間
色々ナ手ヲ以テ調査スルコトハ是ハ他ノ法
律ニ於テモ皆アルコトデアリマス、社會局
デ調査ヲ致シマセウガ、内務省ノ本省デ調
査會デ調査マセウガ、ソレハ唯、政府内輪
ノ調査デアリマス、内閣ハ總テノ慎重ナル
調査ヲ經テ、一番今日ノ日本ノ狀態ニ適合
スル勞働立法ヲシャウト云ウテ議會ニ提出
スルノデアリマスカラ、提出シタ勞働立法
ガ善イカ惡イカハ、清瀬君其他議員諸君ノ
御隨意ニ御判斷ナサル所デアリマス、併シ
政府ノ所見ガ何所ニ在ルカト云ヘバ、議會
ニ提出セラレタル案ニ於テアリマスノデ、
議會ニ提出スルマデニ慎重ナル調査ヲ盡
スト云フコトハ、政府ノ確信アルコトヲ示
モ妨グルモノデハナイノデアリマス、第二
ノ御質問ハ、今日勞働立法ヲスルニ及バナ
イデヤナイカ、勞働組合法ニモ反對者ガア
ル、勞働爭議調停法ニモ大變ニ世間ニ反對
シテ居ル、今ヤ將ニ普通選舉ガ行ハレント
シテ居ル、勞働者自身モ代表者ヲ議會ニ送
リ出サウトシテ居ル、サウ云フ際ニ何モ今
日之ヲ立法セヌデモ、所謂普通選舉制ノ行
ハレタ後ニ立法スレバ宜イデヤナイカト云
フノガ、第二ノ御質問ノヤウデアリマス、
勞働爭議ノ調停法ハ先程申上ゲマシタ通り、
爭議ノ或ル事業ガ、資本家ト勞働者ノ爭ガ
兩者ノ各ノ利益ヲ侵スダケニ止リテ居リマ
スレバ、マダト堪ヘラル、ケレドモ、公衆
ト云フ第三者ガ非常ノ迷惑ヲスルコトガア
ル、電車ニ付テ同盟罷業ガ起ル、鐵道ニ付
テ同盟罷業ガ起ル、瓦斯ニ付テ同盟罷業ガ
起ル、電氣ニ付テ同盟罷業ガ起ル、日常生
活ガ直ニ脅カサル、ノデアリマス、ソレ故
ニ此公衆ト云フ政府ガ最も保護ヲシナケレ
バナラヌ者ニ對スル保護ヲ完ウスル上カラ
ハ、勞働爭議ノ調停法ナルモノハ、一日モ速
ニ之ヲ制定スル必要ガアルト見テ居ルノデ
アリマス、尙ホ勞働組合法ト雖モ、私ハ唯、
是ハ勞働者ノ利益便利ノ爲ニノミ制定スル
モノデアルトハ思ハマノデアリマス、固ヨ
リ勞働者個々ノ力ガ弱イ爲ニ、協同ノ力デ
其主張ヲ成ベク遂行セシムル便宜ヲ與ヘタ
イト云フ意味ハ十分アルノニハ相違アリマ
セヌケレドモ、ソレト共ニ勞働立法ノ立法
ノ仕方ガ惡イガ爲ニ、日本ノ經濟界ニ非常

ナ、不利益ナ關係ヲ及ボシマスナラバ、ソレハ帝國全般ノ不利益デアルト共ニ、同時ニ勞働者自ラ其不利益ヲ受ケナケレバナラヌコトニナル、ソレデアリマスカラ帝國ノ經濟全體ノコトヲ考ヘテ勞働立法ヲスルト云フコトガ、勞働者ニモ必要デアリ帝國全般ノ爲ニモ必要デアル、其意味カラ申シマスレバ、成ベク速ニ帝國ノ經濟のニ最も必要ナル勞働立法ヲスルノガ大切デアル、此意味ニ於テ今日之ヲ爲スコトハナットモ妨ゲナイと思フデアリマス、ソレカラ第三ノ御尋ハ、調停法ハドウ云フ主義デ出来テ居ルノデアルカ、強制的ニ調停法ガ出来テ居ルト云フヤウナ御考ヲ以テ主トシテ御論ジニナツタヤウデアリマス、是ハ行政官廳ガ必要ト認メタ時ニハ、調停委員會ヲ開カシメルコトガ出来ルト云フ規定ヲ抑ヘテ、強制法ダト云フ御論結ヲ爲サレタモノダト思ヒマスガ、私共ハ強制法デアルヤ否ヤト云フコトハ、其委員會ノ決定ガ強制力ヲ持ツカ否ヤト云フコト決定ムベキモノデアルト思フノデアリマス、此度ノ調停法ハ委員會ノ決定ハ強制力ヲ持タナイノデアリマス、ソレデアリマスカラハハ決シテ強制的調停デモ何デモナイ、ソレナラバ何故ニ行政官廳ガ進ンデ調査會ヲ設ケシムルヤウニスルカ、ソコガ前ニ申上ダタ通り普通ノ爭議デアリマスナラバ、爭議ノ双方ノ當事者カラ要求シマセヌト云フト、調停委員會ハ開カヌコトニナツテ居ルノデアリマス、唯、公益ニ關係スル其事柄ニ付テハ、ドウシテモ公衆ノ利益ヲ保護スルガ爲ニ、是ハ行政官廳自ラ進ンデ成ベク調停ノ出来ルヤウニスル、成ベク問題ノ解決ノ出来ルヤウニスル必要ガアルカラ開キマスアレドモ、ソレニ依ツテ開イタ調停委員會ノ決定ガ、決シテ是ガ強制力ヲ持ツ譯デモ何デモナイ、ソコハ資本家モ勞働者モ其決定ニ對シテ之ニ從フヤ否ヤハ自由デアリマス、唯、道理ノアルヤウニ委員

會ノ決定ガ出来テ居リマスレバ、何人ガ見テモ如何サマ此場合ニハ斯ウ決定シテ行クノガマア、一番適當デアルト云フヤウニ考ヘル、其良心ノ判斷ヲ惹起ス、ソレガ種ニナルダケデアツテ、決シテ是ハ強制力ヲ持タヌノデアリマス、第四ノ御質問ハ、是ハ一體爭議ヲ解決スルト云フノガ目的カ、或ハ同盟罷工ヲ止メルト云フノガ目的カ、委員會ノ開イテ十五日間爭議ヲサセヌヤウニスルト云フコトニナツテ居ルノデハナイカト云フヤウナ意味ニ於テ御尋デアリマス、是ハ此法案ヲ全部御讀下サルト云フト、調停委員會ヲ開イタカラト云ツテ、決シテ爭議ハ止メルコトニナツテ居ナイノデアリマス、同盟罷工ヲシテ居ル者ガ爭議ヲ繼續シテ居ツテモ、ナットモ妨ゲナイ、唯、關係ノ無イ者ガ之ヲ勸誘ヲシタリ、煽動シタリシテハナラヌト云フコトデアリマス、當事者ガ爭議ヲ繼續シテ行クコトハナットモ止メテ居ナイノデアリマス、此法律ノ制定セラレレル目的ハ、全ク公衆ニ利害關係ノアルヤウナ事ニ付テ、成ベク平和ニ早ク問題ノ解決スルヤウニト云フノガ目的デアリマス、又公衆ニ直接關係ノ無イモノデアリマシテモ、當事者ガ何トカ早く解決シタイト思フテ求メタナラバ、成ベク早く解決セシムルヤウニト云フノガ目的デアツテ、決シテ爭議ヲ止メヤウトスルノデモナケレバ、現ニ止メテ居ル條文ハ何所ニモ無イノデアリマス、第一條ノ第五號ノ規定ハ、日常生活ニ直接關係アルト云ヘバ、紡績工業デモ製鐵工業デモ、何デモ皆日常生活ニ關係ハアルト云フ意味ヲ以テ、御質問ニナリマシタ、サウ云フ意味デアリマセヌ、吾々國民ノ日常ノ生活ニ直接ニ關係ノアルモノ、即チ瓦斯ヲ止メレバ現ニ此毎日ノ食事ノ用意モ出来ヌト云フコトニナル、電氣ガ止マッタトスルト、直ニ電車ハ動カナクナルト云フヤウナノト似寄ツタ、所謂獨占ノヤウナ性質ヲ持ツタ

モノデ、國民ノ日常ノ生活ニ關係ノアルモノト云フモノデアリマス、ドンナモノヲ勸令デ規定スルカト云フ御尋デアリマスガ、只今私共ガ考ヘテ居リマスノハ、先ヅ乗合自動車ト云、タヤウナモノガ、矢張此國民ノ日常生活ニ直接關係アルモノト斯ウ思フノデアリマス、其他今ドレト決メテ居ルモノハアリマセヌガ、總テノ工業品、製作シタモノノガ吾々日常用ヒル物デアラナラバ、ソレヲ製造スルモノハ日常生活ニ關係アル、左様ナ意味ハ全然持タナイノデアリマス、現實ノ日常ノ生活ニ直接ニ關係アルモノ、斯ウ云フ意味ガ第五號ノ趣意デアルノデアリマス

○清瀨一郎君 簡單デアリマスカラ發言ノ御許ヲ願ヒマス

○議長(粕谷義三君) 清瀨一郎君

(清瀨一郎君登壇)

○清瀨一郎君 他ノ點ニ付キマシテハ追テ委員會ニ於テ詳細フコトニ致シマス、第一ノ政府ノ勞働立法ニ對スル態度、主義、此問題デアリマス、吾々幾分敬意ヲ表シテ居リマスルモノハ、今度ノ勞働立法ト云フモノガ單ニ官廳ノ職務、刀筆ノ役人ノ調ト云フダケデハナクシテ、總理大臣ノ屬セラレテ居ル憲政會ノ政策デアル、アナタ方ガ多年野ニ居ル時分ニ唱ヘラレタ此考ヲ實行サレルンダト云フノデ、吾々此案ニ敬意ヲ表シテ居ル、ソレヲ社會局モ政府ノ役人ダ、内務省モ役人ダ、何所デ調ベテモ誰ガ調ベテモドウデモ宜イ、斯ウ云フ風ナコトデアルト云フト、私ノ敬意ハ撤回シナケレバナラヌ、サウデハナクシテ、アナタ方ガ世間デ言フ十年苦節ノ間勞働者ノ狀態ヲ審カニ察知シテ、既ニ勞働組合法ノ此議場ニ上程サレタモノハ憲政會案デ三回、第一回ニハ鈴木富士彌君ガ説明セラレ痛快淋漓ナル説明ダ、次ニハ野田文一郎君、如何ニモ勞働立法ノ根本方針ハ勞働階級ノ福祉ヲ増進スル、是等

ノ人ノ投票權ヲ確保スルト云フ意味ニ於キマシテ、憲政會ハ之ヲヤリ來タ、中々當時議場ノ名演說デアル、其貴方ガ從前ノ主張ヲ今日朝ニ立タレタ際ニ實現サル、ト思ウテ、吾々ハ不滿ナ點ハ委員會デ以テ調査スルト云フノデ、此案ニハ滿腹ノ敬意ヲ以テ今日演壇ニ立ツタノデアリマス、段々伺ヒマスルト社會局モ政府ノ内、行政調査會モ政府ノ内、一番終リニ内閣デ以テ五分開調ベタノモ時間ノ長短ハ問ハナイ、此所ニ書イテアル案ガ皆ガ政府ノ本心ダト言ハル、ニ至ツテハ、私ハ其答辯ハ昔ノ官僚政治家、清浦内閣以前ノヤウナ答辯ノ感ガシテ仕方ガナイ、折角若槻總理大臣ハ原氏以來ノ平民宰相デアラレ、我國ノ將來二十年間ヲ支配スル所ノ此大立法、社會立法、勞働立法ヲ此議場ニ問ハレントスル決心デアラレ以上ハ、日本ノ社會狀態、日本ノ勞働狀態、是等ニ付テ如何ナル新秩序ヲ求メルノダ、ドウ云フ事ヲ日本ニ仕出來スノダト云フ本心ヲ此所ニ吐露サレテ、初テ總理大臣ノ貫祿ガアラウト云フモノデアリマス、若シ御答辯下サルナラバ、今ノ此案並ニ本日提出サレタト噂スル勞働組合法、今カラ出来ル所ノ勞働立法ト云フモノガ、貴方ノ黨派十年以來ノ主張ヲ忠實ニ實行スル決心デ臨マル、ノデアルノカドウカ、ソレトモ行政調査會アタリデ以テチヨコ、鉛筆ヲ削ツテヤツタモノヲ、此所ヘ持ツテ來テオイデニナルカドウカ、政治的ニ之ヲ解決サル、意思ガアルカ、又ハ單ニ官僚的ニ之ヲ解決サル、決心デアルカ、其事ヲ私ハ伺ツテ見タイ、最後ノ御問ノ或ハ日常生活ニ直接ニ關係アルモノデアツテ、例ヘバ瓦斯ノ如キモノト仰シヤルガ、ソレハ法案ノ第一條第三項ニ瓦斯ハチャント入ッテ居ル、乗合自動車ハ此中ニ籠メテ居ルト云フアレドモ、第一項ニ動力ヲ使用スル公衆ノ需要ニ應ズル運輸事業トチャント入ッテ居ル詰リ貴方ハ社

會局ノ役人ヤ行政調査會ノ役人ニ類シテ居ラル、カラ、法案ニ既ニ書イテアルモノヲ、今カラ勅令デ以テ瓦斯事業ヲ入レルトカ、乗合自動車ヲ入レルトカ、變ナ發言ヲ仰シヤル、既ニ法律ノ中ニ書イテアル、能ク此法案ヲ御覽ナサイ、能ク此法案ヲ御覽ニナシテ答辯ナサラヌト、議員ハ承知ハシマセヌ

〔國務大臣若槻禮次郎君登壇〕

○國務大臣〔若槻禮次郎君〕 勞働立法ハ憲政會多年ノ主張デアリマス、加藤内閣以來勞働立法ノ制定ニ努力シタノハ、平昔ノ主張ヲ實現スルガ爲デアリマス、今日内閣ガ爭議ノ調停案ヲ説明シ、數日ノ中ニ勞働組合法案ヲ提出セントスルノモ、亦吾々平昔ノ主張ヲ朝ニ立テ實現スルガ爲デアリマス、唯、法案ノ起草ニ付テ、立法的技術ニ付テ、各機關ノ調査ヲ經ルト云フ事柄ハ、物ヲ慎重ニスルガ爲デアリノデアリマス、又固ヨリ私ハ第一條ノ第一項第五號ニ依テ、勅令決定ムルノガ瓦斯デアルトモ申シマセヌ、瓦斯ノ如キモノガ日常生活ニ直接關係アルモノデアル、此所ニ書イテナイモノデアル、尙ホ日常生活ニ直接關係アルモノデ、勅令デ以テ定ムルモノヲ矢張り此調停法ノ目的ニスルノデアル、斯ウ申上ゲタノデアリマス〔拍手〕

○清瀨一郎君 總理大臣ハ憲政會多年ノ方針ヲ勞働立法ヲ作タト仰シヤイマシタ、故ニ憲政會ノ從來御主張ニナタ程度ノ修正ニ付テハ御異存ナイコト、私共ハ考ヘマス、以後左様ナ趣旨デ審議ヲ進メマスカラ、今ノ答辯ハ間置クコトニ致シマス

○議長〔粕谷義三君〕 山口政二君

〔山口政二君登壇〕

○山口政二君 私ハ主トシテ日程ノ第二ニ付キマシテ御尋ヲ致シマス、總理大臣ノ提案ノ理由ト致シマシテハ、特別ノ刑罰法規ヲ存置スル必要ガナクナタヤウデアラル、治安警察法第十七條ヲ廢シタノデアルト云

アヤウニ承リマシタ、私ハ治安警察法第十七條ヲ廢止スルト云フ根本、或ハ基礎觀念ト申シマセウカ、其事ニ付キマシテ簡單ニ御尋ヲ致スノデアリマス、治安警察法第十七條ニ於キマシテハ、同盟罷業ノ誘惑煽動ヲ處罰シテ居ルノデアリマス、誘惑煽動ノ處罰ノ基礎觀念ハ、同盟罷業其モノヲ惡イモノト見ル、言換ヘテ見ルナラバ、同盟罷業其モノヲ罪惡視スルノデアルト解釋セラレノデアリマス、然ルニ今回此條文ヲ廢止致シマスルト云フコトハ、政府ニ於キマシテハ、此基礎觀念ヲ一變致シマシテ、同盟罷業ナルモノハ、是ハ勞働者ニ與ヘラレタル權能デアアル、否、一歩進ンデ勞働者ガ共同ノ利益ヲ主張スルト云フコトハ、法律ニ於テ認ムベキ力デアアル、即チ權利デアルト云フヤウナ意味ニマデ吾々ハ解釋シテ宜イノデアルカ、此點ハ過日谷原君カラ御尋ガアッタ考ヘルノデアリマスガ、或ハ單ニ權能デアルト云フ御答デハナク、タカト思フ、併ナガラ若シ是ガ單ニ權能デアルト云フコトデアラナラバ、其基礎觀念ハ勞働立法全部ヲ支配致スノデアリマスカラ、清瀨君ガ御尋致シマシタヤウニ、勞働立法全體ニ互リマシテ、或ハ治安警察法第十七條ヲ廢止スルニモセヨ、勞働組合法ヲ御作リニナルニモセヨ、其基礎觀念ト致シマシテ極メテ重要ナルコトデアリマスカラ、豫メ御尋致シテ置キタイノデアリマス、若シ從來ノ基礎觀念ヲ變更致シマシテ、本當ニ同盟罷業ヲ一ノ罷業權トシテ御認ニナルト云フノデアリマスカラ、例ヘバ爭議調停法ノ第十九條ニ於キマシテ、第三者ノ罷業ノ誘ヲ禁止致シテ居リマスガ、是ハ餘程矛盾ヲ致シテ居ルヤウニ思フ、範圍ハ狭イケレドモ罷業ノ第三者ノ勸誘ヲ禁止致スト云フコトハ、一面カラ見マスルナラバ罷業ノ抑壓ニナルト云フコトハ明デアアル、殊ニ此勸誘ト云フ言葉ニハ、或ハ條件附ノ勸誘トカ、

期限附ノ勸誘トカ云フコトモ入ルト思フ、今懸テ居ル所ノ調停ハ、是ハ到底成立ノ見込ガナイカラ、不調ニナタナラバ直ニ罷業ヲ決行セヨト云フコトヲ勸誘スル、乃至ハ何月何日ヨリ罷業ヲ決行セヨ、吾々モ援助スルト云フヤウナコトヲ友誼團體ヨリ申込ムコトマデ總テ抑ヘラレテ居リマス、サウナルト友誼團體ノ聲援トカ、友誼團體ノ援助ト云フヤウナコトガ、此法案ノ第十九條ニ依リマシテ禁止サレル、若クハ處罰サレル、其結果調停ニ掛テ居ル所ノ勞働爭議、其罷業全體ノ非常ナル抑壓ヲ受クルコトニナルヤウニ考ヘルノデアリマス、若モ罷業其モノヲ一ツノ權利トシテ御認ニナルナラバ、法案第十九條ノ如キモノヲ御設ケニナルト云フコトハ、非常ナル矛盾デハナイカト考ヘルノデアリマス、次ニ御尋致シマスコトハ、治安警察法第十七條ヲ廢シタ場合ニ於キマシテ、勞働爭議若クハ小作爭議ニ關シテ能ク起リマスル暴行脅迫ト云フヤウナ事、ソレ等ノ違反事件ハ一體ドウ云フ風ニ始末ヲサル、ノデアルカ、言換ヘマスルナラバ、モウ必要ガ無イカラ第十七條ハ廢スルト云フコトデアリマスケレドモ、若モ此十七條廢止ノ結果、從來ヨリモ重ク處罰セラレルヤウナコトニナリマスカラ、折角罷業ト云フコトヲ或ハ權能デアアル、若クハ權利デアアルト御認メニナルト云フ根本觀念トハ全ク矛盾ヲ生シテ來ルト考ヘルノデアリマス、之ヲ從來ノ實例ニ徴シマスルト、勞働爭議ニ關シマスル最近十年間ノ檢舉數ノ統計ガゴザイマス、ソレニ依ルト、騷擾罪トシテ處罰セラレタル者ガ件數ニ於テ約五十件、人員ガ二千人デアリマス、騷擾罪ト他ノ法令ノ罪ト併合ニナタモノガ、件數ガ三十件、人員ガ千人、治安警察法第十七條ニ依リマスモノガ、件數ガ百五十件デ、人員ハ僅ニ千人デアアル、他ノ法令ニ違反ト云フモノハ、是ハ郵便法デアルトカ、電信

法、船員法ト云フヤウナモノ、法令違反デ、件數ハ二百件デアアルガ總人員ハ僅ニ八百人デアリマス、シテ見マスルト私ノ御尋シタモノハ、統計ノ示ス所デハ、治安警察法第十七條ガアリマシテモ、尙ホ騷擾罪トシテ處罰サレタ方ガ、人員ニ於テハ三倍モアルノデアリマスカラ、若シ治安警察法ノ第十七條ヲ廢シタ後デ、是等團體運動ニ附隨スル所ノ暴行脅迫ト云フヤウナコトガアタ場合ニ、或ハ之ヲ全部騷擾罪ニ持テ行ク積リデアアルカ、乃至ハ如何ナル取扱ヲ爲サルカト云フコトデアリマス、固ヨリドウ云フコトデアラモ、團體運動デモ個人運動デモ、暴行脅迫ト云フコトノ宜シクナイコトハ分テ居ル、隨テ御答トシテハ、ソレハ一般刑法ニ依ルノガ當然ダト言ハレルカモ知レマセスケレドモ、若モ一般刑法ノ中ノ騷擾罪ト云フヤウナモノヲ之ニ擬スルコトニナルノデアラナラバ、是ハ將來勞働運動、殊ニ團體運動ニ對スル抑壓トナリハセヌカト思フノデアリマス、ソレトモ政府ニ於キマシテハ何カ特別ノ法令ヲ出シマシテ、治安警察法ノ第十七條ヲ廢シタガ、他ノ法令ヲ出シテ、之ニ代テ取締ヲ爲サルト云フヤウナ御考デアアルカドウカ、此點モ御伺ヲ致シタイノデアリマス、今朝モ新聞紙デ見マスルト、政府ニ於キマシテハ、治安警察法ヲ廢スル代リトハ申シマセケレドモ、或ハ暴威取締ニ關スル法律案ト云フヤウナモノヲ御出シニナルト云フコトガ書イテアル、ドウ云フ必要デ御出シニナルカト云フコトハ、是ハ何レ其法案ガ提出セラレテカラノ問題デアリマスガ、若モ是等ノ法律ガ治安警察法第十七條ヲ廢止スルコト、深イ關係ガアルナラバ、ソレハ重大ナル問題デアリマスカラ、豫メ其邊モ御伺致シテ置キマス、此治安警察法第十七條ヲ廢止ト云フコトハ、固ヨリ非常ナ進歩デアルト云フコトニハ同感デアリマス、併ナガラ實際ノ問題

ト致シマシテ只今申上ゲマシタヤウニ、若シ政府ガ此法案ノ廢止ノ結果其善後策ヲ誤ルト云フコトニナルナラバ、將來勞働爭議、小作爭議ト云フヤウナモノガ段々ト激發セラル、ト云フ結果ニナリハセスカト思フノデアリマス、之ニ對シテモ政府ノ御所見ヲ伺ヒマス、尙ホ最後ニ御尊致シマスガ、國際勞働協會ニ於テハ昨年十一月第一回總會ニ於テ「勞働者ノ團結ニ關スル現行法上ノ障礙撤去ニ關スル決議」ト云フモノヲ致シテ居ルノデアリマス、簡單デアリマスカラ朗讀致シマス、「現行刑事法及警察法中ニハ直接間接ニ勞働者ノ團體運動ヲ抑壓シ勞働者ノ團結ノ自由ヲ脅ス規定ガ室ニ少クナイ、刑法中騷擾罪ニ關スル規定、治安警察法第十七條及同法中集會ニ關スル規定、行政執行法中檢束ニ關スル規定、其他警察犯處罰令、違警罪即決例中ノ諸規定ノ如キハ屢、組合大會、演說會、示威運動、勞働爭議等ニ關聯セル勞働組合ノ活動ヲ妨礙スル爲ニ適用セラレツ、アル、又岐阜、埼玉、香川、熊本、三重、福岡、佐賀、岡山、群馬等ノ諸縣ノ縣令ニヨル警察犯處罰令第一條追加條項中ニハ、勞働者並ニ小作人ノ團體運動ヲ抑壓スル種々ノ規程ガ存在シテ居ル、ソレ故假ニ勞働組合小作組合法ガ制定セラレ、ソレト共ニカノ治安警察法第十七條ガ撤廢セララル、トスルモ、若シ右ノ如キ刑事法、警察法ノ諸規定ガ依然トシテ存續シ、現在ノ如ク適用セララル、ナラバ、勞働者、小作人等ハ決シテ眞ノ團結ノ自由ヲ享有シ得ルモノデハナイ、以上ノ理由ニ基キ、若シ政府ニシテ眞ニ團結ノ自由ヲ確認セントスルノ意アラバ速ニ勞働者及小作人ノ團體ト、ソノ團體運動トヲ抑壓スル一切ノ法規ヲ改廢シ、此ノ種ノ地方法規ノ制定ヲ禁止シ、此等團體トソノ團體運動トノ抑壓ヲ結果スルガ如キ法規ノ一切ノ濫用ヲ防止スルガ爲メ適當ナル措置ヲ講ズベキデ

アル」ト言ウテ居リマス、政府ハ此治安警察法第十七條ヲ廢止致シマシタル際、尙此精神ヲ擴張致シマシテ、只今申上ゲマシタヤウナ諸法規、並ニ明治二十三年、法律第八十四號、命令ノ條項違反ニ關スル罰則ノ件ト云フヤウナ規定ヲ改廢整理致シマシテ、勞働運動、小作運動、其他ノ團體運動ノ穩健ナル發達ヲ期セラレル御考ハナイノデアルカ、私ハ以上三點ニ涉リマシテ極メテ簡單デアリマスケレドモ先ヅ治安警察法第十七條ヲ撤廢致シマスル其基礎觀念、次ニ治安警察法第十七條廢止ノ結果今後ノ團體運動ニ對スル政府ノ取締方針、又第三ニ於キマシテハ治安警察法第十七條廢止ノ精神ヲ擴張シテ、團體運動ノ取締ニ關係深キ我國ノ現行諸法規ヲ整理改廢スル御意思ハナイカト云フ三點ヲ御伺致スノデアリマス

勸誘シタリナドシテ、調停ヲ妨グルヤウナコトヲ許シマシタナラバ、調停ノ目的ヲ達スルコトガ出來マセヌカラ、法案十九條ニ於テハ、調停中ハ第三者ハ左様ナ事ヲシテナラヌト云フコトヲ定メタノデアリマス、治安警察法第十七條ヲ廢止スル結果、同條ノ規定後半ニアル所ノ暴行脅迫ニ對シテハドウスルノデアルカ、是ハ此條文ヲ廢止シマスト云フト、當然ノ結果トシテ刑法ノ規定ガ行ハル、外、他ニ特別ノ規定ガ無イコトニナリマスカラ、刑法ノ規定ノ働ニ依ル次第デアリマス、其場合ニ同盟罷工ノ場合ニハ之ヲ騷擾罪トシテ罰スルヤ否ヤ、是ハ私ハ同盟罷工ノ場合ニ暴行脅迫ガアレバ、常ニ騷擾罪ト爲スベキモノトハ思ハヌノデアリマス、ソレハ各場合々々ニ依テ騷擾罪ト見ナケレバナラヌヤウナ事實ガ生ジマシタナラバ、騷擾罪ト見ルノデアリマセウ、其所マデ到ラヌモノヲ悉ク騷擾罪トシテ之ヲ罰スルコト云フコトハナカラウト私ハ考ヘマス、尙ホ刑法ノ規定ニ委ヌルノ外、何等カ暴行脅迫ニ對シテモ取締ヲスル政府ハ意思ヲ持テ居ルヤ否ヤ、是ハ治安警察法第十七條ヲ廢止スルガ爲デアリマセヌケレドモ、刑法ノ規定ノミデ、昨今暴行ヲ恣ニスル者ヲ取締ルコトハ不十分デアルト認メテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ何レ之ニ關スル法律案ハ提出スル積リデアリマスガ、法案ノ内容ハ法案ヲ提出シタニ於テ御説明ヲ申上グルコトニ致シタイノデアリマス、尙ホ國際勞働協會ノ意見ガアルガ、此意見ニ依テ漸次色々ナ法規ヲ改正スルヤ否ヤ、國際勞働協會ノ發表シタ意見ハ十分ニ考究ヲ致シマス、併シ只今ソレニ依テ御指定ニナリマシタ法規ヲ改正スルヤ否ヤト云フコトハ、マダ何等決意シテ居ル所ハナイノデアリマス(拍手)

○安藤正純君 本日上程、內務大臣カラ御説明ニナリマシタ勞働爭議調停法案ハ、刻下ノ一大問題タル勞資問題解決ノ爲ニ立法ヲセラレタト云フコトハ、勿論云フ迄モナイコトデアリマス、而シテ憲政會ハ野黨ノ時代ニ於キマシテ、屢、勞働組合法案ヲ帝國議會ニ提出セラレタト云フコトニ微シマシテモ、如何ニ憲政會內閣ノ今日ノ政府ガ此勞資問題、勞働問題ニ付テ進歩シタ考ヲ有セラレ、之ヲ政治ノ實際ニ現ハサレルコトデアラウト云フコトヲ信ジマシテ、實ハ心算ニ敬服ヲシテ居ラタ次第デゴザイマス、然ルニ今回提案ニナリマシタ此調停法案ヲ見マスルト、豫テ從來ノ野黨時代ノ憲政會ノ主張ニ微シマシテ、吾々ガ斯クアルベシト豫期シタ其豫期ヲ全然裏切リ、寧ろ是ガ同ジ政黨ノ支持シテ居ル所ノ政府ノ案ナルモノデアラウカト、誠ニ不可思議ノ感ニ打タレザルヲ得ナイノデアリマス(拍手) 仍テ私ハ先ヅ第一ニ政府ガ此勞資問題ニ付テ、ドンナ考ヲ持テ居ラレルカト云フ此根本觀念ヲ承テ置キタイノデアリマス、申ス迄モナク勞働問題ハ現在及將來ノ我國ノ重大ナル社會問題デアル、又政治問題デアリマス、此重大問題ヲ政府ハ我が國策ノ上カラ見テ、如何ニ之ヲ取扱フカト云フ根本方針ヲ伺ヒタイノデアリマス、其理由ヲ少シク申述タイガ、抑、歐羅巴大戰後ノ歐米各國ノ情勢ヲ見マシテモ、何レモ産業ニ非常ナ力ヲ入レマシテ、經濟ノ恢復ト充實トヲ圖リテ其國策ヲ進メテ居ルノデアリマス、此際我國ト致シマシテハ、國內ノ事情カラ見マシテモ産業ヲ開發シ充實シテ、我國ノ此行詰レル所ノ經濟ト將來ノ運命トヲ開拓シナケレバナラヌコトハ申ス迄モアリマセヌ、又國際ノ事情カラ考ヘテ見マシテモ、今後我國ハ世界ノ一等國ト致シマシテ、國際上ノ地位ヲ保ツノニハ産業ヲ充實シテ、經濟立國デ進ンデ行クト云フコトガ言フ迄モナク必要ナ

コトデアリマス、此産業ノ充實ト開發ト云フコトハ即チ資本ト勞働トガ協調ヲ保チ、結合ヲ全フスルコト云フコトニ依テ、完全ナル效果ヲ奏スルノデアラウト思フノデアリマス、然ルニ從來ノ誤リタル一部ノ觀念デハ、此國家ノ産業ト云フモノハ資本家ノ仕事デアツテ、勞働者ハ其仕事ニ使役スル所ノ一種ノ機械ノ如クニ考ヘラレテ居タ、隨テ今日ノ産業ハ即チ言葉ヲ設ケテ之ヲ云ハバ、資本家專制ト云フモノ宜カラウト思フノデアリマス、是ガ即チ勞働問題ノ起ル所以デアツテ、又産業ノ發達ヲ阻害スル譯デアリマス、故ニ今日ハ此時代錯誤ノ觀念ヲ一掃シテ、産業ノ民衆化、若クハ産業ノ國民化ト云フコトヲ圖ルコトガ最も必要デアラウト思フノデアリマス、然ルニ政府ハ此根本觀念ヲ誤テ居ラシ、敢テ問イタイ、政府ハ國家ノ重大問題デアル所ノ此勞働法案ヲ提出スルニ當リマシテ産業ト云フモノハ資本家專制、資本家獨占ノ主義ヲ以テ御制定ニナツタノカ、ソレトモ又産業ノ民衆化ト云フ根本觀念ヲ以テ御制定ニナツタノカト云フコトヲ第一ニ承テ置キタイノデアアル、第二ニ若シ政府ガサウデナイト云フナラ、ソレハ御話ニハナラナイガ、若シサウダト云フナラバ、之ヲ國家的ニ見テ、又之ヲ人格的ニ見マシテ、此勞働調停法ナルモノハ、其根本ニ於テ非常ナリ矛盾ガアルト思フノデアリマス、今日ハ既ニ普選ニナリマシテ一般ノ國民ガ政治的ニ機會均等ニナツタデアリマスカラ、經濟的ニモ勞働者ガ其地位ノ確保ヲ要求スルコト云フコトハ、決シテハ無理ナリ注文デハナイノデアリマス、當然此勞働團體ノ進歩發達ヲ政府トシテハ適當ニ指導ヲシナケレバナラヌノデアリマス、然ルニ政府ハ此際ニ當リマシテ、此自然ノ發達ノ力ヲ法律其他ノ力ヲ抑壓ヲシヤウトスラバ、是ハ今日ノ法律ノ力ヲ餘リニ過信シテ居ルモノト謂ハナケレバナラヌト思フノデアリマ

ス、所ガ此法案ヲ見マスルトサウ云フ形跡ガ歴々トシテ明ニ見エルノデアリマス、其大體ノ所ヲ一二指シテ伺ヒタイノデアリマス、此法案ニ據リマスト爭議ガ起ル、調停ガ開カレル、其間ニ現ニ此爭議ニ關係ノナイ者ハ一切應援ガ出來ナイト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、即チ法案ノ第十九條ニハ現ニ其爭議ニ關係ナキ者ハ當事者ノ行動ヲ勸誘スルコトヲ得ズト立派ニ規定シテアリマス、所ガ言フ迄モナク勞働爭議ハ勞働者ニ取テハ是ハ團體ノ力デナケレバ效力ガナイノデアアル、或ル工場ニ於テ一部ノ所ニゴテ、一ガ起ル、資本家ハ直ニ調停委員會ヲ請求シマス、此法案ハ雙方ノ請求デナク、一方ダケノ請求ニテ調停ノ開始ガ出來ルノデスカラ、政府ハ直ニ其調停ノ申出ヲ取入レテ調停ノ通知ヲ致シマス、スルト十五日間ト云フモノハ其調停期間デ、一部デゴテ、一ガ起テ所ダケノモノヲ以テ當事者ト致シテ、ソレ以外ハ手出シガ出來ヌト云フコトニナリマシテハ、是ハ勞働者トシテハ非常ナリ不利ノ地位ニ立テ、全ク勞働爭議ト云フコトノ意味ガ殆ドナクナツテ仕舞フノデアツテ、名ハ爭議調停法案デアアルガ實際ニ於テハ爭議ノ禁止ト云フコトト選フ所ガナクナルノデアリマス、ソレトモデス、此現ニ其爭議ニ關係ナキ者ハ「ト云フ」ハ此範圍ガ分ラナイ、之ヲ廣ク解釋スルノカ、狹ク解釋スルノカ分リマセヌガ、現ニ社會局ガ初メ行政調査會ニ出シタ時ニハ此第十九條ノ文句ハ、第三者トアツタノデアリマス、第三者ト云フコトニナリマス、稍、範圍ガ廣イコトニナル、所ガ態々今度ソレヲ改竄致シマシテ、現ニ「其爭議關係ナキ者ハ」ト云フコトニナツタ所ヲ見マスルト、第三者ノ範圍ト云フモノヲ非常ニ廣クシテ、當該當事者ト云フ範圍ヲ極メテ狭クシタノデアラウト思フ、サウシマスルト、工場ノ一部ナ

ラ、一部ダケノ者ト、資本家ダケヲ以テ當該當事者トシテ、他ノ者ガ「ストライキ」ナラ「ストライキ」ヲ勸誘スレバ、是ガ皆其罰ヲ食フト云フコトニナリマス、大變ニ此勞働爭議ノ勞働者ニ取リマシテハ非常ナル不利益ニナルノデアリマス、單ニ第三者ト云フコトナレバ工場全體モ入ル、又其所屬ノ勞働團體ナリ、勞働組合ナリモ入り得ルノデアルカ、今回ノ此「現ニ其ノ爭議ニ關係ナキ者ハ」ト云フコトニナリマス、サウ云フモノガ入ルコトガ出來ナイデ、其一部ダケト資本家トノ争ト云フコトニナルノデアラウト思フ、斯ノ如ク致シマスレバ殆ド勞働爭議ト云フモノヲ御認ニナツテ、之ヲ調停スルト云フ所ノ其根本ノ趣意ガ分ラナクナツテシマウノデアリマス、又或ハ當該當事者ヲ廣ク解釋シテ、工場全體或ハ所屬ノ勞働組合ト致シマシテモ、他ノ勞働組合若クハ勞働團體ノ勸誘ハ禁ズルコトハ明デアルカラ、即チ勞働組合ノ聯合ヲ認メヌコトニナツテ、矢張り勞働者ニハ大ニ不利デアリマス、此點ヲ伺ヒタイノデアアル、實際現在ノ實情カラ申シマスルト、工場全體ガ掛リ、又他ノ勞働團體ノ應援ガアツテモ決シテ事業家、資本家ノ方ハ負ケハシナイノデアリマス、ソレデ初メテ五分々々ナンド、否寧ろソレデモ資本家ノ方ガマダ餘程割ガ良ク強イノデアリマスカラ、今度ハ其工場全體ナリ、所屬勞働團體ナリ更ニ又他ノ團體ナリヲ以テ是ガ第三者トシテシマイマシテ、之ニ罰ヲ加ヘルト云フコトニナルト、勞働者ニ取ツテハ甚ダ不利益デ、此爭議調停法ハ片手落ノ調停法トナラザルヲ得ナイノデアリマス、若シサウナラバ實際他カラ應援ハ出來ナイ、然ルニ團體ノ力ヲ借りナケレバ勞働爭議ガ成立タナイト云フ今日ノ實狀ノ下ニ、斯ル狭イ範圍ニ決メテシマウ

ト云フノナラバ、實際是ハ勞働者ノ手足ヲ撈イデシマウモノデアツテ、爭議調停法デハナイ、寧ろ調停ニ名ヲ藉ル一種ノ禁止法ト言フテ宜カラウト思フノデアリマス、政府ノ所見果シテ如何デアリマスカ、第三ニ此第十九條ヲ見マスルト、文面デハ成程公平ラシク出來テ居リマス、第十九條ノ第一號第二號——第一號ハ使用者ノ方モ、作業所ヲ閉鎖シ、作業ヲ中止スル等ヲ禁ジタモノデ、第二號ノ方ハ、勞働者ニ對シマシテ「ストライキ」其他ノ勸誘ヲ禁ジタモノデアリマスルカラ、文面カラ見レバ公平デアアルヤウデアリマスレドモ、一體勞働爭議ハ大抵何處カラ起ルカト云ヘバ必ズ勞働者ノ方カラ起ス、資本家ハ寧ろ現状維持ノ方ガ宜シイ、サウスレバ資本家ガ何ヲ苦ンデ自分ノ此作業ヲ中止スルト云フヤウナコトヲスル必要ガゴザイマセウ、勞働者ノ方カラ云ヘバ此「ストライキ」ト云フモノガ必要ナノデアアル、是ガ唯一最後ノ武器ナンドス、是ヨリ仕方ガナイノデアアル、デアリマスカラ「ストライキ」ト云フコトニハ機會ガ必要ナンドデアアル、機會ヲ見テ迅速ニヤラナケレバ勞働爭議ノ效力ハナイノデアアル、然ルニ此場合ニ先程モ清瀬君等カラノ質問モアリマシタガ、十五日間手ガ着ケラレナイト云フコトニナル、サウスルト十五日間ニ息ヲ抜カレテシマフテ、何ニモ出來ナイコトニナツテシマフノデス、ソレデハ勞働爭議ノ調停法デハナクシテ、爭議ト云フモノヲ根本カラ根絶シテシマハフト云フ一種ノ禁止法デハナイカト思フ文面ハ公平ラ装フガ、實質ハ禁止法ノ精神ヲ以テ制定セラレタモノデアラウト思フノデアリマス、私ハ當案ニ於テ此第十九條ガ最も眼目ノ規定デアラウト思ヒマスガ、此眼目ノ第十九條ノ規定ト云フモノハ即チ政府ガ勞働者ニ宋襄ノ仁

ヲ強要シテ、公平ト云フ名ノ下ニ爭議ノ禁止抑止ヲシタモノト云フノガ適當デアラウト思フノデアリマス、政府ハ此第十九條ダケニ見マシテモ果シテ是ガ公平ト云フコトガ出來ルカ、資本家ト労働者ト兩方對等ニ見テ爭議ノ調停ヲスルト云フ其法律ヲ制定スルニ當リ、實際上労働者ノ手ト足ヲ拂イデ爭議ガ出來ナイヤウニスルノデス、ソレデ果シテ公平ト云フコトガ出來ルカドウカ、内務大臣ハ之ヲ公平ト思フテ御在デニナルカドウカ、之ヲ伺ヒタイノデアリマス、一體ドウシテ斯ナ片手落ナ精神デ労働組合法ニシロ、労働爭議調停法ニシロ、出テ來タノデアリマセウカ、労働組合法ハマダ提出ニハナテ居リ、マセヌガ過日私ガ總理大臣ノ施政方針ノ演說ニ對シマシテ其一班ヲ伺フテ置イタヤウニ、今回出テ來ル組合法ナルモノハ全ク骨抜きダ、社會局ノ原案ハ全部賛成ハ出來ナイケレドモ、社會立法ト云フ觀念ハ這入シテ居タ、然ルニ今度全然骨抜きナテ斯ウ云フヤウナ労働組合法ヲ制定シタ、労働組合法ノコトハ何レ提案ニナッタ時ニ又申上ゲタイト思フガ、其又組合法ト共ニ茲ニ爭議調停法ヲ提出シタガ、斯ウ云フヤウナ骨抜きニナツテ而モ労働者ノ不利益、片手落ノモノヲ拵ヘルト云フコトハ、現在ノ政府其モノ、曠ガ、諸リ國家ノ産業ト資本ト労働トノ結合デヤツテ行カウト云フ其頭ガナクシテ、資本家ニノミニ獨占セテ労働者ヲ矢張機械ニシテ行カウト云フ、後レタル觀念ニ提ハレテ居ル所カラ出テ來テ居ルノデヤナイカト思フ、即チ労働爭議ト云フモノハ如何ニモ不穩ナモノノデアアル、労働運動ト云フモノハ宜クナイモノノデアルト云フ譯デ之ヲ犯罪扱ニシテ、労働組合トカ労働團體トカト云フモノハ一種ノ無賴漢ノ集リデアルト云フヤウナ、此頭ガ元ニナツテ拵

ヘテ居ルカラシテ、斯ノ如キモノガ出來タノデアラウト思フノデアリマス、第四ニ質問シタイノハ、此調停法第二十條ト第二十一條デアリマス、即チ罰則ノ規定デアリマス、之ヲ一寸見ルト如何ニモ公平ラシイ、第二十條ハ資本家ニ對シテモ労働者ニ對シテモ、労働爭議調査會ニ出席説明、又ハ説明書類ノ提示ヲシナイ者ハ五十圓以下ノ過料ニ處スト云フノデアリマス、又第二十一條ハ虚偽ノ説明ヲシタリ、或ハ故ナクシテ觀察ヲ拒ミ、質問ニ對スル答辯ヲサナカッタリ、虚偽ノ陳述ヲシタ者ニハ二百圓以下ノ罰金ニ處スト云フノデアリマス、ダカラ、是ハ労働者モ資本家モ相立ンデ、此罰則ヲ當テ、アルノデアリマスカラ、如何ニモ公平ラシイケレドモ、併シ是ハ能ク考ヘテ見ルト甚ダ不公平デアアル、何故カト云ヘバ是ハ極メテ分リ易イ、——分リ易イ過料コトダ、五十圓ノ過料、二百圓ノ罰金ト云フモノハ、資本家ハチットモ困リハシナイノデス、ダカラ之ヲ犯シテモ自分ノ利益ノ爲ニシヤウトスルナラ、二百圓損シテヤツテシマヘバ宜シイト云フコトニナルガ、労働者ニ至ルト二百圓ハ大金ナノデアアル、五十圓デモ大金デアアルカラ、結局是ハ表面ハ公平デアアルガ、此結果ハ事業主ノ方ハ罰金サヘ出セバ違反シテモ構ハナイカラ、ヤツテシマフト云フコトニナル——不料見ノ事業家ハサウナル——労働者ハ、ドウシテモ是ハ違反ハ出來ナイト云フ結果ニナリマスカラ、是ハ非常ニ私ハ不公平デアルト思フノデアアルガ、如何ニ内務大臣ハ之ヲ御考ニナツテ居ルノデアリマスカ、之ヲ御尋シマス、第五ニ同ジ罰則ノ第二十二條デアアル、此第二十二條ト云フモノモ矢張兩方ニ係レテ居ル、第十九條ノ規定ニ違反シタ者ハ三箇月以下ノ禁錮、又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

ルト云フノデアリマシテ、是ハ資本家労働者共ニ準用シテ居ルノデアリマスカラ、表面ハ公平ナノダケレドモ、此第十九條ノ勸誘ヲ禁ジタ法ナノデスカラ實際ハ不公平デス、——即チ實際上今マデノ爭議ニ、事業家ノ側デ第三者ノ應援ヲ求メルト云フ必要ノアツコトハ、殆ド一度モアリマセヌ、應援ヲ求メルノハ皆労働者ダケナノダ、労働者ハ自分ダケデ行カヌカラ、他ノ團體ノ應援ヲ求メル、他ノ聯合團體ノ應援ヲ求メルト云フコトハ、是ハ労働者側ダケデヤツテ居ルコトナノダ、資本家ハサウ云フコトハ一ツモナイ、サウシテ見ルト詰リ此第十九條ノ第一號ト云フモノハ、是ハ唯、空文ニナツテシマヒハシナイカサウシテ、第二號ノ労働者ノ方ニ對シテ、「ストライキ」ノ勸誘ヲ第三者ガスルト云フコトハイケンイト云フ事ノミガ、殘ル結果ニナツテシマフノデハナイカ、而モ之ニ反シタ者ハ始メハ是モ罰金刑ノミデアリマシタガ、遂ニ三箇月以下ノ禁錮ト云フ體刑ヲ御入レニナツタ、此不利益ハ結局労働者ノミガ之ニ掛カルト云フコトニナルノデアアル思フノデアリマス、此點ニ關シテ政府ノ意見ヲ伺ヒマス、孰レ細目ハ委員會等ニ於キマシテ質問ヲ致シタイガ、唯、政府ハ此間私ノ質問ニ對シマシテモ、只今又清瀬君等ノ質問ニ對シマシテモ、唯、歐米ヲ模倣スル立法ヲシナイデモ、宜イ、労働立法モ——此際日本ノ現狀、労働界ノ實情ニ徴シテ、日本ノ國情ニ應ジテ拵ヘルノガ一番適切ナル立法ダト、斯ウ云フコトヲ内務大臣ハ屢、言ハレテ居ル、ソレガ適切ナラバ何故斯ノ如ク現在ノ實際ニ適セナイ爭議調停法ヲ御拵ヘニナツタノカ、實際ハ資本家ニ都合ガ善クテ、労働者ハ困ルノデス、斯ウ云フ實情ニ適シナイ所ノモノヲ拵ヘルト云フコト

ハ、内務大臣ノ聲明ニモ反スルコトデハナイカト思フノデゴサイマス、之ヲ要スルニ此爭議調停法ハ殆ド全部ニ互リマシテ、資本家ノ擁護、資本家ノ都合ノ宜イ、而シテ労働者ニ甚ダ不利益ダト云フ片手落デアリマシテ、若シ斯ノ如キ法ヲ強行スルニ於キマシテハ、産業ノ平和ヲ願フテ却テ産業ノ平和ヲ破壞スルト云フコトガ起リハシナイカ、社會ノ平和ヲ冀テ寧ロ社會ノ不安ヲ招致スルモノデハナイカト思ヒマス、最後ニ冷靜ニ御考ヲ願ヒタイノハ、今日労働團體ナリ其他ナリガ一ツトシテ此法案——労働組合法並ニ労働爭議調停法ニ賛成シテ居ルモノハ一ツモナイノデアリマセヌカ、而モ資本家モ亦之ニ賛成シテハ居リマセン、一體誰ノ爲ニ労働法ヲ拵ヘ、誰ノ爲ニ爭議調停法ヲ拵ヘルノカ、労働者全體ハ全然之ヲ否定シ、斯ノ如キモノハ惡法デアルト彼等自身ガ言フテ居ル、而モ今ヤ將ニ近ク普選實行ノ機會ガアル、ソレヲ待タナイデ、何デモカンデモ此議會デヤツテシマフト云フコトハ、私ハ其政府ノ態度ガ分ラナイ、何故ニ斯ル反對ノ眞、只中ニ立ッテ労働者ノ法律ヲ大急ギデ拵ヘテシマハナケレバナナイノデアリマスカ（其點ハ濟ンデ居ル）ト呼フ者アリ、——濟ンデルカ知レナイガ能ク私ニ分ラナイカラモウ一遍伺ヒタイ——世ノ中デ斯ウ云フ說ヲスル者ガアル、現政府ハ社會局ニ相當ナ組合法律爭議調停法ヲ先ツ出サシテ置イテ、サウシテ労働團體ニ氣休メヲヤラシテ、ソレカラ半年ノ間ゴテ——シタ、其舉句ガ全然骨抜きニシテシマツタ、ソレガ又當初カラノ政府ノ目的ダツタト、斯ウ云フコトヲ言フテ居ル、併シ私ハ斯様ナ事ハ信ジナイ、信ジマセヌケレドモ、斯ル片手落ノモノヲ急イデ拵ヘテ、之ヲ強行シヤウト云フ所ノ其精神ガ分ラナ

イ、其コトハ現ニ内務大臣ガ此間私ノ質問ニ對シテ強辯ヲナサレタガ、内務大臣ノ此答辯ハ全部間違デアツテ、内務大臣ハ工業俱樂部ノ實業家ノ代表者數名ト會見ヲナサレテ、其實業家ノ人ニ對シマシテ、若シ普選ガ茲ニ出來ルト斯様ナ微温的ナ法案デハ済マナクナル、ソレダカラ今ノ中ニ此位ノモデ君等ハ我慢シテキタラ宜カラウト云フコトヲ立派ニ其代表者ニ言フテ、御出デニナル(拍手)サウシテ普選ガ出來ツ場合ニ勞働者等ガ此議會ニ出テ來ル、或ハ勞働者ノ意思ガ反映ヲスル其議會ニ於テ、若シ勞働立法ト云フヤウナコトガ出テ來ルト強イモノガ出テ來ル、其時ニ今此生温イモノヲ拵ヘテ置ケバ、斯ウ云フモノガアルカラト云フテ申譯ニナルカラ強イモノハ喰止メルコトガ出來ルデヤナイカ、ソレダカラ君等ハ之ニ賛成シ給ヘト云フコトヲ内務大臣ハ立派ニ言明ヲシテ居ラレル(拍手)併シ是ヲ御忘ニナツタラ致方ガナイカ、工業俱樂部ノ代表者ハ既ニ内務大臣トノ問答ヲ一ツノ膠寫版ニ刷リマシテ、若槻内相ト代表委員ノ數名ノ名ガ立派ニ書イテ、而モ其問答ガ一々舉ゲテアルデハナイカ、私ダケデヤナイ、是ハ世間ニ大分發表サレテ居ルノデアリマスカラ、若槻内務大臣ノ御手許ニモ既ニ行テ居ルデアリマセウ、唯、私が最後ニ言ヒタイノハ斯ル不誠意ナ暗著のナ態度ハ——斯ル勞働者ニ對シテ誠意ヲ持タナイ態度ヲ以テ勞働者ヲ保護シ、勞働者ノ地位ヲ向上セントスル所ノ勞働立法ヲ制定シタ其精神ガ既ニ甚ダ惡イ(拍手)此第一歩ノ精神ヲ誤テ居ルカラ、内容ガ皆誤テ居ルノデアリマスカ、私ハ先ツ内容ニ這入ラヌ前ニ、先ヅ此不誠意ノ精神ヲ一ツ改メナケレバ勞働者保護ト云フヤウナコトハ現内閣デハ言フ資格ハナイト思フノデアル(拍手)以上ノ點ニ付

キマシテ明確ナル御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス(拍手)
○議長(相谷義三君) 若槻總理大臣(國務大臣若槻禮次郎君登壇)
○國務大臣(若槻禮次郎君) 生産ガ勞資ノ協調ニナルモノデアリ、又勞資ガ協調シナケレバ生産ノ良好ナル實績ヲ舉ゲルコトガ出來ヌト云フコトハ、私屢、此席デ述ベタノデアリマス、ソレ故ニ安藤君御質問ノ前置ニ相成テ居ル所ハ私が屢、述ベタ所デ、既ニ御承知デアラウト存ジマス、私モ亦資本家ノミデハ生産ハ出來ヌ、勞働者ノミデモ生産ハ出來ヌ、資本家勞働者ノ協力ニ依テマナケラネバ、生産ヲ有效ニ爲スコトハ出來ヌト云フコトハ、全然御同感デアルト共に、屢、述ベタ所デアリマス、隨テ勞働立法ヲスルニ付テ、資本家ヲノミ限中ニ置イテ立法ヲシテ居ル所ハ、何處デモナイノデアリマス、此勞働爭議調停法モ亦然リデアリマシテ、兩者ノ利益共ニ之ヲ保護スルヤウニ出來テ居ルノデアリマス、第十九條ニ於テ、爭議ノ調停中ニハ、爭議ニ關係ナイ者ハ、勸誘ヲ爲スコトガ出來ヌト云フコトニナツテ、是デ何カ爭議ヲ喰止メテ居ルヤウニ御覽ニナツテ居ルヤウデアリマス、爭議ハナツトモ止メテナイノデアリマス、勞働者ガ同盟罷工ヲシテ居ルナラバ、其同盟罷工ノ狀態ナルモノニハ、何等干渉スル所ハナイノデアリマス、唯、爭議ニ關係ナイ者ハ勸誘シテハナラヌト云フコトハ、第十九條ニハ規定シテ居ルノミデアリマス、而シテ爭議ニ關係ノナイ者ト云フ其勞働者側ノ者ハ、勞働者ハ固ヨリ、其勞働者ガ勞働組合ニ加入シテ居ル者デアリマシテ、其加入シテ居ル勞働組合ガ爭議ニ關係シテ居リマスナラバ、其組合ノ幹部モ亦爭議ニ關係ノアル者ト、第十九條ハ認メテ居ルノデアリ

マス、ソレダケノ範圍ノ者ヲ認メテ、其以外ノ者ハ勸誘ヲ爲シテハナラヌト云フコトニスルノハ、所謂調停ノ目的ヲ達スル爲ニ當然必要デアルト申サンケレバナリマセヌ、第二十條、第二十一條、二十三條ノ規定ハ、一應見ルト云フト公平ノヤウニ見エタルケレドモ、其適用ヲ受クル所ノ人ニ取テハ、其重サガ違フト云フヤウナ御意見デ以テ御質問デアッタヤウデアリマス、是ハ同ジ事ヲシタ者ニ、刑罰ノ方法ヲ別ニスル譯ニ參リマセヌ、ソレデアリマスカラ、同様ニ規定シテアリマスガ、裁判官ガ適用スル時ニハ、此刑罰ノ間ニ於テ適當ニ按配シテ、其制裁ニ應ズルヤウニ判決スルコト、考ヘテ居ルノデアリマス(拍手)
○議長(相谷義三君) 原惣兵衛君(原惣兵衛君登壇)
○原惣兵衛君 本員ハ簡單ニ各條ニ互テノ趣旨ニ付テ若槻内務大臣ノ御答辯ヲ願フ次第デアリマス、先ヅ此内閣ガ根本ニ於キマシテ、社會政策ト云フコトヲ土臺ニ、幾度モ潰口藏相ナリ、又内務大臣ノ御言葉モアツタノデアリマスカ、此立法ノ趣旨ガ社會政策上ノ見地カラ、若シ此勞働法ヲ設置シナカッタラバ、意味ヲ成サナイノデアリマス、隨テ調停法ノ問題モ同時ニ少クトモ之ヲ社會政策ノ立場カラトシマシタナラバ、所謂勞働者ノ利益、是ガ少クトモ資本家ヨリモ土臺ニナラナケレバ、吾々ハナラナイト思フノデアリマス、然ルニハ此勞働者ノ利益ノ規定ト云フコトガ全部缺カレテシマツテ居ヤシナイカト云フ點ヲ、各逐條ニ互テ立法精神ニ付テ御尋シテ見タイト思フノデアリマス、第一第十九條ノ規定ニ於テ、全然第三者ガ干渉スルコトガ出來ナイ、第三者、其爭議ニ關係ノナイ者ハ、第九條ニ規定スル調停手續ノ結了ニ至ルマ

デ、左ニ掲グル目的ヲ以テ當事者ヲ勸誘スルコトヲ得ズアルノデアリマス、ソレハドウ云フコトカト云フタラ、結局爭ニ關係ナキ第三者ト云フ者ハ何ヲ指シテ居ルカト云フト、所謂勞働組合ノ「リーダー」即チ第一線ニ在ッテ一ツノ勞働爭議ガ起ツタラ直ニ之ニ乘込シテ行ッテ、斯ウヤレ、ア、ヤレト云フ勞働組合ノ、少クトモ「リーダー」ヲ指スノデナケレバ結局意味ヲ成サナイト思フノデアリマス、サウナリマス是ニ於テ中込ノ謝絶ヲスルヤウナ勸誘ヲスルコトハ出來ヌトカ、勞務ヲ中止スルコトハイケナイト云フコトハ、何ヲ意味スルカト言ウタラ、即チ一番重要ナル十九條ハ、勞働者ノ即チ罷業權、同盟罷業ヲ爲シ得ルト云フ權利ヲ此所デ止メラレシマツテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、其第一線ニ立ッタ者ハサウ云フ事ハサスコトハ出來ヌゾ、之ヲシタ者ハ——ソコデ第二十條デサウ云フ事ヲシタ者ハ括ッテシマフゾト云フ規定ガ二十條、第二十一條、二十二條ノ規定ニ書イテアルノデアリマス、ソコデ私等思ヒマスノニ、然ラバ當事者——肝腎ノ當事者ト云フモノハドウ云フ關係ニアルノカト云フコトモ、吾々確メナケレバナラヌノデアリマス、即チ罷業權——唯一ノ同盟罷業ヲ爲シ得ルト云フ此勞働者ノ唯一ノ利益ノ點ヲバ、實質上ヤラセナイト云フ規定ニナリハセヌカト思フノデアリマス、此點ニ付テ明確ナル御答辯ヲ願フ次第デアリマス、其次ニ第一條ニ「當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得」ト云フ點デアリマス、是モ一面カラ云ヘバ非常ニ勞働者ノ壓迫ニナルノデアリマス、何故デアアルカト云ヘバ、行政官廳ハ場合ニ依ッテ必要ナリト見レバ、勝手ニヤルコトガ出來ル、サウシテ之ヲ「開設

スルコトヲ要ス」即チ當事者カラ苟モ請求ガアツタラ開設スルコトヲ要スト云フ規定デアツタラ絕對のニヤランナラヌガ、行政官廳、殊ニ資本家ニ——此規定ハ資本家ヲ土臺ニ組立テアルカラ、若モ勞働者カラ請求シテモ都合ガ惡カタナラバ、政府當局——行政官廳ハ勝手ニ此法文カラ開設シヤウト開設シマイト、勝手ニ出來ルト云フコトニナリハシナイカ、即チ「開設スルコトヲ要ス」ト書ケバ宜イケレドモ、「開設スルコトヲ得」デアリマスカラ、行政官廳ノ自由ニナル、サウシタナラバ又勞働者ノ大ナル壓迫デアリハシナイカト吾々ハ思フデアリマス、ソレカラ「ボイコット」ノ規定ナドガ、獨逸ノ規定ナドニ書イテアリマスカ、日本ノニハ書イテアリマセス、私ハ此點モ勞働者ノ爲ニ、例ヘバ「ボイコット」ノ獨逸ノ規定ナドヲ見ルト、ドウ云フコトガ書イテアルカト云ヘバ、同盟罷業ヲシタ連中ガ、少クとも其店ノ信用トカ、秘密ヲ漏洩スルト云フコトハ別問題デアリマステレドモ、吾々ハ今斯ウ云フ立場デ同盟罷業ヲ爲シテ居ル、隨テドウゾ吾々ノ同盟罷業ノ目的ガ貫徹スル間、ドウゾアノ品物ヲ買ハヌヤウニシテ吳レト云フヤウナコトヲ以テ「ボイコット」ヲ聲明スル、是ガ即チ獨逸ノ法律ニ於テハ認メラレテ居ルノデアリマスカ、ソコデ若シ斯ウ云フ規定ガ無イノデアリマスカラ、茲ニ同盟罷業ヲシタ者ガ演說ヲヤッテ——「ボイコット」ノヤウナ内容ノ演說ヲシタナラバ、如何ナル處置ヲ執ルカ、言換ヘレバ勞働者ガ斯ウ云フ演說ヲシタ時ニ、ドウ云フ程度ヲ以テ之ヲ檢束シ、又之ヲ中止スル御積リデアルカ、妙クトモ勞働者ノ保護ノ範圍ハ何所マデ、御認ニナルカト云フ點ヲ御尋シタイノデアリマス、ソレカラ第四條ノ「勞働爭議ノ當事者」ト云フ意

味デアリマスガ、私等ハ此當事者ノ請求ニ依リト云フコトヲ、今若槻內務大臣ハ双方即チ使用者、ソレカラ勞働者ト、兩方ノヤウナ御觀察ガアツタノデアリマスガ、妙クトモ吾々法律家ノ頭カラ當事者ト云フ言葉ハ、原被何レカ一方ノ意味デハナイカト思フノデアリマスガ、其點モ尙ホ御尋シテ置ク次第デアリマス、ソレカラ當事者ノ一方ノ所謂勞働者ノ集團ト云フコトニ付テ、若槻內務大臣ハ團體ノ意味デアルトノ御答ガアツタノデアリマスケレドモ、私等ハ團體ト云フモノハ妙クトモ組合ガ出來、若クハ私ノ理想カラ云ツタナラバ、妙クトモ組合ガダケデナク、勞働協約法ト云フノガ獨逸ノヤウニ出來上テ居テ、ソコニ組合ノ人格ガ認メラレナケレバ、所謂團體ト云フノハ何ヲ指スカ、即チ法律上の確ナ用語ノ意味ヲ成サナイノデアリマス、ソレニ付テ此政府ハ單ナル勞働爭議調停法ト云フモノヲ御出シニナッテ、組合法ヲ御出シニナラヌ、隨テ組合ノ人格者ト云フモノハ吾々ハマダ知ルコトガ出來ナイノデアリマス、此點ニ付テ當事者ト云フ御答ガ明確デアリマセヌガ爲ニ、之ニ就テ御答ヲ願フト同時ニ、組合協約法及此勞働組合法——勞働協約法ト勞働組合法ト二ツノ制定ヲ爲サル御意思ガアルノカ、若シ是ガナケレバ、今言ツタ當事者ノ意味ガ分ラナクナル、隨テ此調停法ダケガ先ニ出テ行クト云フト、全く意味ヲ爲サナイコトニモナッテ來マスケレドモ、果シテ此二法案ヲ將來政府ハ御出シナサル御意思ガアルノカ否ヤト云フコトモ併セテ御聽シテ置ク次第デアリマス、ソレカラ歐羅巴ノ調停法ハ委員會デ調停シタ結果ニハ大ナル羈束力ヲ持ッテ居リマス、併ナガラ日本ニ於テ此委員會デ一ツノ調停ヲ致シマシタ、其結果ニ何等服従スルノ拘束力ヲ持ッテ居リマ

セヌ、即チ服従シヤウトスマイト勝手ニナッテ居リマスガ、若モ調停委員會ノ決議ニ其當事者ガ服サナカタナラバ、如何ナル御處置ヲ御執ニナル御意思ガアルカドウカ、獨逸ニ於テハ勞働大臣、「アルバイトミユスタクーム」ニ於キマシテ、最後ノ調停、即チ上級ハ勞働大臣マデ行クコトニナッテ居リマス、サウシテ勞働大臣ガ最後ノ調停ヲ致シタ時ニハ、ソレニ服サナケレバナラヌト云フコトニナッテ居リマスガ、何等羈束力ナイ所ノ此調停法ノ效力ニ付テ、如何ナル御考ガアルノカト云フコトモ併セテ御聽シタイノデアリマス、ソレカラ第十九條ニ於キマシテノ當事者ノ所謂罷業若クハ怠業、此點ニ付キマシテハ內務大臣ハ是ハ放任デアルト仰セラレマシタガ、私モ放任トハ解スルノデアリマスガ、第三者ノ方ハ、第一線ニ立ッテ勸誘シテア、ヤレ、斯ウヤレト云フ勞働組合ノ「リーダー」ヲ此規定ノ罰則ヲ以テ括ッテシマッテ、當事者ハ然ラバ放任シテ置クカト云フト、大臣ハ放任シテ置クノダ、サウシテ勞働者ノ實際ノ爭議ニ關係シテ居ル者ノ利益ヲ擁護シテ居ルト仰セラレマシタガ、若シソレガ貴方ノ御意思デアラナラバ、少クとも行政ノ執行法並ニ此官吏服務規定ト云フモノノ或ル程度マデ改廢シナケレバナラヌト思フ、例ヘバ成程當事者ハ、是ニ於テ放任シテアル如ク此條文デハ見エケレドモ、行政執行法ノ第一條ヲ御覽ナサイ、若モ公安ヲ害スルヤウナ事ヲヤツタナラバ、直ニ之ヲ檢束スルコトヲ得ルトアル、併ナガラ此放任ヲ同盟罷業ニマデ御認ニナッテ、勝手ニヤッテ宜イトシテ置イテモ、行政執行法デソレヲヤツタラ之ヲ括ッテシマフ、即チ第三者ノ爭議ニ關係ナキ者ガヤツタラ括ッテシマフ、當事者ヲ行政執行法デ括ッテシマフ、ソレカラ官吏服務規

定ニ付テモ鐵道ノ機關手ノ如キハ重大ナル公益ニ關スル者デアリマスカラ、其雇ノ此機關手ト云フモノハ、矢張官吏服務規定ニ對シテ服サナケレバナラヌノデアリマス、ソコデ官吏服務規定ノ此條文ガアルケレドモ、實際ハ鐵道ノ機關手ノ如キモノハ此官吏服務規定ノ準用ガアリマスカラ、結局同盟罷業ヲ爲スコトヤ、勞働爭議ノ仲間ニ這入ッテ、此條文ノ所謂放任サシテ置クト云フ利益ハ何等享受スルコトガ出來ナイ、是ニ於テ一體此内閣ハ民衆ヲ尊バレマシテ、斯様ナ勞働調停法ヲ御出シニナル御意思ガアル位デアリマスカラ、少クとも所謂行政執行法ノ第一條ヲ本當ニ撤回スルコトニナラナケレバ意味ヲナサナイ、サウシテ此官吏服務規定ト云フヤウナモノヲ改正シテ、本當ニ此勞働爭議調停法ニ依ッテ、勞働者ノ利益ト云フモノヲ擁護シナケレバ、何等制定ノ利益ヲ見出し得ナイノデアリマス、ソコデ此治安警察法ノ第十七條ヲ撤廢シテ、此十九條ヲ規定シテ、サウシテ此罰則ヲ二十條デ設ケテ居リマスガ、此點ハ治安警察法十七條ト云フモノヲ撤廢シマシテ、サウシテオ前等勞働者ヲ自由ニサシテヤルト云ウテ、結局此方二十九條ノ規定ヲ設ケテ、オ前等斯ウ云フ惡イ事ヲシタラ、斯ウ云フコトヲスルゾト云フノハ、右ニ牡丹餅ヲ與ヘテ左ニ之ヲ取ツタト同ジデアリマス、ソレデハ私ハ何等立法ノ趣旨ヲ爲サヌト思フ、オ前等ヲ自由ニシテヤルト好イ事ヲ見セテ、一面ニ之ヲ括ッテ居ル、即チ此罰則規定ト云フモノヲ設ケテ置イテハ、治安警察法第十七條ヲ撤廢スルト云フコトハ全く無意味デアル、果シテ當局ハドンナ考ヲ持ッテ居ルノカ、私ハ此點ニ付テ勞働者ヲ擁護スル點カラ見マシテ、又資本家ノ利益ノ點カラ見マシテ、此獨逸ニ於テハ最後ノ通告權ト

云フモノヲ認メラレテ居リマスケレドモ、サウ云フ規定ハ一ツモアリマセヌ代リニ、斯ウ云フコトヲ規定シテアル、コ、一週間ノ間ニ吾々ハ同盟罷業ヲスル、此一週間ノ間ニ處分シナケレバ同盟罷業ヲスルト云フ規定ヲ設ケ、其間ニ資本金ガナシナイデ、サウシテ一週間ニ同盟罷業ヲ行使スルコトガ出来ルヤウニナッテ居リマス、其利益ノ點ヲ一ツモ設ケズ、治安警察法十七條ヲ撤廢シテ勞働者ノ自由ヲ認メテ、此度ハ十九條ヲ設ケテ罰金二百圓ニナッテ高クナッテ居ル、斯ナ矛盾シタコトヲヤッテ、サウシテ吾々ハ民衆政治、普選ヲ即行シテ、本當ノ勞働法ヲ調停法ヲ制定シテ、社會ニ向テ民衆政策ノ爲ニ立ツナドト云フコトハ、實ニ若槻大臣ハ最モ民衆的ナ總理大臣ダト思、テ居リタガ、驚入タル官僚タルモノデアルト思フ、ソレデ果シテ此最後ノ通告權ヲ御認ニナッテ、此十九條ヲ御廢止ニナリ、若シ此通告權ニ違反シタ時ニ於テハ之ヲ罰スルト云フコトニ改正サレテハ如何デアるかト思フノデアリマス、最後ニ私ハ調停委員會ト云フモノハ常設ニシテ置カケレバ——本當ニオヤリニナルナラバ、常設ニシテ置ク方ガ宜イ、サウシテ何所マデモ當事者ノ請求ガアッタナラバ、ソレヲ受入レテ直ニ其審査ニ掛ケナケレバナラヌモノト思フノデアリマス、此點ニ於テ、何故ニ常設ニシナイカト云フ點ニ付テ御答辯ヲ願ヒタイ、ソレカラ先刻若槻內務大臣ノ仰セラレノハ、此公益規定、第一條第一項ニ設ケテアルノハ、是ハ成程仰セノ通り第三者ノ爲ニ公益ノ規定デアルカラ、行政官廳ガ進ンデヤラナケレバナラヌト云フコトヲ吾々ハ認メテ居リマス、併ナガラ第二項ハ全然個人ノ爭議ニ關スル問題デアリマス、一體此條文位マヅイ作り方ハナイ、立法ヲヤル

人ニ似合ハナイ作り方デアル、苟モ第二項ガ斯ウ云フ規定デハナクテ、個人ノ所謂爭議、或ル小企業家、其勞働者ノ場合ノ同盟罷業ヲスル場合ノ規定デアリマスカラ、少クトモ是ハ別ニ規定シナケレバナラヌ、サウシテ其規定スル所以ノモノハ先刻仰セラレタ通り、若槻內務大臣ガ間違テ御答辯ニナッタノカモ知レマセヌガ、雙方ノ當事者ト云フコトニ御改正ニナッタナラバ、吾々ハ是位結構ナコトハナイト思フ、隨テ第二項ノ規定モ雙方ノ——使用者、勞働者、兩方カラ調停委員ニ請求シタ時ニ之ヲ認メルコトニシナケレバ、所謂一方ハ免ニ角之ニ持テ行ッテ繫争ノ具ニ引付ケテ行カウト云フコトニナルカラ、少クトモ先刻藏園先輩ガ言ハレタヤウニ兩方ヲヤラナケレバナラヌ、併ナガラ第一項ノ公益規定ニ付テハ、私ハ大ニ政府ニ對シテ同感ノ點モナイコトハナイガ、第二項ハ少クトモ個人ノ點ニ於テ掲ゲタルカラ、之ニ就テハ雙方ノ當事者ノ請求ト云フコトニ、若槻內務大臣ガ若シ間違テ居リテモ、今仰セラレタヤウナ御意思デアッタナラバ、所謂雙方ト云フコトニ御改正ナサルコトニ願ヒタイト思ヒマスカラ、ドウカサウ云フコトニ願ヒタイト思ヒマス、以上ノ諸點ニ於キマシテ、果シテ內務大臣ノ御意見ハ如何ナル考ヲ御持デアるかト云フコトヲ、明確ナル御答辯ヲ願フ次第デアリマス

(國務大臣若槻禮次郎君登壇)

○國務大臣(若槻禮次郎君) 原君ノ御質問ハ十九條ニ行ッテ、又一條ニ行ッテ、又十九條ニ行ッテ居リマシテ何過モ往復シマスガ、ソレハ貴方ノ御質問ニナリマシタ通りニ御答辯シマス、第一ノ御質問ハ第十九條ノ關係者、爭議ノ關係者ト云フノハ其勞働者ダケデアッテハ本當ニ爭議ヲヤル

コトハ出来ヌ、何トナレバ爭議ヲヤル時ニハ大抵組合ノ幹部ノヤウナ者ガ來テ相談ヲシテ居ルノニ、ソレハ爭議ノ關係者デナイト云フコトニナッタンデハ、勞働者ノ利益ヲ保護スルコトガ大變薄イト云フ意味デ御尋ニナッタヤウデアリマス、所ガソレハ先程安藤君ノ御質問ニ答ヘテ置キマシタガ、此爭議ニ關係ノ無イ者ハ勸誘シテハイケヌト云フ、關係無イ者ト云フノハ勞働者ガ勞働組合ニ加入シテ居テ、其組合ガ其爭議ニ關與シテ居ル場合ナラバ、其勞働組合ノ幹部ハ矢張爭議ニ關係アル者ト見テ居リマス、斯ウ申上ゲタノデアリマスカラ、原君ノ第一ノ御質問ハソレデ御氷解ニナルコトト思フノデアリマス、ソレカラ第一條ニ當事者ガ請求スレバ調停委員會ヲ開クコトガ出来ルトシテアル、サウスルト何々スルコトヲ得トシテアルカラ、又開カヌコトモ出来ルト云フコトニナル、ソレデハイケヌ、必ズ開クヤウニナラナケレバナラヌ、開クコトヲ要スルト書ケバ宜シイト云フ御論ノヤウデアリマス、當事者ノ要求ガアレバ調停委員會ハ行政官廳ハ開クコトガ出来ルト云フ規定デ、行政官廳ニ權能ガ與ヘテアルマスカラ、要求ガアッタラ行政官廳ハ開クノデアリマス、併シ原君ノ言ハレタヤウニ強テ言ッたらバ權能ダケダカラ、開カヌコトモ出来ルト云フ御論モ生ズルノデアリマセウ、元來公衆ノ利益ニ大關係ノアル所デ爭議ガ開ケテ居ルノデアリマスカラ、成ベク早く其爭議ヲ解決シタイノハ、是ハ行政官廳トシテ當然ノ務デアリマス、當事者カラ要求ガアッタラバ、是ハ先ヅ開クモノト御覽ニナッテ宜シカラウト思ヒマス、爭議中「ホイコッ」ト「ヲシタ場合ニハ、其事ノ規定ハ何所ニ其制裁ガアルカ、斯ウ云フ御尋デアリマシタ、「ホイコッ」ト「ヲシタ場合ノ制裁ハ、

此調停法ノ中ニハ何所ニモアリマセヌ、ソレナラバ「ホイコッ」ト「ヲスルコトハ無制裁デアルヤ否ヤ、ソレハ其事柄ニ依リマス、遺方ニ依ッテハ制裁ナイカモ知レマセヌ、遺方ニ依ッテハ治安警察法其他ノ法規ニ觸ル、場合ガ起ルカモ知レマセヌ、ソレハ其「ホイコッ」ト「ノ仕方如何ニ依ルノデアリマス、ソレカラ第一條ノ當事者ト云フノハ、是ハ一方ダケデ宜イ筈ダガ、雙方ガ言ハナケレバナラヌト云フコトニナッテハ、ソレハ面白クナイト云フヤウナ御意見ノヤウデアリマス、第一條ノ第一項ノ當事者ト云フノハ使用者ナリ、勞働者ナリ、何レカノ一方デ宜イデアリマス、必シモ雙方カラ要求スル必要ハ無イノデアリマス、後ニ御質問ニナリマシタ第二項ニ書イテアル所ハ、ソレハ當事者雙方デアッテ、使用者ト勞働者ト双方カラ要求シナケレバナラヌ、第一項ハ公益ニ關スル場合、即チ公衆ノ利益ヲ保護シナケレバナラヌ場合ニハ、當事者ノ何レカノ一方カラ要求スレバ、行政官廳ハ調停委員會ヲ開クコトガ出来ルトデアリマス、之ニ反シテ公衆ノ利益ニ關係ノ無イ爭議ノ場合ニ於テハ、當事者ノ双方カラ要求シナケレバ行政官廳ハ調停委員會ヲ開クコトガ出来ヌ、是ハ一項ト二項ヲ併セテ御讀下サレバ自ラ明瞭デアルト思フノデアリマス、又私ガ先程其當事者ト云フノハ勞働者ノ場合ニハ一時的又ハ永續ノ團體デアルト申上ゲマシタコトヲ以テ、組合法ノ成立シテ居ナイ今日ハ團體ト云フモノハ無イ筈ダト云フ御話デアリマシタ、ソレデアリマスカラコソ、一時的ト云フ言葉ヲ使ッタノデアリマス、爭議ガアレバ必ズ其所ニ一團トナッテ爭議ヲ爲スモノガアル、ソレガ即チ一時的團體デアリマス、一時的團體或ハ永續的ノ團體、ソレガ當事者ニ相成ル次

第アリマス、尙ホ此機會ニ於テ申上デマスガ、先程藏閣君ノ御質問ノ際ニ、政府ハ勞働組合法ヲ兩三日中ニ提出スル運ビニ致ス考デアリマス。ト云フコトヲ申上デマシタガ、只今事務局カラ伺ヒマス、ソレハ政府ノ手續ヲ清シデ議會ニ此組合法ハ提出ニナクサウデアリマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス、ソレカラ原君ノ其次ノ御質問ハ、此調停委員會ノ決定ハ拘束力ガ無イヤウデア、強制力ガ無イヤウデア、ソレナラバ當事者ガ服從セナクナラバドウナルカ、當事者ガ服從セナクレバ其儘デアリマス、力ヲ發揮セナイノデアリマス、其所ニ却テ調停委員會ノ決定ニ妙味ガアルノデア、之ニ強制力ヲ持タセル、ソレナラバ必ズ何時デモソレガ實行セラル、カ、サウ云フ譯ニハ參リマセヌ、強制力ナク、拘束力ナシ、併ナガラ茲ニ道理ノアル決定ガ目ノ前ニアル、ソレナラバ拘束力ナクモ當事者ハ道理ニ依テ反省スルコト云フコトガ出來ルノデアリマス、ソレニ服從セヌト云フ時ニハ道理ガアツテモソレハ用ヒナイト云フノデアリマス、其時ハ已ムヲ得ナイノデアリマス、第十九條デ當事者ト書イテアルガ、此當事者ハ矢張調停委員會ニ係テ居テモ同盟罷工其モノハヤルコトガ出來ル、政府ハ何等之ニ干渉セヌト云フケレドモ、併ナガラサウナルナラバ行政執行法ナリ、官吏服務規律ヲ更ヘナケレバナラヌト云フ御話、私ノ申上デル調停法ノ十九條ハ、當事者ガ同盟罷工ヲスルコトニ何等干渉セナイト云フコトハ、十九條ノ規定其モノ、解釋デアリマス、若シソレ法規ナリ規定ヲ設ケテ何等カ取締ヲシテ居ルト云フコトガアツテ、其取締法ニ反スル行爲ガアリマスナラバ、其法規ノ力ニ依テ制裁ヲ受ケルコトハ固ヨリデアリマス、調停法ノ

十九條ガ關係ガナイト云フノミデアリマス、又官吏服務規律ニ服從シテ居ル者ガ同盟罷工ヲ爲ス場合ガアルカドウカ、私只今直グハ一寸思出セマセヌケレドモ、原君ノ引用セラレタ、鐵道ノ従業員中ニ官吏服務規律ニ服シテ居ル者ガアルト云フコトデアリマス、ソレハ私能ク確メテ居リマセヌ、而シテサウ云フモノガ同盟罷工ヲ爲シ得ル場合ガアルヤ否ヤ、是モ私ハ能ク確メテ居リマセヌノデ分リマセヌガ、假ニ原君ノ言ハレルヤウデアレバ其時ニハ官吏服務規律ノ適用ヲ受ケテ、自由ニ行動ヲスルコトハ出來ヌ、是ハ服務規律當然ノ結果デア、ルノデアリマス、其次ニハ治安警察法ノ第十七條ヲ廢止スルケレドモ、調停法ノ十九條ヲ設ケテ、調停中ハ、勸誘シテナラヌト云フコトヲ規定シタ以上ハ、十七條ヲ廢シタ所ガ、右ノ手デ法律ヲ廢止シテ置イテ左ノ手デマタ同ジ事ヲヤルノデア、ルト、斯ウ云フヤウナ仰セデア、ル、是ハ大變違フノデアリマス、治安警察法ノ第十七條ハ一般ノ場合デア、ル、同盟罷工ヲ——同盟罷業ヲ教唆シタリ、勸誘シタリ、煽動シタリ、サウ云フ場合デアリマス、調停法ノ十九條ハ問題ガ調停委員會ニ係テ居ル時ニハ、關係無イ者ヲ勸誘シテナラヌト云フ極メテ狭イ場合ノコトデア、ル、兩者ノ間ニハ全ク違フテ居ル點ガアルコトヲ御看取願ヒタイノデアリマス、最後ニ何故ニ調停委員會ハ常設機關ニセナカッタノデア、ルカ、是ハマダ日本ニ於テハ勞働組合法ガ實施セラレテ居リマセヌカラ、勞働者ノ側カラ常設ノ調停委員會ヲ取テ行クト云フノニ適任者ヲ見付ケルコトガ今日デハ困難デアリマス、ノミナラズ常設ノ機關ヲ置ケバ費用ノ點モ亦顧ミナケレバナラヌノデアリマス、要スルニ先ヅ此規定ノ如ク適用シテ、ソレカラ常設

機關ニシテモ差支ナイ、又其方ガ實行ガ容易ナルト云フ時ガ來リマシタナラバ、其機關ヲ常設ニスレバソレデ宜シカラウト思ヒマスルガ、第一ノ試ミトシテハ、臨時ノ機關ニシタ方ガ相當デアラウト思フノデアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 多木久米次郎君

〔多木久米次郎君登壇〕

○多木久米次郎君 私ハ一寸簡單ニ伺ヒタイト思ヒマス、實ハ此問題ハ餘程重大ナ問題ト考ヘマス、併ナガラ法文ニ付キマシテハ先輩諸君ヨリ喋々御質問ニナリ、政府モ亦懇篤深切ニ御答ニナリマシタカラ、私ハ強テ此點ニ付テハ伺ヒマセヌ、併ナガラ此調停ノ問題ガ一方ニ局限シテ居ルト云フコトハ如何ナモノデア、リマセウカ、今一ツ更ニ之ヲ擴大シマシテ、全體ノ同盟罷工ヲ普通ノ法律ニ適用スルコト云フコトハ出來ヌデア、リマセウカ、私共ノ願ヒマスル所ハ、罷工同盟ガ發生シテ之ヲ調停スルコト云フコトモ宜シイガ、成ベク是ガ發生シナイ所ノ——發生ヲ未然ニ防グ手段方法ヲ政府ニ御考ガアルマイカドウデア、ルカ、私ガ考ヘマスルト、此勞働ハ神聖デア、ル、勞働無クシテ生産ヲ得ルコトガ出來ヌト云フコトハ申スマデモナイ次第デア、リマスルガ、又資本ト技術ト知識ト土地ト相和シテ、此勞働ノ結果産業ヲ産ミ出スコトハ勿論ノ事デア、リマス、實ニ勞働ハ神聖デア、ル、然ルニ此勞働者ニ限リテハ會社ノ利害ト得失ヲ別ニシテ居ルト云フコトガ、抑、此罷工同盟ヲ發生スル所ノ原因ニナルマイカト考ヘマス、是ハ政府ニ一ツ考ヘテ戴ク必要ハアルマイカ、デア、リマスルカラ之ヲ未然ニ防グトスルナラバ、政府ハ成ベク此會社ノ利益ヲ一割トカ五分トカト云フモノヲ、勞働賃ニ比較シテ之ヲ分配スルコト云フコトヲシテ、會社

ノ利害ト勞働ト一致シテ働クト云フコトニナリマスレバ、同盟罷工ト云フコトガ間接ニ餘程防グコトガ出來ルカト思フノデア、リマス、況ヤ勞働者ガ一舉一動、一遍ノ注意ガ所謂塵モ積リテ山ヲ成スデ、其會社ノ利害盛衰ニハ重大ナル關係ガアルコトハ申スマデモナイ次第デア、リマス、然ルニ此勞働賃ヲ拂テ會社ガ損ガ行ク、或ハ得ガ行クト云フコトハ別個ノ關係ヲ持テ居ルト云フコトガ、是ガ此罷工同盟ニ於テ偉大ナル關係ヲ持テ居ルカノ如クニ私ハ伺ヒマス、殊ニ此會社ノ重役ガ近來無暗ニ賞與ヲ餘計取ルヤウナ傾ガアル、是ハ營利ノ事業トシテ自由トハ申シナガラ、此制限ヲ法律デスル必要ハアルマイカ、ドウデア、ラウカ、政府ハ如何ナル御考デア、ラウカ、之ヲ伺ヒテ見タイ、殊ニ勞働者ガ罷工同盟ト云フモノヲ以テ自己ノ利益ヲ擴大シタイト云フ希望ハ、是ハ人情ノ已ムヲ得ヌ所トハ申シマスケレドモ、近來勞働問題ガ國際問題トナツテ、所謂八時間問題ト云フヤウナ問題ヲ出シテ、此際國際問題ハ平和ヲ希望スル爲ニ勞働問題マデモ組入レテ來テ居ル、此勞働問題ト云フモノガ名ヲ人道ニ藉テ、所謂日本ノ此遅レタル産業、遅レタル不完全ナル工場ニ依テ生産シテ居ルモノガ、國際間ノ交易ニ何時デモ負ケテ居ルノデア、ル、是ハ全ク第三國ノ峻烈ナル外交ニ何時モ政府ガ懸テ居ルノデハナイカト考ヘテ居ルノデア、リマス、御承知ノ通り亞米利加ヘ參リマシテモ、英國ヘ參リマシテモ、此工場ノ完備シテ居ルコトハ驚イタモノデア、リマシテ、日本人ノ能率ニ較ブレバ一人ニシテ五十人百人以上云フ所ノ能率ヲ舉グツ、アツテ、ドウシテ日本ガ國際間ノ貿易商賈ニ打勝ツコトガ出來ルカドウカト云フコトハ、政府モ御同感デア、ラウカト考ヘマス、然ルニモ拘ラズ、

ダ早イヤウニ考ヘルノデアリマス、八時間
労働ト云フヤウナ事柄ニ付キマシテハ、國

際會議ノ問題ニナリテ、華盛頓會議ヲ決定致シテ居ルコトノヤウニ存ジマスガ、日本ハマダ之ニ批准ヲ與ヘテ居ラナイノデアリマス、隨テ日本デハ此八時間労働ノ制ハ採リテ居リマセヌ、大體多木君ノ御心配ニナルノハ、今日ノヤウナ日本ノ經濟界ノ狀態デ、歐米ノ整頓シタ製造工業ト競争シテ行クコトハ容易デナイ、然ルニ拘ラズ八時間労働トカ何トカ云フヤウニ、成ルベク労働ノ時間ヲ少クスルト云フヤウナコトヲシタノデハ、國際競争ノ上ニ於テ、日本ハ劣者ニナル虞ガアル、是ガ多分多木君ノ御心配デアラウト思ヒマス、私モソコハ御同感デアリマス、餘リニ外國ノ制度ヲ模倣シタ結果、國際の經濟競争ニ日本ガ負ケルト云フコトニナリマスレバ、其直接ノ影響ハ直ニ労働者ノ職業ガ減ジテ來ルノデアリマスカラ、其不利ハ矢張労働者ノ頭ニ降り掛ツテ來ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ國際競争ノ上ニ不利ヲ見ルヤウナコトヲ敢テスルト云フコトハ、一國ノ爲ニ宜シクナイノデアリマスカラ、ソコガ政府ガ心配シテ労働立法ヲスルニ付テモ、國情ヲ顧ミテ國情ニ適合シタヤウナ労働立法ヲシヤウト云フコトヲ心掛ケテ居ル次第デアルノデアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 原夫次郎君

〔原夫次郎君登壇〕

○原夫次郎君 私ハ此労働問題ニ造詣深キ同僚諸君ノ後ヲ承ケマシテ、此處ニ立チマシタノハ、政府ノ御答辯ニ依テドウシテモ理解ノ出來ナイ點ダケヲ極ク簡單ニ、骨ダケヲ茲ニ羅列シテ政府内務大臣ノ御答辯ヲ促サントスル者デアリマス、先ヅ第一ニ此調停法ノ立テ方ト云フモノガ、所謂労働調停委員會ノ構成ニ當事者雙方ノ委員各三名

宛ヲ加入セシメタル點デアリマス、一體此
調停ナルモノハ恰モ裁判ト同ジコトデア
ル、一種ノ事件ヲ和議ニ依リテ裁斷スルト
云フ一ノ調停法デアルノデアリマス、デア
リマスカラ此調停委員ナルモノハ妙クトモ
争アル所ノ原被兩造ヲ取除イタ所ノ調停委
員デナケレバナラヌト云フコトハ、是ハモ
ウ調停ナルモノ、大原則デアラネバナラ
ヌ、然ルニ何デアリマセウ、本法ニ於テハ
表面、名ハ争議調停法ト言ヒナガラ、其調
停委員會ノ構成員ニ現ニ争アル所ノ一争
ヲシテ其申立ヲ致ス所ノ或ハ資本家側、或
ハ職工側ノ委員ヲ三名宛加ヘルト云フコト
ハ、一體如何ナル意味デ此調停法ヲ立案致
シタルデアルカ、是ガ私ノ質問致シタイ第
一點デアリマス、第二點ト致シテ本法調停
委員會ガ當事者ノ請求アル場合ト、無キ場
合トヲ區分致シ、而シテ當事者ノ請求ナキ
場合ニ一行政官廳ノ力ニ依テ此委員會ヲ開
設スルコトガ出來ルト云フコトヲ第一條ニ
先ヅ規定致シテ居ル、是ハ果シテ如何ナル
理由ニ基クモノデアルカ、抑、争ヲ調停ス
ルト云ヘバ、兩方ノ争アル者ガ申立ヲ爲ス
ト云フコトガ普通ノ狀態デアラネバナラ
ヌ、然ルニモ拘ラズ當事者雙方ノ争ヲ爲シ
テ居ル者ハ、此争ヲ調停シテ貰ヒタイト云
フ其希望ハ毫末モ無イ、毫末モ無イニ拘ラ
ズ、其争ヲ行政官廳ノ眼鏡ニ依リテ之ヲ引
上ゲテ、調停委員會ヲ制定致スノデアルト、
斯ウ云フ規定デアリマス、是ハ果シテ如何
ナル趣意ニ基クモノデアルカ、此規定ノ與
底ニハ、是マデ同僚諸君ガ質問セラレタ所
デ、略、想像スルコトガ出來ルノデアリマ
スアレドモ、洵ニ不都合千萬ノ法律ト謂ハ
ザルヲ得ナイ、試ニ此法條ノ内容ニ付テ點
檢致スト云フト、先ヅ法案ノ第四條ニハ、
労働争議ノ當事者ガ第二條ノ規定ニ依リ通

知ヲ受ケタトキニハ、三日ノ内ニ委員選定
ノ届出ヲ行政官廳ニシナケレバナラヌト云
フ規定ガアル、此三日ノ期間ト云フモノハ、
争アル場合ニ於テハ殆ド一週間ノ時間ニモ
掛合ハナイ位デアル、大キナ労働争議ニア
リマシテハ——然ルニ之ヲ僅ニ三日ト致シ
テ置イテ、而シテ第四條ノ第二項ニ於キマ
シテハ、若シ當事者ガ届出ヲ爲サナカッタ
トキニハ、行政官廳ハ勝手ニ當事者ニ代ル
ベキ委員ヲ選定致スコトガ出來ル、而シテ
此行政官廳ガ勝手ニ選定致シタル所ノ委員ナ
ルモノハ、是ハ届出ヲ爲サナカッタル當事
者ノ選定致シタルモノト看做ス、法律ニ於テ
是ダケノ強制力ヲ與ヘテ居ルノデアリマ
ス、期間ノ短キコト、並ニ斯ノ如キ委員選
定ニ付テ強制力ヲ附與シタル所ノ理由ハ、
吾々ニ理解スルコトガ出來ナイ、恐ラクハ
此法律ノ裏面ニハ、幾多ノ問題解決ヲ含蓄
致シテ居ルモノト見ルノハ、蓋シ當然デア
ラウト思フノデアリマス、第三點ト致シテ、
本法ニ農業労働ナルモノヲ包含セシメタル
デアルカ、又之ヲセシメナイノデアルカ、
何レト致シテモ政府當局ノ其理由ヲ附シタ
ル答辯ヲ要求致スノデアリマス、言フマデ
モナク農業労働ニ付テハ、彼ノ國際労働會
議ニ於キマシテハ、之ヲ労働者ニ編入ヲ致
シテ居ルノデアル、隨テ我國ノ小作人ノ如
キマデモ、是ハ労働者デアルト萬國會議デ
ハ看做シテ居ルノデアリマス、所ガ本法ニ
於キマシテハ、之ニ關シテ如何ナル見解ヲ
持テ居ルカト云フコトヲ御尋致スノデア
リマス、最後ニ本法第一條ニ規定致シテ居
ル第一條ノ第五號第六號並ニ第六號デアリ
マス、此第五號第六號ニ付テハ、是マデ同
僚諸君モ質問致サレテ居ルノデアリマスレ
ドモ、私ハ質問ノ方向ヲ異ニスル者デア
リマス、即チ第五號ニハ「其ノ他公衆ノ日

常生活ニ直接關係アル事業ニシテ勅令ヲ以
テ定ムルモノ、第六號ニハ「陸軍又ハ海軍ノ
直營ニ係ル兵器艦船ノ製造修理ノ事業ニシ
テ勅令ヲ以テ定ムルモノ」此勅令ニ讓リテ居
ル規定其モノニ付テ、甚ダ疑問ニ堪ヘナイ
點ガアルノデアリマス、先程來若槻内相ノ
答辯ニ依ルト云フト、此勅令ヲ以テ定ムル
ト規定致シテ居ル此勅令ニ付テハ、政府ニ
於テハ未ダ具體的ノ案ヲ有シナイ、又此勅
令ニ如何ナル事ヲ規定スルカト云フコト
モ、今日マダ審議致シテ居ナイト云フコト
ノ答辯デアッタノデアリマス、是ニ於テ私ハ
其無責任ニ驚イタノデアリマス、加之一體
第一條ノ第一號カラ六號マデ列舉シテアル
所ノ事項ト云フモノハ、本法ニ於テノ爭議
ノ原因デアル、此根本ノ條項ニ屬スルモノ
デアル、然ラバ即チ法律ノ規定事項デアッ
テ、何レモ是ハ勅令事項デナイト云フコト
ハ、法律ノ見識ノアル者ハ一見シテ誰モ肯
定スル問題デアラネバナラヌ、然ルニ拘ラ
ズ、本法ニ於テ政府ガ考ヘ付カナイデ居ル
所ノ事項ヲ、先ヅ頭ヲ出サシテ置イテ、是
ダケノ事項ハ、是ハ後日政府ガ勝手ニ樞密院
ト相談シテ規定スルガト云フ遺方デアル、
斯ウ云フ事ハ斷ジテ我ガ憲法ニ許サザル
事柄デアリマシテ、勅令事項デナイト云フ
コトハ、私ガ茲ニ太鼓判ヲ捺シテモ保證
スルコトガ出來ル問題デアルト思フ、一體
現政府ノ遺方ヲ見ルト云フト、過日モ私ガ
豫算委員會ニ於テ論ジマシタル如ク、彼ノ
貴族院ノ互選規則ノ問題ニシテモ、是ハ一
ツノ勅令デアル、或ハ又同僚山崎君カラ質
問ニナリマシタ彼ノ服役問題ノ如キモ勅令
デアル、現政府ノ遺方ト云フモノハ、少シ
ク勅令ヲ濫用スルノ氣味ガアルコトデア
ル、一體兩院議會ニ於テハ、法律事項ナル
モノハ、ドウシテモ兩院ノ協賛ヲ得ルニ非

ズンバ、天下ニ公布スベキモノデナイノデ
アリマス、然ルニ拘ラズ、本法ニ於テ此大
キナ爭議問題ノ根本義ヲ兩ツナガラ之ヲ勅
令ニ讓ルト云フコトハ、何タルコトデアリ
マスカ、是ハドウシテモ勅令ニ讓ルベキモ
ノデナイ、法律ノ規定事項デアルト私ハ考
ヘル、然ルニ拘ラズ、政府ガ勅令ヲ以テ定
ムルト云フコトハ、一體何タル意味デア
ルカト云フコトヲ御伺致シタイ、之ニ就テ私
ハ尙ホ附加シテ申上ゲナケレバナラヌ事
ハ、今日労働問題ナルモノハ、世界各國ヲ
通ジテ社會政策ノ最も必要ナルモノデア
リマシテ、社會政策ノ殆ド根幹ヲ成スモノデ
アル、ソレデアリマスカラ、先進各國ニ於テ
ハ、爾來労働問題ノ労働立法ト云フコトニ
付テハ、朝野共ニ非常ナル力ヲ盡シテ居
ルノデアリマス、所デ我國ニ於キマシテ、現
政府ハ殊ニ此社會政策問題ヲ忘レテ居ルノ
觀ガアル、先程來總理ノ施政方針ノ演説、
若クハ濱口大藏大臣ノ財政演説ニ對スル質
問モ、殆ド全部ノ質問ト云フモノハ、此社會
問題ヲ現内閣ハ如何ニスルカト云フ問題ニ
集中致シテ居ルノデアリマス、然ルニ現内
閣ハ此社會問題ニ付テハ無理解デアルト云
フコトハ、斯ウ云フ法案ヲ出スニ至ッテモ、
吾々ハ是ハ良キ證左デアルト考ヘルノデア
リマス、ソコデ私ナドノ考ヘル所ニ依リマ
スト云フト、又前來質問者諸君ノ意向ヲ伺
テ見マシテモ、政府ガ將ニ二三日後ニ提案
セント致ス所ノ彼ノ労働組合法案ナルモノ
ヲ後ニ廻シテ、其基本タル法律ヲ吾々ニ示
サナイデ以テ、先ヅ第一番ニ此枝葉デア
ル所ノ労働調停法ト云フヤウナモノヲ先ヘ提
案スルト云フコトハ、第一番ニ問題ツク問題デ
アリマス、先程内務大臣ハ此法案ノ第一條
ノ解釋ニ當リマシテ、行政官廳ハ當事者ノ
請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトガ出

來ルト云フ此規定ニ付テ、當事者トハ何デアルカト云フ質問ニ對シテ、是ハ當事者ト云フノハ幹部ノ意味デアル、幹部ヲ豫定シテ此立法ヲ致シタルデアルト云フ辯解デアッタ。答辯デアッタデアリマス、併ナガラ諸君如何デアリマセウカ、當事者ガ幹部デアルト云フナラバ、資本主側ニ於テモ幹部アリ、労働者側ニ於テモ幹部アラザルヲ得ナイ、然ルニ我國ノ現情ニ照ラシテ見マスルナラバ、労働組合ト云フモノガ未ダ制定ニ相成ラナイデ居リマスル今日ニ於テ、果シテドレ等ガ幹部デアるかト云フコトハ、到底是ハ申スコトハ出來ナイ、然ルニ本法ノ制定ノ根據ハ、當事者ト云フモノハ幹部主義ヲ採テ、此法律ヲ制定シテ居ルモノデアルト云フコトハ、何ノ意味デアリマスカ、一向分ヲナイ、次ニ又此第十九條ニ對スル若槻内務大臣ノ答辯ニ見マシテモ、茲ニ労働爭議ニ關係ノ無イ者ニ付テハ、煽動其他ノ事ヲ罰スル意味デアッテ、幹部ノ如キ關係ガアル者ハ、同盟罷工デモ何デモ、煽動シテモハ罰スルノジヤナイト、斯ウ云フ獨斷的ノ御解決ニナッテ居リマスケレドモ、斷ジテサウ云フ解決ハ出來ナイデアリマス、第十九條ヲ見ルト云フト「現ニ其ノ爭議ニ關係ナキ者ハ」トアル、「現ニ」ト云フ文字ガアリマスガ按ニ、先程申サレタヤウナ若槻内務大臣ノ獨斷ナル解釋ヲ下シテモ、ソレハ唯、此所デ言拔ヲスルダケノ問題デアッテ、後日は裁判ニナツタリ、或ハ檢舉セラレタル場合ニ於テハ、内務大臣ノ今日ノ答辯ハ何ニモナラナイデアアル、以上申述べタヤウナ次第デ、私ハ茲ニ内務大臣ニ、新ナル私自身ノ一ツノ調停法ヲ提出シヤウト思フ、其私ノ調停法ト云フノハ、以上私が質問申上ダタヤウナ趣意ニ依テ先ヅ此爭議ノ調停法ト、治警

第十七條ノ此改正法律案ト云フモノハ、殆ド是ハマダ政府ノ法案ト名ヅクコトノ出來ナイ、内務省ノ是ハ殆ド未定稿位ノモノデアアル、此兩法案ノ審議ハ、二三日後ニ提案セラルベキ労働組合法ト云フ、労働問題ニ關スル基本法ノ審理ヲ爲シテ、而シテ其審理決議ヲ經テ後マデ、此審議ハ委員會ニ於テ審議ヲ見合セテ置イテモ差支ナイデハナイカ、若槻内務大臣ノ其點ニ關スル御見解ハ如何デアリマスカ、私ノ此調停ニ對シテ異議アリヤ否ヤ、此點ヲ御伺致シテ置クノデアリマス

〔國務大臣若槻禮次郎君登壇〕

○國務大臣(若槻禮次郎君) 調査委員會ニ當事者双方ヲ加ヘマスノハ、當事者ノ代表ヲ出席セシメテ、互讓ノ精神ニ依テ適當ナル解決案ヲ得セシメンガ爲デアリマス、第二ノ御質問ノ行政官廳ガ必要ト認メタ時ニ調停委員會ヲ開クコトヲ得ルコトニ致シマシタノハ、公衆ノ利益ト云フ重大ナル利益ヲ保護セナケレバナラヌ必要ガアル爲デアルデアリマス、調停委員會ヲ開クト云フコトニ決定シタナラバ、三日間ニ委員ヲ選任セナケレバナラヌト云フ事柄ハ、成ベク速ニ爭議ヲ解決セシムルガ爲デアルデアリマス、此労働爭議調停法ハ小作爭議ヲ含シテハ、小作爭議ハ此中ニハ含マヌノデアリマス、唯、農業労働者ト云フモノガ別ニアッテ、大耕作者ニシテ労働者ヲ使ッテ居ルヤウナ者ガアッテ、ソレガ爭議ヲ致ス場合ニハ、矢張此労働爭議調停法ニ依テ調停スルノデアリマス、第一條ノ第五號、第六號ガ勅令デ規定スルモノトシテアルコトガ、甚ダ不都合デアルト云フコトデアリマスケレドモ、勅令デ規定スルガ爲ニハ條件ガ定メテアル、ソレハ日常ノ生活ニ直接ノ關係

アルモノト云フ制限ガ第五號ニ於テハ加ヘテアル、第六號ニ於テハ陸軍又ハ海軍ノ直營ニ係ル其艦船、兵器ノ製造、修繕事業ト云フ、サウ云フヤウナ限定ヲシテ、而シテ勅令ニ讓テアルノデアリマス、斯ノ如ク大體法律ニ條件ヲ定メテ、サウシテ其細目ヲ勅令ニ讓テタ例ハ、道路法其他澤山アルノデアリマスノデ、此法律ニ於テ斯ノ如ク規定シテ何等妨ダナイデアリマス

○井本常作君 日程第一及第二ニ對スル質疑ハ此程度ヲ以テ終局セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成「贊成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセウカ

〔異議ナシ「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ質疑ハ終結致シマシタ。日程第三、右各案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第三 右各案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○井本常作君 各案ヲ一括シテ議長指名、特ニ二十七名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成「贊成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセウカ

〔異議ナシ「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ。日程第四、明治四十年法律第二十一號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス。昌谷政府委員

第四 明治四十年法律第二十一號中改正法律案(樺太ニ於ケル租稅ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會

明治四十年法律第二十一號中改正法律案
明治四十年法律第二十一號中左ノ通改正ス
第一條第一項中第五號ヲ削リ第六號ヲ第五號トス
附則
本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前遺石數ヲ査定シタル醬油及査定スヘカリシ醬油ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
〔政府委員昌谷彰君登壇〕
○政府委員(昌谷彰君) 提案ノ理由ヲ極ク簡單ニ申上ダマス、内地ニ於ケル醬油稅廢止ニ伴ヒマシテ、是ガ均衡ヲ保ツ爲ニ、樺太ニ於テモ亦同稅ヲ廢止スル必要ヲ認メマシテ、本案ヲ提出スルコトニナツタノデゴザイマス、御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ望ミマス
○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ付テ質疑ノ通告ガアリマス。石坂豐一君
〔石坂豐一君登壇〕
○石坂豐一君 極メテ簡單ナ法律デアリマスルガ、私ハ本案ニ付テ疑ヲ持ツモノデアリマス、如何トナラバ凡ソ政府ガ豫算ニ關係アル所ノ法律案ヲ提出セラレル場合ハ、必ズ其豫算ニ適合スルヤウニ組立テラレナケレバナラヌコトハ、申ス迄モナイコト、信ズルノデアリマス、一般會計ニ於キマシテモ、目下稅制整理ノ案ガ出テ居リマス、其稅制整理ノ案ニ適合スルヤウニ、總テノ豫算ガ組立テラレテ居ルノデアリマス、別途提出サレテ居リマス所ノ大正十五年度ノ豫算ヲ調ベテ見マスルト云フト、一般會計及各特別會計ヲ通覽致シマシテ、内地ノ稅制

整理ト伴ツテアルノハ、臺灣ノ織物消費稅及樟太ノ酒ノ引上デアリマス、サウシテ只今ノ此法律ニ依ッテ廢止セントスル所ノ醬油稅ハ、明ニ大正十五年度ノ樟太廳特別會計ノ豫算ニ計上シテアルノデアリマス、茲ニ於テ私ハ疑ヲ挾ムノデアアル、大正十五年度ニ於テ醬油稅ヲ徵收スル如ク見込ナグ所ノ豫算案ガ出デ居ル、其一面ニ於テ只今突如トシテ此醬油稅ヲ大正十五年度ニ廢止スルト云フ法律案ガ出タノデアリマス、若シ是ガ一般會計ニ於テ斯様ナ事ガ現ハレタナラバ、諸君ハ如何ニ考ヘラレマスカ、樟太ノ特別會計ガ如何ニ小サイト申シマシテモ、法律上ノ取扱ハ同一デナクテハナラヌノデアリマス、斯様ナ事柄ハ洵ニ明々白々タル事デアッテ、敢テ疑ヲ挾ムノ必要ガナイノデアアルニモ拘ラズ、此場合ニ於テ斯様ニ法律案ト豫算案ト矛盾シタ所ノ案ガ現ハレマシタコトハ、吾々ハ頗ル疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、ソレデ私ハ敢テ政府ニ伺ヒタイコトハ、吾々ハ一面ニ於テハ豫算ニ協賛ヲ求メラレテ居ル、又一面ニ於テ其豫算ヲ覆スガ如キ法律案ヲ提出セラレルト云フコトハ、吾々ハ茲ニ協賛權ヲ行使スルニ方ッテ、一様ノ方面ニ行使シナケレバナラヌ、全ク岐路ニ立ツノデアリマス、斯様ナ事ハ全ク當局ノ不調ベカラ起タ事デハアリマセウガ、當院ニ對スル責任ハ頗ル容易ナラザルモノデアアラウト考ヘルノデアアル、若シ斯様ナ事ガ他ノ法律案ニ現ハレタナラバ、諸君ハ何ト仰セラレマスカ、斯ノ如キ惡例ハ蓋シ今回ヲ以テ嚆矢トスルコトデアアラウト信ズルノデアアル(ヒヤ)私ハ此法律ハ簡單ナリト雖モ等閑ニ附スベカラザルモノト信ジマスルガ故ニ、茲ニ質問スルノデアリマスルガ、政府ハ此際本案ヲ撤回スル意思ヲ御持ニナッテ居ラヌカドウ

カ、此事ヲ伺ヒタイノデアアル、先以テソレヲ伺フタ上ニ、更ニ第二ノ質問ヲ致シマス

〔政府委員昌谷彰君登壇〕

○政府委員(昌谷彰君) 御答致シマスガ、此法律案ニモ御覽ノ通りデアリマシテ、附則トシテ過渡期ノ規定ガゴザイマス、是デ廢シマシテモ大正十五年度ニ醬油稅ガ全ク無クナッテハ居ラヌノデアリマス、隨テ豫算ノ上ニ若干ノ——僅カ千七百圓ノ金デゴザイマス、之ヲ見積リテアリマシテモ差支ナカラウカト存ジマス

〔石坂豐一君登壇〕

○石坂豐一君 甚ダ奇怪ナル答辯ヲ得マシタ 豫算ニ編成シテアルノハ、即チ附則ニ書イテアル所ノ遺石稅ノ殘リノモノヲ査定スル爲ニ、整理課目トシテ編成シテアルノデアアルト云フヤウナ御説明ヲ得タノデアリマス、是ハ實ニ本院ヲ胡麻化ス説明ト言ハナケレバナラス、明ニ豫算ニ於テハ前年通り二千五百四十七石ト云フモノヲ前年以上ニ見込シテアルノデアリマス、整理課目ヲ編成スル場合ニハ、一般會計ニ於テモ明ニ左様ナ方法ヲ執ッテ居リマス、一般會計ニ於テモ織物稅、通行稅、其他總テ整理課目ノヤウナモノハ明記シテアルノデアアル、是ハ前年ト同様ニ普通ノ狀態ニ於テ取ル、即チ前年ノ狀態ニ於テ取ルコトニ出來テ居ルノデアアル、斯様ニ豫算ト法律ト矛盾著ノ法律案ヲ提出シテ、之ニ理由ガアルト云フノハ、何ト説明セラレテモ了解ガ出來ナイ(ヒヤ)〔拍手〕全ク此法律案ヲ撤回セラレカ、但シハ豫算ヲ更正セラレル外途ガナイノデアアル、此點ニ付テ今一應御説明ヲ聞キタイ(答辯ノ要ナシ)〔答辯スベシ〕ト呼フ者アリ

〔政府委員昌谷彰君登壇〕

○政府委員(昌谷彰君) 只今申シマシタ通

リ：(發言スル者多シ)

○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス

○政府委員(昌谷彰君)〔續〕 豫算ニ或ル金額ガ見積リテアリマシテモ別ニ差支ナイト存ジマス、本案撤回ノ意思ハゴザイマセヌ

○石坂豐一君 議長

○副議長(小泉又次郎君) 石坂君ハマダ御質問デスカ——石坂君

○石坂豐一君 私ハ只今ノ政府委員ノ……〔モウ止セ〕〔登壇々々〕ヤレ——其

他發言スル者多シ

○副議長(小泉又次郎君) 石坂君ニ許シマシタ

〔石坂豐一君登壇〕

○石坂豐一君 只今ノ説明ニ依リマス、本案ヲ撤回シナイ(發言スル者多シ)

○副議長(小泉又次郎君) 私語ヲ禁ジマス

○石坂豐一君〔續〕 政府ハ本案ヲ撤回シナイト云フコトニナルナラバ、政府ハ豫算ノ協賛ヲ求メラレルノデアアルカ、豫算ノ協賛ヲ求メラレルナラバ、吾々ハ樟太廳ノ豫算ヲ返上スル外ナイノデアアル(ヒヤ)〔斯様ナ處置ヲ執ッテモ宜シイノデアアルカドウカ、其點ヲ聞キタイ、併シ是ハ恐クハ政府委員デハ説明ガ出來マスマイカラ、私ハ此答辯ヲ留保シテ置キマス(ヒヤ)〔拍手〕總理大臣ヲ出セ〕進行々々ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 日程第五、右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第五 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○井本常作君 本案ハ政府提出所得稅法中

改正法律案外二十七件ノ委員ト同一委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシノ聲起ル〕

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○作間耕逸君 議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ政府ノ同意ヲ得テ殘餘ノ日程ノ審議ヲ後廻シト爲シ、此際曩ニ採決ヲ延期セラレタル議員田淵豐吉君懲罰事犯ノ會議ノ續ヲ特ニ開カレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシノ聲起ル〕

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナケレバ政府ノ同意ヲ求メマス——政府ノ同意ヲ求メマシタ(一人モ居ナイデヤナイカ)ト呼フ者アリ、笑聲)只今ハ言葉ノ誤リデアリマス、政府ノ同意ヲ得タノデアリマス——仍テ日程ハ變更セラレマシタ、懲罰事犯ノ議事ハ秘密會ナルニ因リ傍聽人ノ退場ヲ命ジマス

議員田淵豐吉君懲罰事犯ノ件

午後五時三十九分秘密會ニ入ル
午後六時四十六分秘密會ヲ終ル

○副議長(小泉又次郎君) 是ヨリ會議ヲ公開致シマス、——傍聽人ノ入場ヲ許シマス、田淵君ノ入場ヲ許可致シマス——秘密會ノ結果ヲ御報告致シマス、秘密會ニ於テハ議員田淵豐吉君懲罰事犯ノ件ヲ議決致シマシタ、仍テ其議決ニ基イテ宣告ヲ致シマス、田淵君ハ……宣告ヲ致シマス、議院法第九十六條第一項第一號ニ依リ議員田淵豐吉君

ヲ譴責ス

○作間耕逸君 殘餘ノ日程ハ延期セラレン
コトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイト認
メマス、諮問事項ガアリマス、第三部選出豫
算委員吉良元夫君、第三部選出懲罰委員金
澤安之助君、第四部選出豫算委員浦山助太
郎君、第六部選出豫算委員三土忠造君、第九
部選出懲罰委員中野實君、右何レモ常任委
員辭任ノ申出ガアリマシタカ、許可スルニ
御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ガナケレ
バ許可致シマス、仍テ其部ノ諸君ハ速ニ補
闕選舉ヲ行ヒ御届アランコトヲ望ミマス、
吹回ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、
今日ハ是ニテ散會致シマス

午後六時四十七分散會